



# 即刻開悟の鍵 2

スプリームマスター チンハイ  
The Supreme Master Ching Hai

# 即刻開悟の鍵 2

スプリームマスター チンハイ



目次

スプリームマスター チンハイのプロフィール 愛の道	5
1 世界の終末を救う方法	11
2 私たちは黄金時代に踏み出している	41
3 修行は世界により文明をもたらす	85
4 夢から覚める	129
5 財力と権力	169
6 開悟は肯定的なパワーを呼び覚ます	191

	7
天国からの完璧な衆生	245
8	
内在の宝物を見付ける方	261
印心―観音法門	301
出版物の紹介	305
私たちへの連絡方法	311

## スプリームマスター チンハイのプロフィール…愛の道

スプリームマスター チンハイは、世界的に有名な靈性の指導者であり、芸術家、慈善家であります。彼女の愛の心はあらゆる文化と人種の壁を越えて、世界中の隅々まで届いています。マスターはオウラック（ベトナム）の中部に生まれ、青年期にはヨーロッパに留学し、そこで赤十字に勤務しました。その間、彼女は世界の至る所に、苦難に満ちていることを目の当たりにしました。それで苦難からの救済方法を探し出す決意をし、これが人生の目標となりました。当時スプリームマスター チンハイはドイツ人の医師と結婚していて、幸福な家庭生活を送っていました。別れることは彼らにとって極めて困難な選択でしたが、彼女は最後には、夫の祝福のもと夢を求めて旅立ちました。スプリームマスター チンハイは求道の旅を始め、靈性の開悟を追い求め、最後にヒマラヤで悟りを開いたマスターから、内面の光と音を観るメディテーション法門を伝授されました。これは後に彼女が伝授している「観音法門」です。彼女はある期間、修行に精進し、完全に悟りを開きました。

一九八〇年代に、スプリームマスター チンハイ インターナショナル アソシエーションが発

足されました。そのアソシエーションの主旨はマスターの教理です。そして人々の真摯な要望により、スプリームマスター チンハイは「観音法門」を伝授し、人々に自分の内面の偉大な本質を見付けだすよう、励ましてきました。後にアメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、アフリカの五大洲と国連の招聘に応じ、現地に赴き講演をしました。

スプリームマスター チンハイは慈悲にあふれ、貧困弱者に力を尽くして援助しています。彼女の慈善活動は世界のあらゆる境界を越え、世界各地の貧しい人々や、苦しい状況にある老人、受刑者、心身障害者、ホームレス、アメリカの退役軍人たちにまで及んでいます。地球温暖化により、さまざまな危機を誘発している現在、スプリームマスター チンハイは数百万ドルを寄贈して、人道的援助を行うと同時に、インターナショナルアソシエーションのメンバーが世界各地に赴き、被災者を助けるよう指示し、数えきれない人々を助けてきました。その他、スプリームマスター チンハイの愛は、地球上の貴重な友である動物や生態環境にまで及んでいます。彼女の慈悲深い愛は、世界の多くの人々を感動させ、人々に無私の愛の手本を示しました。マスターはまた、絵画、ランプのデザイン、ファッションデザイン、ジュエリーデザインなどの芸術創作活動を通して得た収益を、助けを必要とする神の子たちのために使っています。

近年、スプリームマスター チンハイは三部作を出版しました。「バード イン マイライフ」「ドッグ イン マイライフ」「気高い野生動物」この三部作はいずれも国際的にベストセラーに

なり、さまざまな言語に翻訳されました。これらの本はマスターが霊的なコミュニケーションと洞察力をもって、人類の友である動物たちの情感と考えを記録したもので、動物たちの高貴な精神と無私の愛を表したものです。

また道徳を広め、人々に見習うよう励ますために、スプリームマスターチンハイは二〇〇六年三月に「輝く世界の指導者賞」を設け、後にまた、「輝く世界の英雄賞」「輝く世界の愛情賞」「輝く世界の誠実賞」「輝く世界の発明家賞」などを設けました。これらの賞の受賞者は個人もいれば、国家や団体も含まれています。彼らは世界に手本を示し、平和と美しい地球の持続的発展のために大きな貢献をしました。たとえば、スロバニア共和国の第二代大統領ヤネス・ドルノウシエク博士、アメリカの第四五代副大統領アル・ゴア（国連気候変動に関する政府間パネルと共同で二〇〇七年ノーベル平和賞を受賞）、国連気候変動に関する政府間パネル議長、インドのエネルギー研究所の所長のラージェンドラ・パチャウリー博士（二〇一〇年に

UN-HABITAT 都市スピーチ賞を受賞）、NASAゴダード宇宙科学研究所主任研究員ジェームス・ハンセン博士（二〇〇九年にロスビー研究賞を受賞）、イギリスの有名な霊長類学者ジェーン・グドール博士です。

スプリームマスターチンハイも「輝く世界の英雄賞」「輝く世界の知性賞」を人類のよき友である動物たちに授与しました。もって動物たちが危険を顧みず、他の命を助けだした無私で



健全な行動を称え、動物たちの愛に満ちた勇氣と聡明さと思いやりの精神を称えました。

スプリームマスター チンハイは靈的な面だけでなく、物質面でも世界に多大な貢献をしています。彼女自身はいかなる報いも求めていませんが、世界各国の政府や非営利団体は彼女の献身的な奉仕を称えて多くの賞を授与しました。たとえば、二〇〇六年グシ平和賞、二〇〇六年第二七回テリー賞銀賞、二〇〇二年ロサンゼルス・ミュージック・ウィーク表彰状、一九九四年世界精神指導者賞、一九九四年世界市民人道主義者賞などです。この他にアメリカ政府の官僚から、二月二二日と一〇月二五日をチンハイデーと定められました。今でも彼女はこの世界を助けるために全力を尽くしています。数多くの世界のリーダーたちと民衆は、彼女に対し感謝しています。

スプリームマスター チンハイは環境保全の先駆者としても有名です。彼女は智慧と勇氣をもって、気候温暖化問題に対し、警告を發しました。実際、彼女は二十数年前から、すでに環境保全を呼びかけています。彼女が「もう一つの生き方」、「SOS地球温暖化を阻止しよう」という活動を地球規模で展開し、地球温暖化阻止国際会議にも出席し、ゲストとして、基調報告を行い、人々に現在世界的に頻繁に起きている、災害の根本的な原因と解決の道を示しました。それはつまり、慈悲深い、ビーガンライフスタイルです。現在、人々によく知られている「ベジタリアン」になって、平和な世界を創る」これはスプリームマスター チンハイが發案したスロ

ーガンです。

食生活が気候に大きな影響をもたらしていることから、人々に慈悲に満ちた、持続可能なライフスタイルを提供するため、ビーガンレストラン「リビングハット」はスプリームマスターチンハイの呼びかけに応じて大きく発展しています。これらのレストランは大人気を集め、世界各地にチェーン店があり、安くて美味しく、しかも栄養バランスのとれた、様々なビーガン料理を提供しています。人々に健康的な食生活を勧め、最も有効な温暖化阻止の道を示しています。それにより、この地球と住んでいる人々、そして生きとし生けるもの、私たちの子孫を保護し、地球温暖化よってもたらされる、絶滅的な危機を免れるよう最善を尽くしています。

この時代において、スプリームマスターチンハイは献身的に奉仕し、苦勞をいとわず、世界の人々を助け、大事な地球のために、光り輝く未来を切り開いています。

## メッセージ

靈性の師であり、芸術作家でもあるスプリームマスター チンハイは、内面の美を表現することとを、こよなく愛しています。そういうわけで、彼女はベトナムを「オウラック」、台湾を「フオルモサ」と呼んでいるのです。オウラックはベトナムの古称で「幸福」を意味し、また、フオルモサの名はその島と人々の美をより完全に表しています。マスターはこれらの名称を使うことで、その土地と住人の靈性を上昇させ、福報をもたらすと感じているのです。

## ビーガンのライフスタイル

スプリームマスター チンハイは講義の中で菜食について言及しています。二〇一〇年からは「ビーガン食生活」を人類の理想的なライフスタイルとして力強く、熱心に、強く推進していきます。これも博愛の精神によるもので、ビーガン生活は動物たちが受けている大きな苦しみをなくし、人々が病気による苦しみから免れるためでもあります。また二〇一〇年四月十四日からビーガン食生活を印心の条件の一つに定めています。（ビーガンとは全く動物性成分も含まれていない食べ物のことを指します。つまり乳製品、魚、鶏と卵（受精卵、未受精卵を含む）などです）



## 世界の終末を救う方法

日本・成田空港における中国語の講演

（一九九四年九月八日）

今回日本に来て、とてもリラックスしています。（聴衆拍手）みなさんは印心してから長い人ばかりですからね。真面目に座禅をして修行に励み、自分自身を浄化していますので、日本の雰囲気を良くしています。私たちはこのようにして世界を助けるべきなのです。ですから、みなさんは世界を救う恩人だと言えます。この世界では多くの兄弟姉妹が本分を忘れ、仏陀の心と神の品性を忘れてしまったために、世界や宇宙に対してさまざまな良くないことをしてきました。一人ひとりがバランスをとろうと思わなければ、私たちの世界はきつと大きな災難に見舞われるに違いありません。すでに多くの災難が発生しています。これからもっと大きな災難が起こる可能性があります。これまでの災難はある国、または一つの国のある地域にしか影響をもたらさなかったのですが、

人々が相変わらず修行をせず、他人の気持ちはおろか、命まで無視して、人道を踏みに  
 じるような悪事を続けるなら、より大きな災難が発生し、世界全体に影響を与える可能  
 性があります。超能力を使わなくても未来が見えます。超能力を使わなくてもわかりま  
 す。なぜなら、論理にかなっているからです。それが因果なのです。

いわゆる予言者や先覚者と呼ばれる人たちはみな、将来、世界が同じ時間に大きな災  
 難に見舞われるであろうことが見えるのです。さまざまな国、さまざまな時代において、  
 そのような状況が見える人がいます。その人たちは本当に将来が見える人たちなのです。  
 決していい加減に言っているわけではありません。どの国にも、どの時代でも、そういう  
 人がいるのです。少しも不思議なことではありません。でも、私たちは一生懸命修行を  
 していますし、多くの国に私たちの修行仲間がいて、大きな共修センターがありますか  
 ら、みんなで力を合わせればパワーがとて強くなります。ですから、私はまだ世界を  
 救うことができると思います。私たちが真心を込めて求め、一緒に修行をして、平和な  
 雰囲気を作り出せば、とても大きな影響を与えることができます。

それはそういった特定の場所に限ったことではありません。たとえば、あなたのいる

ところに川がないとします。でも、ほかのところに川があれば、川の水や海の水が蒸発して水蒸気になり、水蒸気が雨になり、結局あなたのところにも影響が及ぶことになります。もう一つ例をあげましょう。今日あなたがどこかで思いがけない出来事に遭ったとします。交通事故でもほかの事故でも構いませんが、そのとき偶然に、二人の人が事故を目撃したとします。二人とも愛のある人で、あなたのことを心配してくれて助けてくれました。愛にふれてあなたは喜びました。幸い大事に至らず、あなたはそのまま帰ったか、または入院したけれど、怪我が軽く、一週間ほどで無事退院したとします。それでも、助けてくれた見知らぬ二人の愛がなおあなたに影響を与え続けます。あなたは誰を見ても、会議か何かの集まりで多くの人と一緒にいても、きつと愛にあふれ、辛抱強く人々に接することができはらずです。あなたに優しくされた人も、愛を抱き同じように人に接するでしょう。その優しくされた人はまた他の人に優しく接するのです。このように次から次へと伝わります。まるで一滴の油が広がるように愛が次から次へと広がっていくのです。

同じように、一人の人が十分に修行すれば、その人の内面に平和が訪れるでしょう。

そして穏やかな態度や零囲気になり、彼を見かけた人や、彼の隣人、周囲の人にも影響を与えます。するとその人たちも穏やかになり、こう思うでしょう。「そうだな。人間はやはり穏やかなほうがいい。愛の心を持つべきだなあ」と。またその人たちもさらに多くの人に影響を与え続けます。ですから、私たちの修行は本当に利益があるので。これはごく自然なことです。神秘的でもありませんし、不可解でもありません。

この世界にさまざまな良くないことが起こるのは、結局、人々が楽しくないし、愛を得られないからです。心理学の本や新聞には悪い人や暴力をふるう人は、小さいときに虐待されたり、大切にされなかったり、愛を得られなかった、と書かれています。ですから、大人になっても気持ちいが安定せず、性格の良くない人になってしまふのです。これが大多数の人の原因です。私たちの共修センターは人々に休息の場として利用してもらうための場所です。ここで人々は穏やかな安らぎを感じることができ、邪魔されたり、辛く当たられたりする心配もありません。というわけで、ますます穏やかになり、心が安定し、恐れることもなく、緊張することもなく、何の危険も感じなくなります。それだけではありません。私たちはさらに人々に自分の内面の偉大なパワーと通じ合う方法

を教えます。そのうちに人は初めて自分の偉大さに気づくのです。それでどんどん良くなり、そのような人も必ず心が安らぎ、より穏やかになるのです。ちようどみなさんがそうだったように。(聴衆拍手)

修行はとても論理的なことです。論理的に考えれば、そのような場所があつて当然です。そこで人々が内面を省みて心の中に平安の場所を見つけるのです。ですから、みなさんは修行をすればするほど、生活がより順調になり、賢くなり、理解が深まります。また、修行すればするほどリラックスでき、人に対しては寛容になり、愛の心が強くなるのです。以前は正しい養生の方法を知らなかったので、心地よくなり、体の具合も良くなり、精神的にももろくて弱かったのです。

天国では光で病氣治療をします。薬は使いません。将来、私たちも似たような光を用いて病氣を治療することができるようになるかもしれません。また、一部の病氣は音楽や音楽のようなもので治すこともできます。私たちが今修行しているこの法門も光があり、音があります。さまざまな苦痛や抑圧がひとりでに減少し、最後には消えるのです。私たちは本来とても智慧があります。けれども、この世界にいるので休む時間もありません。



ん。休む時間があってもどうやって休めばいいのかわからないのです。外出してもただお金をたくさん使って疲れるだけで、少しも心地よくありません。今私たちは時間があって修行ができ、万病を治す光と音のパワーもあり、智慧もあります。それで安らぎを得るのです。自分自身の本来の智慧を見つけることができます。私たちはますます良くなります。これは当然のことです。

普通は仕事に疲れると、お金のある人は海に行ったり、山に行って数日過ごせば、疲れが少し解消できてまた仕事を続けられます。ところが、私たちには毎日少しの休息の時間があります。長期間に一度の休みを取るより、そのほうがいいのです。毎日二時間半の座禅が私たちにとつての休息なのです。ただの休息ではありません。自分の命も救えるのです。光と音は私たちの内面の細胞、精神などをすべてきれいに洗浄してくれます。私たちは修行をすればするほど、ますます若返ったように感じ、心地よくなり、多くの病気や痛みが消えるのです。

最近私はある雑誌で、ある種の音でガンを治すという記事を読みました。みなさんは読みましたか。実験の結果は効果があるようです。このニュースを読んで、私は「観音」

の修行が一番良いと思いました。実際、私たちの修行仲間でも観音法門の修行を始めてから、ガンが自然に消えたという人は何人もいますが、これも一種の付加効果にすぎません。私たちが修行をするのは単に病気治療のためではありません。もちろん、それも一つの目的ではありません。なぜなら、私たちにとって「無明（無知）」という病気が一番恐いからです。「無明病」からさまざまな病気が生み出されるのです。

たとえば、私たちが「無明」なので、外に出かけて行って飲み食いをしたり、遊んだり、肉を食べたり、お酒を飲んだり、薬物を吸ったりします。そのようなことが私たちに喜びや楽しみを与えてくれると思っっています。ところが、実際はそれによって私たちの肉体と精神がひどく破壊されてしまっています。それはすべて「無明」によるものです。わかりますか。「無明」なので平気で毒物を飲んだり、食べたりします。そうして、体が徐々に侵され、やがてさまざまな病気にかかってしまいます。肝臓病、ガン、肺病、心臓病など、あらゆる病気が出てきます。すべて「無明病」が原因です。もともと神が私たちをこの世界に派遣したのは、この世界を守らせ、この世界に進歩をもたらすと共に、天国のような美しい楽園を建設させようとしたのです。ところが、私たちはここに来て

この「道具（肉体）」に入ってから、それを使って神の意志を実現するために働こうとしないばかりか、逆にこの大切な道具をどんどん破壊していきます。そのために、私たちはますます心地よくないのです。

今、私はマスターとしてみなさんにいかに正しいことを行うか、いかに自分の道具（肉体）を使うべきか、みなさんの使命は何か、ということを教えてくださいます。そうしないと一人ひとりがこの世界に生まれて、この物質生活にのめり込み、これが好き、あれも好き、道具（肉体）が好きということになります。その道具を使って世界を美化するかわりに、道具そのものとりこになってしまい、溺れてしまつては、当然この世界は救えません。人々に本来の使命を思い出させ、理解させ、またこの世界に過度に夢中になつて、自分自身と世界を破壊してしまわないように認識させるために、私たちのような人間が必要なのです。ですから、修行は私たちの務めなのです。

普通の人は病状があまりにも重い場合は病院に送られます。その場合、医者や薬を与えると同時に適当な休息も勧めます。そうすれば、患者の体に徐々に抵抗力がつき、その抵抗力によって病気が治っていくのです。ほとんどの薬は服用した後、頭が重く、眠

気などを感じます。それは私たちの体に抵抗力をつけるために、休ませようとするからです。抵抗力がつけば病気が自然に治ります。薬だけの効果ではありません。ですから、たとえ病気でなくてもこうして毎日休んで、その上天国ならではのすばらしい薬、内なる光と音を毎日何百リットルも体内に取り入れるのですから、（マスター笑う）よくならないはずがありません。休息もできるし、最高の薬もあるので、当然、心身ともに健康になります。だからこそ、私たちは修行をすればするほど、しなくてはならぬように、ますます楽しくなります。まるで赤ちゃんが母乳なしでは生きられないように。

ほとんどの人は心身とも何か問題があります。今から始めるのは少し遅すぎるかもしれませんが、しないよりはましです。子どもがいるなら、早くこの「薬」を与えましょう。そうすれば、大人になってから慌てて大量に用いなくてもすみます。世界中の病院には肉と酒を腹いっぱい詰め込んでいる病人があふれています。彼らはもちろん貧乏人ではありません。そうでしょう。お金持ちはたらふく食べて、飲んで、あげくの果てに入院しています。ところがこういう人たちの場合、病気はなかなか治りません。ちよつとした病気でも長引き、治るのにずいぶん時間がかかります。それに対して、毎日粗食

や菜食で、私たちのように質素な生活をしている人たちのほうが病気になっても治りやすいのです。すぐに治らなくても、彼らに比べると治りがはるかに早いのです。しかも薬を飲んでもそれほど副作用が起きません。ときには修行を始めたのがあまりにも遅すぎたために体のほうがまだ適応できず、たまに重い病気にかかったりすることがあります。修行を始めて日が浅いので、体のほうはまだ変わらず、そのため病気になるのです。修行をしなければ、病気はさらに悪化する可能性があります。

光と音こそ体と魂の薬と食糧です。光と音は私たちの細胞を変化させ、新しくしてくれます。ですから、よく修行をする人はより若く見えます。少なくとも、修行を始める前より若く見えます。しばらく経って見かけるとその人の肌が以前にも増してつやつやとして、まるで子どもの頃に戻ったようです。私たちの生活のリズムがもつと穏やかで、のんびりとしていれば、その変化はもつとはつきりするでしょう。毎日二時間半の修行でも構いません。それでも生きていけるでしょう。少なくともそれほどの重圧感はないはずです。生きるか死ぬかの状態ではないはずです。(マスター笑う) みなさんが修行しないと私が困るのではありません。みなさん自身にとって本当に修行が必要なのです。

もちろん、私はあちこちに行つて、修行の良さがわかるよう人々に教えるのですが、修行をするかどうかを決めるのは、あくまでもみなさん自身の権利と本分です。私は催促したり、引つ張つてきたりはできません。何もすることはできません。ただ修行をすれば、ますます修行が好きになるはずです。修行をすればするほど利益があり、気分もよくて体も健康になる、としか私には言えません。それは本当です。何年かして私がもう一度会いに来たとき、みなさんを見てきつと「あら、元気そうで数年前とは大違いだわ」と言うに違いありません。（聴衆笑う。拍手） みなさんは本当によくわかつているので拍手しているのだと思います。

私たちの体は霊体と精神の影響を受けます。私たちの霊体と精神が充実していれば、その霊体の食糧を食べて、体が変化してますます美しくなるはずでです。私たちの精神がリラックスできなかつたり、楽しくなければ、体も同じように疲れ、思い悩み、いらだち、心地よくありません。

一つの論理的な例を挙げましょう。何か楽しいことがあつたり、恋愛などをしているときは、人はとても輝いて見えるでしょう。家庭が円満で平和なときは、誰でもここに

こして目が輝いています。反対に仕事や商売がうまくいかなかったり、愛する人に振られたときや、ギャンブルに負けたときは、顔を見ればすぐわかります。ですから、人々とはときどき「ああ、死にそうだ。死ぬほど辛い。片思いが辛い……」と言うでしょう。わかりますか。まだ死んではないけれど、ほとんど死んだ状態なのです。これはただこの世界の憂いにすぎません。私たちの霊体も同じです。光と音は精神の食糧です。もし毎日休ませなかったり、養生しなければ、精神もひからびて、思い悩み、憂い、体に影響を与えます。それは当然のことです。

一九九四年から一九九六、一九九七年までの二、三年は、世界にとつてもっとも敏感な時期です。ここ数世紀の間、私たち人類は私たちの地球を破壊するようなさまざまなことをしてきました。ときには世界に進歩をもたらすかのように見えることもありました。けれども、代償が大きすぎます。私たち人類はあまりにも愚かすぎます。商売や金儲けのために後々の結果をまったく考えません。私たちは今、速度を緩めて、私たちの状態や、次の世代と世界の現状について真剣に考えなくてはなりません。私たちはあまりにも破壊しすぎました。木を伐採しても構いませんが、一本伐採したら、二本植えない

くてはなりません。使用したものを回収してリサイクルしなければなりません。再び利用すればいいのです。肉食を菜食に変えることもできます。肉食は多くの世界の資源を消耗するのです。

毎年多くの山林が動物を飼育するために伐採されています。毎年イギリスの面積と同じくらいの森林や山林を伐採して動物を飼育し、私たちに食用肉を供給しています。また、牛を飼うには大量の水、飼料、時間、土地が必要です。そのような土地は二度と農耕には使えません。原因の一つは木を伐採した後の土地は動物に踏まれて、もはや何も植えることができないからです。もう一度、農耕に使おうと思ったら、最低五十年は待たなくてはなりません。もう一つの原因は、木が伐採された後の土地は大雨が降ったら、良い土壌はことごとく流されてしまい、水と土のバランスが崩れ、土地がますます乾燥します。このように次々と連鎖反応が起きますので、一つの行為の影響はさまざまな面に及びます。もちろん、水にも影響が出ます。良い水はみんな動物に使われ、その結果人間が使う水は汚染され、足りなくなるのです。

私たちが科学技術を乱用するので、地球を保護するオゾン層が破壊され、私たちの地



球に影響を与えています。それで地球はより温暖化します。暑いうえ、雨も降らないし、日陰を作ってくれる木もありません。雨が降らなければ、木も育ちません。木がなければ、もっと雨が降らなくなります。ですから、気温がますます上昇します。そのすべてが私たちの体、私たちの子ども、私たちの商売、私たちの精神に影響を与え、人類全体の道徳にも深刻な影響を与えてしまいます。食べるものがなければ物価が上昇します。そのため、物を買えない人が増えます。また商売がうまくいかず破産してしまいます。破産すると泥棒になったり、浮浪者になったり、犯罪者になったり、自分自身と家族を不幸にしてしまう人が増えます。

食べるものがなければ、最初の被害者は自分自身です。やがて、世界全体が飢餓に見舞われます。このことがすでに子どもの運命に影響を及ぼし、人類の道徳に影響を与えるのです。ですから、現在、国連と多くの国が一緒に、堕胎と未来の食糧欠乏問題に関して討論をしています。(※)彼らはすでに協議を行い、堕胎などの法案を通過させました。子どもを殺し、嬰兒を殺すことを決めたのです。そうです！ 堕胎を合法にしたのです。人が増えて食べ物がなくなると、人々は殺人を考えるのです。悪い言い方を

するならば、食べ物のために殺人をしようとしているではありませんか。事実はおそらくにそうなのです。嬰兒や子どもを殺そうとしているのです。彼らは現在、食糧がどんどん少なくなるのに、人口は逆にどんどん増えているので危機感を持ち始めたのです。彼らは自分の生活を変えなければなりません。肉食をやめて菜食にして、木の伐採をやめて植林をし、動物を飼う代わりに、作物を作るのです。そうすれば、食糧の問題も決して解決できないわけではないのですが、彼らはそうしません。それどころか、今度は子どもを殺害しようとするのです。見てください！ この影響が次々と連鎖反応を起こすのです。「肉を食べるのは私自身の問題」ではすまないのです。全世界、次の世代、私たち自身の罪のない子どもにまで影響を与えてしまいます。見てください！ とても恐いことです。被害がとても大きいのです。今、まだ私に「なぜ菜食をするのですか」と質問するのですか。

この問題を解決するには、根本から変えなければなりません。植物に水をやるときは根元にやるのであって、葉っぱにかけるのではないでしょう。それと同じです。肉を食べれば食べるほど、動物を飼育しなくてはなりません。動物を飼育するには広大な土地

と大量の水が必要になります。そこに草が生えてきます。そして木をどんどん伐採するので、水がますます減ってしまいます。それでも動物に水をやらなければなりませんから、人が使う水がなくなってしまうです。水がなければ作物は作れません。作物が作れないと食糧が少なくなります。少ないので値段が高くなります。人口が増えるのに食糧が減るので戦争が起き、強盗、殺人などの暴力がはびこるのです。目的はただ食べ物、食糧を手に入れるためです。そして、ついに殺人、つまり子どもを殺そうと企て始めたのです。ただ自分たちが助かりたいという理由からです。

以前、墮胎は考えられないことでした。誰にも考えられませんでした。しかし、今彼らは合法にしようとしているのです。本当は国連と多くの国々はもつと別の方法、もつと有効で、もつと正しい方法を考えるべきです。子どもを殺すのはやめてもらわなければなりません。いくら殺しても、解決にはなりません。すでに多くの人々は、将来、一部の国では人間の肉を食べないと生存できなくなるだろうと予言しています。死人の肉を食べるのです。それを回避する方法はもちろんありますが、今のまま続けると、当然改めることができなくなります。

私たちは変わることができます。この世界を変えることも、そして救うこともできます。他の人を殺して自分たちを救うのではなく、私たちの生活を根本から変えるのです。つまり、道徳的な生活に変え、菜食をして、自分自身の精神と体を養えばたちまち効果が表れ、私たちの世界はすぐに変わるはずで、みんなが木の伐採をやめて木を植えたから、すぐに救えるはずで、十年以内に世界は間違いなく様変わりするでしょう。大丈夫です。人々が力を合わせて努力すれば、世界は絶対に救われます。

たとえば、私の言うことを弟子のみなさんが信じて守れば、少なくとも、みなさんの周りの人たちに良い影響を与えることができます。とはいえ、その土地が私たちの所有でなければ、私たちは強引に地主に木を植えさせることはできません。地主本人がこの利害関係について理解することは不可欠です。この情報を世界に知らせてすべての人々にその意義をわかってもらわなくてはなりません。すべての人々が古い発想を転換させ、世界を救うために、みんなが一致して努力しなければならぬことを認識しなければなりません。そうしないと、世界の終末の到来は言うまでもなく、私たちは互いに殺し合うでしょう。何が終末かを問うまでもなく、天地が創造されてからいままでの歴史の中

で、無数の戦争が繰り返されてきましたが、子どもを殺すための戦争はかつてなかったことです。これは私たち人類の道徳がどん底まで墮落したことを表しています。

現在、人を殺したら、必ず警察に逮捕され刑務所に入れられます。そして、自分の命をもって、他人の命の償いをしなければなりません。ところが、国連や一部の国々が合法的に大虐殺をしようとしているのです。不道德だと思う人は誰もいません。本当に不思議です。国連や会議に参加した国々に頭をもっと明晰にして欲しいと思います。そうでなければ私たちの次の世代や、私たちの世界の将来を彼らの手に委ね、私たちの将来を決定させるのは本当に恐ろしいことです。わかりましたか。もし彼らが悟りを開かず、論理的な考え方ができなければ、どんな重大な結果がもたらされるか、みなさんにも想像がつくはずですよ。原因があれば必ず結果があります。神は自分の子どもである人類の生と死の決定権を一部の人間に欲しいままにされるのをただ傍観したり、容認したりするとは思えません。

普通、人を殺した犯人は殺人犯として起訴されます。犯人は人々に非難されたり、憎まれたりします。同様に戦争による大量殺人も人々に非難されます。けれども、今、殺

人が当たり前になってしまったのです。なおかつ、殺されるのは嬰兒や子どもです。本当に恐ろしいことです。しかも、切羽詰まってやむを得ない状況でもなく、ただ食糧不足を恐れているだけの理由です。大人たちの食糧を確保するために、嬰兒を殺そうとしているのです。私は「墮胎は合法」にならないことを祈っています。私たちはできるだけのことをして、なんとしても阻止しなければなりません。

私たちは関係各国に手紙を出して訴えるべきです。みなさん一人ひとり、今日私がここで話したような主旨に沿って手紙を書いて、国連やアメリカの大統領、関係各国の指導者に送るべきです。彼らはこの方法をやめて別の方法を考えるべきです。この方法は良くありません。彼らは私たちの警告を聞くかもしれませぬし、聞かないかもしれませぬ。私は彼らが聞き入れることを望みます。期待しています。大人たちを救うために子どもを殺すというのはあまりにもむごすぎます。子どもを全部殺しつくしても問題の解決になりません。それどころか、一種の因果を作り、将来はもっと大きな代償を支払うことになるでしょう。本当に不思議です。世界中の人々はいったい何を考えているのでしょうか。なぜこれほど簡単なことも変えられないのかわかりません。多くの政治家はき

つと肉食と菜食の利害関係について書かれた本などを読んでいるはずで、彼らは私たちよりも、そういった本を読む機会が多いはずで、彼らはお金を持っていて、情報や資料にふれる機会が私たちよりはるかに多いので、十分に理解しているはずで、彼らは国を治め、国民のために働く立場にいるのですから、知っていて当然です。とても簡単なことです。人々に菜食を勧め、自分自身も実践すればよいのです。世界は間違いない救われます。修行すれば天国に行ける、功德があるという前に。

菜食をすることにより、世界が救われるなら、みんなは少しの犠牲を払っても協力すべきです。政府や宗教界の指導者たちは国民に対して、大きな権力と影響力を持つています。テレビやラジオなどのメディアはすべて彼らの手に握られていますので、いつでも何でも発言することができます。そういう立場にいる彼らは、世界の環境のため、人類のため、私たちの子孫のために、正しいことを国民に教え、菜食を勧めるべきです。これは政府や大きな宗教団体にとって実に良い方法です。

最近、私たちはすでに多くの警告を受けています。世界各地で天災、地震などの自然災害が頻発しています。そのほか、人間同士の殺し合いも各地で繰り広げられています。

人間は本当に恐ろしいです。仏陀にもなれ、悪魔にもなれます。仏陀になったら世界を救うこともできませんが、悪魔になったら世界を滅ぼすこともできます。今まで私たちはすでにさんざん被害を受けてきました。頭のおかしい一部の人間が戦争を起こし、爆弾を発明したため、莫大な世界の財産が破壊され、多くの国民の命が奪われました。一発の原子爆弾は大したことではない、せいぜい町が一つ破壊されるだけと思っている人がいるかも知れません。とはいえ、一つの都市を建設するのに、どれだけのお金、どれだけの労力が必要でしょう。都市が破壊されたら、国の経済も大きな影響を受けます。再建するには時間も資金も労力も必要で、国の経済にとって大変な負担になります。このようにさまざまな天災、地震、台風、爆弾、難病が世界を破壊しています。世界全体でなくても、三分の一、または一部分が破壊されても、もう取り返しがつきません。悪循環が繰り返されます。

私は世界の人々に早く目覚めて欲しいのです。そして、ここにいるみなさんに互いにこのことについて話し合い、共に地球を救って欲しいのです。他にどんな良い方法があるのでしょうか。天国はわりあい良い人々の住むところです。もし、この地球がな



くなつたら、あまり良くない人々はどこに住めばよいのでしょうか。ですから私たちはその良くない人々のために働かなければなりません。

この地球も宝物です。もし神がこの地球を処罰して消滅させようとするなら、私たちは神の意志に従うほかありません。どうすることもできません。でも、救えるものなら救うべきです。この世界は素晴らしい学校で、多くの魂がここに来て学び、成長することができるからです。

※一九九四年九月五日から十三日まで、国連および数カ国の代表がカイロ会議において、人口増加と将来の食糧不足の問題について討論しました。

マスターがこの講演を行った当時、国連は国際人口会議をカイロで開いているところでした。会議の期間中、海外の報道機関は墮胎についての見解の相違を報道しました。墮胎に反対する国の代表は、この人口調整計画案は墮胎を増加させることになるとして、署名をしませんでした。以下は連日多くの新聞紙上に載せられた、墮胎反対の見解の抜

粹です。

カイロでの国連人口問題会議は昨日の閉会時において、イスラム教とカトリック教の国はその最終報告における墮胎と性の権利への論及を批判した。

〔1994.9.14 香港スタンダードより抜粋〕

―バチカンとイランのような保守的なイスラム教の国々が連合して、墮胎、不倫、同性愛を容認するような草案を非難した。

―「私たちは西側の家族計画案に対しての開かれた討論の場から去るのではなく、参加して反対すべきである」

―「私たちはこの草案中の、イスラム教の教義に反することはいかなることも受け入れられない」ブット女史はイスラムの参加国の中で唯一の女性代表としてカイロ会議に参加することを決定した。

―トルコ首相 Tansu Ciller 氏とバングラデシクの Khaleda Zia 氏、ヨルダンの Noor 皇后は、すでに今回の会議の参加予定を撤回した。インドネシアのスハルト大統領も今回

の会議の参加を撤回した。

―バチカンのスポークスマン Joaquin Navarro 氏は、この計画草案は青少年が両親の同意なく墮胎できることを容認するものだ」と述べた。

―「西側諸国にこのような法律があるわけではない。にもかかわらず、彼らは他の国にその法律を押しつけようとしている」と彼は述べた。 フランス通信社

〔1994.9.5 香港スタンダードより抜粋〕

―世界中におよそ八億人の信徒を擁しているバチカンと、イランのような保守的なイスラム教国家は、すでにこの草案に反対する運動を起こした。

バチカンは草案中の墮胎に関することは家庭に障害をもたらし、青少年の性行為を奨励することになり、暗黙のうちであろうとなかろうと支持することはできない」と述べた。

〔1994.9.7 香港スタンダードより抜粋〕

―エジプトのイスラム教徒は月曜日の開会式で、性の倒錯、不倫、安易な墮胎を奨励する」という最大の恐怖が明らかになった」と述べて、会議を激しく非難した。

―少女がイスラム教のスカーフを被っていた。それには「私たちの未来の世代には生存

の権利がない」と書かれていた。〔1994.9.7 香港南華モーニング・ポストより抜粋〕

最後に会議は堕胎に反対する国の代表の意見を考慮して、折衷案を加えました。

「安全な妊娠と出産」についての概念は、堕胎の「奨励」を家族計画の手段とするものではない。これはすでに多くの国々に受け入れられ、妊産婦の発病率と死亡率を減少させる手段となっている。〔会議議事録草案〕六三頁より抜粋（香港スタンダード）

# Vatican vows to stand firm on abortion

**THE Vatican promised** stand and not budge on its position on the issue of abortion, a spokesman for the Holy See said today. The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

The Holy See, he continued, is a sovereign state and its position on the issue of abortion is a matter of internal law. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

**John D'Ercole**, spokesman for the Vatican, said today that the Holy See would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue of abortion.

He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

# 香港南華早報 1994.9.7

## Vatican stands firm on abortion

**ROME** (The Vatican) - The Holy See has vowed to stand firm on its position on the issue of abortion, a spokesman for the Holy See said today.

The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

**John D'Ercole**, spokesman for the Vatican, said today that the Holy See would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue of abortion.

He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

The spokesman said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue. He said that the Vatican would not be swayed by the pressure of the United Nations to change its position on the issue.

# 香港虎報 1994.9.5

5 September 1994

STANDARD 9

## tries to row at abortion conference

**CAIRO** The United States pro-abortionists sought to defuse a row with religious conservatives over abortion at the row of the United Nations conference on population.

The row broke out over a speech by the United States pro-abortionists at the United Nations conference on population. The row broke out over a speech by the United States pro-abortionists at the United Nations conference on population.

The row broke out over a speech by the United States pro-abortionists at the United Nations conference on population. The row broke out over a speech by the United States pro-abortionists at the United Nations conference on population.

"There is a broad agreement around the world about the importance of population control," he said.

"I do not see how we can have a conference on population control if we do not have a conference on abortion," he said.

He said that the United States pro-abortionists were trying to defuse the row with religious conservatives over abortion at the row of the United Nations conference on population.

He said that the United States pro-abortionists were trying to defuse the row with religious conservatives over abortion at the row of the United Nations conference on population.

He said that the United States pro-abortionists were trying to defuse the row with religious conservatives over abortion at the row of the United Nations conference on population.

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

Continued on Page 10, Col. 3

WASH

WORLD

WEST

Row over abortion dashes hopes for unanimous global agreement

# Vatican refuses to sign population document

CAROL: Vatican States' Pope Francis Al Gore has said that a compromise agreement may be reached in a row over abortion at the summit of the G-80 population conference, saying the Vatican will continue to sign a plan aimed at curbing the world's soaring birth rate.

The conference had to agree in a change from the 1985 meeting would produce a plan for the Vatican and its 100 million Catholics, but it is not clear whether it will be adopted.

The new Vatican document states that there is a need to reduce the world's population, but it does not say how to do so, which the Vatican has said it opposes.

The Vatican said it could not give "explicit or implicit" support to the plan, but it did not say whether it would sign it.

But Mr Gore said that since the Vatican's stance was not the final decision, he would not sign it either.

The Vatican, which has an estimated 100 million Catholics, is the largest religious group in the world - and its stance is seen as a major obstacle to the plan.

The European Union has said that it will not sign the plan unless the Vatican agrees to do so.

Mr Gore said that the plan would not be adopted unless the Vatican agrees to do so.

HONGKONG STANDARD

香港虎報 1994.9.14

# Abortion references spark criticism at conference

CAROL: An UN World Conference on Population Development held in Cairo last week, which was attended by 180 countries, has failed to reach a unanimous agreement on a plan to curb the world's population.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

There was no mention of abortion in the final document.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

There was no mention of abortion in the final document.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

There was no mention of abortion in the final document.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

gives "implicit or explicit" support to the plan, but it does not say whether it will sign it.

There was no mention of abortion in the final document.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

gives "implicit or explicit" support to the plan, but it does not say whether it will sign it.

The plan to curb the world's population, which is seen as a major obstacle to the plan, was not adopted.

© 1994 The Hong Kong Standard. All rights reserved. Printed in Hong Kong.

慈悲深いマスターは世界的な人口問題についても、叡智のある、人間性のある、具体的  
 に実行できる方法を示しました。この国境を越えた児童保護計画は、まさに「世界は一  
 つ」という第一歩となるものです。

### アメリカ・ニューヨーク国連人道事務局への手紙

拝啓

今、世界は人口問題のために憂慮しています。ある国は人口が少ないため不利が生じ、  
 一方、他の人口過剰になった国々は、強制的な出産制限政策を実施しているので、天の  
 怒りと人の恨みをかけています。(たとえば、最近の北京での事件ですが、ある男性が妻  
 に中絶を迫り、その妻を死なせてしまいました。そして、悲しみのせいで発狂し、無差  
 別殺人を犯してしまいました)

実際、この困難な問題は結局、人口の多い国(中国・インド……)の子どもたちが、  
 合法的に人口の少ない国(たとえばシンガポール・イギリス・フランス等の欧米諸国)

の家庭に養子として受け入れられれば、さほど複雑な公的手続きを踏まずに、解決することができます。

この方法を実施しますと、少なくとも以下の利点があります。

- (1) 世界の人口のバランスがとれる。
  - (2) 子どものいない夫婦を慰め、彼らの人生に新しい活力をもたらすことができる。
  - (3) 殺生の罪悪を減らし、人の親としての心の痛みや怨みを軽減する。(ある国では、人口をコントロールするために、堕胎を強制し、嬰兒を死なせている)
  - (4) 経済的な利益をもたらしてくれる。(人口の少ない国が労働力を確保し、人口の多い国は養子縁組の収入を得られ、負担を軽減できます。その上将来の親となる者が妊娠期間中母親と養子の医療費などを負担することで、精神的、心理的に支え、同時に国は国民保険制度の負担を軽減できるのです)
- この案が人身売買につながる可能性があることを懸念されるかと思いますが、法律上の記録制度を設け、常に状況をモニターし、カウンセリングを行っていくことで避けられます。その結果、国際社会間の資源(人力を含む)を交換することができます。また



「国境のない地球村」という理想も、すぐに実現されるのです。

敬白

The Supreme Master Ching Hai インターナショナル アンシエーション

Suma Ching Hai International Association

Suma Ching Hai 世界會

總行 地址：編碼郵政信箱西湖郵政九號樓B

電話：886-37-922870 傳真：886-37-922822

March 27, 1995

Department of Humanitarian Affairs,  
The United Nations,  
New York, U.S.A.

Dear Sirs, Madames:

The population problem is now of international concern. Some countries are handicapped by their low population, while others, being overpopulated, are carrying out compulsory birth control policies which are causing tremendous resentment among their people and provoking God. (Take the recent incident in Peking for example. A man, provoked by the death of his wife who was forced to have an abortion, became insane with sorrow, and killed people at random.) Actually, this perplexing problem can ultimately be solved by allowing the children from the overpopulated countries (eg., China, India, ...) to be legally adopted by families in underpopulated countries (eg., Singapore, United Kingdom, France and other Western countries) without much bureaucracy and Red Tapes.

The launching of this scheme will at least bring about the following advantages:

1. Balance the population of the world.
2. Comfort the childless parents, giving their life's new vitality.
3. Minimize the vice of killing, as well as alleviating the sorrow and animosity of the parents. (To control the population, some nations are carrying out compulsory abortion and the killing of babies.)
4. Bring about economic benefits. (The underpopulated nations gain a greater working force, whereas the overpopulated countries benefit financially from the adoption fees and less burden. The future parents take care of the medical costs, etc... for the mother and adopted child during pregnancy, and therefore offer mental and psychological support to them as well as easing the national public health care burden.)

Your establishment may worry about the possibility of this scheme turning into trafficking of human beings. However, this can be avoided if a legal record system is set up, followed by continuous case monitoring and counselling. As a result, the international community can exchange resources (including human resources) with each other; and the ideal of "The Earth Village Without Boundaries" will soon be realized.

Sincerely,

Suma Ching Hai International Association



HONGKONG

ADD: P.O. Box 9 Ho Ho, Mak U, FORTUNE B.O.C.  
Tel: 886-37-922822 Fax: 886-37-922870



## 私たちは黄金時代に踏み出している

アメリカ・オレゴン州ポートランドにおける英語の講演

（一九九三年十二月四日）

私たちが深く感動することがあるのは、the supreme Master（スプリーム マスター）と呼ばれるマスターがとても素晴らしいからだ、とみなさんは思っています。でも私は、それはマスター本人によるものだとは思いません。それはみなさんの真摯さによって物が起こるからなのです。みなさん自身の最も深いところにある智慧と愛が開くことによつて起こるのです。そうしてみなさんはあるとき、またそれぞれの機会にそのような至福に満ちた体験をします。非常に深く祈ったときや、深い悲しみの中にいるとき、また言い表せないほどの苦しみを経験しているときに、多かれ少なかれ経験します。そして私たちは神からの加護が目の前であることを感じるのです。

座禅はただ私たちの誠意と渴望を打ち開くもう一つの方法にすぎません。それによつて限らない祝福と愛を受けます。この祝福と愛のパワーは全宇宙の至る所に存在しているのです。もしかしたら偶然の一致か、最も高い智慧の手配により、私たちはある場所で加護を感じるかも知れません。また出会った特別な人に対して加護の力を感じるかも知れません。たぶんその人も私たちと同じ振動数を持っているからです。私たちと同じように誠実で、同じように望み、そして私たちのように神を大きく受け入れるのです。その瞬間二つのパワーは融合され、私たちは至福に満ちた感覚、いわゆる悟りを開いた感覚というものを体験します。

この世の多くの人々はもう十分であると思つています。彼らは生活を変える必要もなく、他に何一つ変える必要もなく、そして悟りさえ必要ないと思つています。ですから、探し求めようとはしません。たとえ師や良き友が無条件の愛や奉仕の心で彼らを尋ね、門前までやって来たとしても、彼らはその人を拒否するのです。

それが私たちの世界が今日までこのような状況である原因なのです。私たちは天人と一体になるパワーについて学んで来なかつたのです。私たちの多くは宇宙の至る所に充

満している、最も偉大なパワーを使うことを学んで来なかったのです。それはただ手を伸ばせばたやすく得られるのです。そうすれば私たちの人生においてすべてのことがスムーズになり、そしてすべての願いが叶うのです。

**私たちはまだ十分ではない**

私たちの多くは要求するものが得られないので、神を責めたり、環境のせいをしたりします。私たちは社会や政府、両親、学校さえも責めます。私たちの手の上にあるすべてを責めるのです。けれども、私たちが深く、公平に考慮するために立ち止まるなら、このように考えるべきです。「私たちは社会、国家、世界全体に対して、より良い場所にするためにどのような貢献ができるだろうか。それはひとりにより良くなるのを待ち続けることではない。それは不可能なこともあるのだから」と。

毎日バラのベッドに横たわり、食事を待っているだけのために、神は私たちをここに創造したではありません。学ぶためにここにいます。私たちが生まれ変わったような世界も、より良くするために、無限の愛と創造のパワーを使い、学んでそして成長

するためここにいます。私たちがのように学ばなければ、再び戻って来なければなりません。それを人々は輪廻転生と呼びます。実現されない欲求と使命が私たちの中にあり、それが常に私たちの内面を目覚めさせようとしています。私たちがまだ終えていない仕事のことを、繰り返し、繰り返し思い起こさせているのです。

多くの人が自分は十分であると思っています。私たちは正しい行いをしていてと思っていますが、決してそうではありません。実際に私たちは十分ではありません。この世界で人口の五分の一は飢えています。その他多数の人々、兄弟姉妹は栄養不良です。それは科学的調査によってわかっていることです。私が言っているではありません。みなさんは新聞で読むこともできませんし、証拠を手に入れることもできません。私たちの美しい惑星の大部分は、いまだに戦争があり、対立があり、暴力があり、そしてまた、他に多くの災害があり、人災や天災で苦しんでいます。それは私たちがまだ十分ではないからです。

それどころか、私たちは自分の髪でさえひとりで理髪することはできません。小さなことですが、私たちは家をきちんと掃除する方法さえ知らないのです。私たちは困って

いる人々を、その人たちが望んでいるように助けてあげることさえできません。反対に私たちの善意がもっと煩わせてしまうのです。たとえ私たちが助けてあげたいと思ってもできないのです。それこそたくさんの計画が失敗している原因でもあります。多くの優れた指導者たちが、世の中や人々を助けてあげたいという非常にすばらしい善意を持つているにもかかわらず、ほとんど役に立たないのです。なぜでしょう。それは私たちがまだ十分ではないからです。私たちが本来十分でなければならぬことや、十分だと思っていることが十分ではないのです。

私たちの人生のすべてが、または多くのことがうまくいかなかったり、望みが満たされなかったり、隣人が苦しんでいたりと、いずれにしても私たちが苦しんでいるなら、それは私たちが十分ではないからです。私たちは自分の欠点と、これまでに蓄積された良くない習慣に立ち向かい、長所や神の本質を取り戻すときが来たのです。そうすれば望むことが完璧に、少なくとも完璧に近くできるようになります。いずれにしても自分身や家族、環境を助けたいと、より良くしたいと望むたび、私たちの善意によって困った事態になってしまうことはなくなるでしょう。

### 開悟は生活様式である

開悟は私たちの弟子からみなさんに、また研究するためにここに来ている人々や、何が起るか好奇の目で見ている人々に対する広告ではありません。一つの生活様式であり、生きていくという一つの事実なのです。それは現世と死後に必要なものです。

私たちが何らかの宗教的な信仰を持っているなら、死後に生命が存在するということを知っています。どんな宗教的信仰も持っていないなら、私たちは死後の存在について知らなければなりません。なぜなら死についての多くの医学的な調査があるからです。臨死や死後の体験などです。この種の情報は豊富で、今日入手することができます。開悟や私たちの潜在能力を開発するためのたくさんの本が市場に出回っています。これらはある面においてはとても良いものですが、常に良いとは限りません。アメリカ人は非常に知的でたくさんの本を読み、読書を好みます。彼らは知識に飢えているので非常にたくさん読みます。私もたくさん読みます。以前から、そして今も読み続けています。何が起っているのか、社会の流れを知らなければなりません。これらの本や知識の糧から得た疑問に対して解釈したり、説明したりするためです。

私がこのようなことを言うのは、こういった情報がすべて私たちにとって良いとは限らないからです。私たちは読書が好きで「知識のスーパーマーケット」から得たものをうのみにし、消化不良を起こすこともあります。私たちは実際に自分で体験しないで、頭に知識の情報を詰め込んでしまうのです。そして、わかったと思いついてしまうのです。「ああ、そう、私はヨガナダの言っている光を知っています。私はサントマトの光と音を知っています。私はマスター・チンハイを知っています。彼女は同じことを教えている。だから私は彼女のところに行つて、彼女の話を書く必要はありません」と。聞きに来るわけではありません。真実の体験をするために来なければなりません。私たちにまだ体験がなく、または開悟体験のほんの一部しか得ていないとしたら、私たちは次の一歩をどう進めばいいのかわかりません。どのように智慧を深めるのか、悟りを開いて、智慧をどのように生活に活用するのか、またどのように日常の生産力にそれを結びつけ、この世界を助けるのかわからないのなら、ここに来て学ばなければなりません。



**私たちの世界を天国にする**

私たちはこの世界を天国に変えなければなりません。天国に逃げ込むものではありません。というのはすべての場所が天国だからです。神は天国だけを造ったのです。ただ、私たちのいかれたコンピューター頭脳で、この世をメチャクチャにしてしまったのです。開悟は私たち自身を正常に戻す方法です。それは私たちが考えるこじつけの神話のようなものではありません。まさに、愛と智慧と偉大なる私たちの源からの日々の体験であり、神が私たちに、この物質世界に生まれる前に授けてくださったものなのです。天国が雲の上にある何か高いものであると考えたとしたら、困ってしまいます。なぜかという、少なくとも六十年か、あるいは百年、この世におけるあらゆる苦しみや惨めさを伴いながら、そこにたどりつくまで待たねばならないからです。私たちはそんなことをする必要はありません。

生命というのは、最高の神の子どもたちにとって喜びに満ちているはずですよ。もし、あなたが王や大統領の子どもだったら、学校へ行ったらどう感じるでしょう。あなたには護衛がいて、専用のロールスロイスがあり、さまざまな特権があります。学校中の人々

が敬意や愛や賞賛や嫉みであなたを見るでしょう。あなたは自分の身分と地位がはつきりとわかるのです。

聖書では次のように述べられています。「私たちは神の子どもである」。そして「彼らすべての王の中の王である」と。ところが、現在私たちはこのような生活の中に生きていて、ほんのわずかなお金のために悩まされ、すべてに恐怖を感じています。たかが一つの弾丸、そのくらいの大きさのものにさえです。恐怖のあまり、体重の千分の一のものがあなたに尊厳の意識を失わせ、そして命乞いさえさせるのです。私たちはただ生きていくためだけに何でもするのです。ただこの物質的な体の機能を維持するためだけに。これは尊厳のある生活ではありません。これは神の子どもの生活ではありません。私たちが本当に神が何であるかを理解したなら、わかるはずですが。神は全宇宙の主なのです。そして私たちは子どもなのです。あなたはそれが信じられますか。

ただ言うだけで、わがらうとしないのは悟りの道ではありません。私たちは十分であると思っているからです。この世に一人でも苦しんでいる人がいるかぎり、いまだに戦争が、飢餓が私たちの近くで進行している限り、私たちはまだ十分ではありません。と

いうのは、私たちは自分たちが住んでいる、この地球という家の責任を一緒に負わなければならぬからです。それは大きな家族です。範囲がとても広いのです。なぜなら私たちは一つの部屋に住むことができないからです。また、そうする必要もありませんが。私たちには多様性が必要であり、この世を多彩で、おもしろくするために、さまざまな才能が必要なのです。それは神が私たちに望んでいることなのです。私たちはとても多くの才能を持っています。それぞれの人が何かに貢献すべきです。

私たちの才能のすべてをもつてしても、自分の望むほどには貢献できず、思うように役立たせることはできません。というのは私たちがまだ十分ではないからです。私たちには何か欠けています。真の智慧が欠けているのです。それぞれの内に眠っている真実の愛が欠けているのです。

### 神の愛とパワーをうまく活用する

実際、マスターは存在すべきではありません。教師も存在すべきではありません。ただ霊的修行の友、兄弟姉妹が存在すべきなのです。というのは、私たちは神から同じくら

いの偉大な智慧を受け継いでいるからです。マスターたちとここに座っているどの聴衆にも違いはありません。そして子どもや老人の間にも違いはありません。なぜなら、私たちは内面において、同じくらいのアートとパワーを持っているからです。私たちがそれをうまく使わなければ、地球における最大の浪費になってしまいます。私たちは多少物質をリサイクルしていますが、それが問題にならないくらい、浪費しているのです。最大の浪費は私たちが智慧を持つていないことです。私たちが神のパワーを持つていないことを知らないことです。そして私たちが神の子どもであることを忘れてしまったことです。

あなたがすでにそのことを知っていて、聖書を読み、すべての人が自分は神の子どもであることを知っていると言うのなら、それもいいでしょう。けれどもあなたが知っているのと、知らないのでは何が違いますか。というのは、あなたが昨日と全く同じだからです。あなたは本当にわかっていないのです。ただ知識として聞いたことがあるだけなのです。そこに違いが生じます。

私が今日みなさんに話したことが意義があると思うなら、それは私が私の内にある智

慧を認識しているからです。私はみなさんの内に智慧があることを知っているからです。そして使いたくないのはあなたなのです。あなたが拒否しているのです。あるいはみなさんは自分自身にとっても劣等感を感じているからです。私たちはそんなに悪いことはいません。あなたがしたとしても、私たちがしたとしても、それは無知だったからで、今は正しいことが何であるかを理解すべきときです。そうすれば、私たちは非常に素早く変わることができます。私たちは毎日この体を養うために、どれだけの時間を使うのでしょうか。私たちは肉体が永久に続かないことを知っています。けれどもそれでもその面倒をみることは必要なのです。今、私たちが本当の自分自身の世話をしなければ、私たちにさらに大きな面倒なことが起こります。

この世の多くの人が苦しみを受けているのは、自分の偉大さがどこにあるのか知らないからです。他のどんな理由でもありません。それは単に私たちの無知のせいです。私たちはたぶん若いときにテレビから得た習慣や、近所の人や、本から得た習慣によって自分自身を確認するからです。私たちは内面にある良心に反することをたくさんしてしまいます。みんながそうしているので、自分もそうし続けるのです。そして私たちは多

くの困難に陥るのです。また、私たちはドラッグに手を出すべきではないとわかっていきます。ところが、内心、空虚感を覚え、挫折を感じたり、才能がありながら、それをどう發揮すればいいのかわからず、それをどこで使うかわからないのです。人種問題から、または外見が気に入らないことから、社会はときには私たちを偏見でもって拒否します。そうすると、私たちはこの空虚感をありとあらゆる安い代替品で埋め合わせようとし、長期間常用することによって、私たちの身、心、霊を破壊してしまうのです。それは私たちが偉大であるということを知らないからです。また、私たちの偉大さをどのように使うかを知らないからです。

私はここにみなさんのお金を集めて来ているわけではありません。何をすべきかを話して来ているのでもありません。また、みなさんを困難な状況に置こうとしているわけでもありません。私はただ、みなさんの偉大な智慧を見つける手助けをしたいと思っただけです。みなさんの人生をより良くするために、再びみなさんの偉大な能力を見つけて手助けをしたいと思っただけです。みなさんの人生がより良くなれば、私の人生もより良くなるのです。そして私の子ども、私の友達の子ども、そして私の兄弟の、姉妹

の子ども、私たちのすべての環境がますます良くなるということなのです。というのは、私たちは互いにすべて結びついているからです。

みなさんがアメリカをきれいにそして安全に保とうとしなかったら、私はここに座ってみなさんに話しかけられるでしょうか。ということで、私たちは互いに密接な関係にあるわけです。農家の人たちが穀物を育てなかつたら、たとえ私たちがお金を持っているても、私たちは空腹を満たすことができるでしょうか。いいえ。ですから私たちはすべてのことをお互いに依存しているのです。私はみなさんに何かを教えに来ているとは言えません。どうかそのような概念を持たないでください。この無上の称号に関係なく、気にすることはありません。というのは、私たちはみな至高で無上だからです。私たちはこの物質的な体に降りてくる前に、無上の源からやって来たのです。そしてときが来たなら、その無上の源に帰って行くのです。ということで、私たちは至高、無上の身分を否認する必要はありません。どんな否定もできません。あなたがそれに気づきたくないと思っているなら、それはあなたが謙虚だからです。またはそれに達していないと感じているからです。それはあなた次第なのです。けれども私は私の地位を否定したいと

は思いません。なぜなら私は知っているからです。そのことについておごりはありません。それはただあなたが認めることなのです。少しの傲慢さもなく、つまらないことで大騒ぎもせず、謙虚を装うこともなく。というのは、謙虚を装うのはあくまでも偽物です。それは本物ではありません。

私たちは靈性、そして言動において、真・善・美（真理・高德・完美）でなければなりません。それが完璧な人間なのです。この「即刻開悟の方法」に従いたくないと思うなら、他の方法を試すこともできるのです。少なくとも考えることはできます。そうすれば、再び内面に集中して、自分が誰であるのかを思い出すのです。そして次の文を本当に理解することができのです。「私たちは神の子どもである」、または仏教徒にとつては「私たちはすべて内面に仏性を持っている」ということを。それは私たちが仏陀と平等であるということなのです。仏陀を崇拝するだけではありません。私たちは正しい方法で崇拝すべきです。それは私たち自身を認識するということです。そうすれば仏陀（悟りを開いたマスター）のすべき仕事が少なくなるのです。私たちが本当に仏陀や他のどんな聖人も崇拝したいと思うなら、私たちが仏陀になり、聖人になるべきです。そ



うすれば彼らは負担が少なくなり、悩みが少なくなります。人類を向上させるためのもう一人の仲間になるべきです。

ですから、私が「仏陀を崇拜してはなりません。仏陀になりなさい」と言うのを好まない人々がいるのです。私はみなさんにどうすれば仏陀になれるのかを教えることができます。私は仏陀を造ることができるのです。彫刻することによってではありません。みなさん自身の仏性を指し示すことによってです。そしてみなさんは本当に確信できるまで、日々それに気づいていかなければいけません。それらに気がつく方法があるので、みなさんが本当に仏陀であると確信できるまで、自分自身と対面しなさい。あなたが自分はすなわち仏陀であると、完全に信じるまでずっと。それが十方三世の仏陀（悟りを開いた衆生）と同等になるときのなのです。

### 自分自身を改善することで世界を変える

私たちは黄金時代に歩み出しているのです。ですから、私たちは変わらなければなりません。聖人がどうあるべきかなどという、すべての古くて無用な概念を後ろに置き去

りにしなければなりません。また私たちは暗い考えや、世界や私たちに対する否定的な見方を捨てるべきです。行動し始めるのです。

自分自身から始めるのです。私たちは自分の家をきれいにするのは、私たちの家が汚れているなら、私たちはまずきれいにするのは、自分自身に好きではないところがあれば、それを変えなさい。もっと積極的なものに変えるのです。もっと道徳的な品性に変えるのです。たとえば、ホームレスの人たちを見たとき、以前私たちは気にしませんでした。その人が炎天下、何時間も道ばたに立って、空腹のために食べ物をもらおうとしていても、あなたはこう言ったかもしれません。「だめです。家に知らない人を連れて帰ることはできない。危険です」

そうです。でも私たちは彼に食べ物あげることはできません。私たちは彼に見返りを求めません。私たちはホームレスの人たちのそばを通り過ぎても何も感じないときもあります。反応が遅いのが習慣になっていて、彼らを助けようとは思わないのです。そして助けられないのです。私たちは家に帰って何か間違っていると感じます。「私は助けるべきだった」と。けれども、私たちは次の瞬間にすばやくそれを隠してしまいます。「何でも

ない」。そしてテレビを見たり他のことをするので。

私たちは自分の良心の声を聞こうとしません。それこそ世界が決して良くならない理由です。実際、私たちが考えることはみな世界をより良くします。少なくとも自分や隣人にとつてより心地よい場所にします。私たちは分かち合えるのです。分かち合うことから始めなさい。そうすれば私たちは自分の中に、微妙な変化を感じるでしょう。もっと多くの愛が私たちの意識の中に注ぎ込まれるでしょう。私たちは何かに気がつくでしょう。それが始まりなのです。

そういう理由で、五戒というのは私たちが好ましくないと思つているところを変えなければならぬということの示唆になるのです。私たちが罪を感じたり、自分を責めるべきだということではありません。失敗をしてしまうかもしれませんが、それは私たちが前へ進むための目標なのです。たとえば暴力や怒りの代わりに、私たちはもっと愛そうとするのです。貫う代わりにもっと与えようとするのです。別の愛人を持つ代わりに、自分の奥さんに対してもっと誠実になるべきです。もしかしたら逆に、奥さんが愛人を持つかもしれませんが。（マスターと聴衆笑う）

みなさんはいつも男の人に対して不満を持っています。私にはどうしてだかわかりません。女の人たちもまた、花から花へと飛びうつる、マダムバタフライを演じたいと思っているような人もいます。(聴衆笑う) 二種類の花があります。雄花と雌花です。みなさんは知っているでしょう。これらは私たちの世界をより明るくしてくれて、より創造的に、より穏やかな雰囲気になっています。それは私たちをより良くするためなのです。

すべてが良いことですし、ある種の禅定なのです。私たちは生活の中でいつでも座禅しています。ただほとんど間違ったものに対して座禅しています。ですから、今私たちはその禅定のパワーを、正しい物事に対してスイッチを入れて使うだけなのです。それだけです。私たちが他人を犠牲にして、お金を稼ぐ方法ばかり考えているときも、また座禅になります。お金に集中しているのです。(マスターと聴衆笑う) 私たちはすべての集中力と思考力を、一片の紙(紙幣)を手に入れるために使っているのです。その紙には「私たちは神を信じます」と印刷されています。(マスターと聴衆笑う) 矛盾していませんか。

私たちの神はあるときはお金なのです。(マスター笑う) 「神を信じる」という意味

は、私たちは神を認識しなければならぬということです。神を認識しなければ、私たちはどうやって信頼することができるでしょう。「神を信じる」というのは非常にやさしいことです。でもどうやって信じるのでしょうか。神とはいったい誰なのでしょう。神とはどんな格好をしているのでしょうか。神は私に何をしてくれるのでしょうか。どうして神を信じなければならぬのでしょうか。というところで、私たちは悟りというものがどんなものを提供してくれるのか知らなければならぬのです。私たちは神が何であるか知るために、神が誰であるか知るために、そして神が私たちの日常生活において細かいところまで、何を助けてくれるのか知るために、悟りを開かなければならぬのです。それは私たちが悟りを開いた後にわかることです。私たちはますますはっきりとわかっていきます。私たちが以前天の恵みを受けたことから、すでに神を認識していたなら、毎日座禅をすることによって、神をもっともつと認識することができなのです。私たちの悟りの気づきを維持するための、とても科学的な方法を通して認識することができのです。私たちが一、二度、悟りを経験していても、それでもまだ究極とは感じません。もし誰かが長い間空腹で、そしてあ

あなたがほんのちよつとの食べ物と水をその人に与えたとしたら、それで満足できるでしょうか。もちろんそうではありません。

### 神だけが私たちの内面に住んでいる

ですから「即座に悟りを開く」という意味は、あなたが開悟の味を体験して、それほどのように養っていくかということをおあなたに教えていくことなのです。毎日持続し発展させなければなりません。あなたが完全に悟りを開くまで。本性を認識するべきが、すなわち神を認識するときなのです。というのは、神だけが私たちの内面に住んでいるからなのです。

聖書では「私たちの神殿の中に二人の人間が住んでいる」と言っていますか。キリストはそう言いましたか。釈迦は「二人の仏陀が内面にいる」、それとも「一人は仏陀で、もう一人は凡人が内面にいる」と言いましたか。釈迦はそう言いましたか。いいえ。聖書もどんな經典も「この家の中に、体の中に二人の人間がいる」とは言っていません。そうだとしたら、内面にいるのは誰でしょう。ただ神だけです！

私たちが習慣や蓄積された世俗的な考え方を捨てるなら、内面には神以外の何もありません。ただ神だけです。習慣も知識も何々博士であることも、本性ではないのです。私たちはそれと一緒に生まれてきたわけではありません。それと共に死ぬわけでもないのです。ですから、この唯一本来のものというのは神なのです。私たちの本性なのです。ほとんどの人は忘れてしまいました。（聴衆拍手）

みなさんは私に尋ねます。「私たちはあなたに会って、どうやって『即刻開悟』することができるのですか」と。みなさんは私に会う前にすでに悟りを開いているのです。ただみなさんはそれを知らず、忘れているだけなのです。というのは、みなさんは自分を誰々夫人で、一日八時間働き、三人の子どもを持っていて、そしてときどき怒ったり、ときどき愛情深くなるというふうに分を決めつけているのです。こういったことはすべてあなたではありません。ただあなたがその情報を収集してきただけなのです。ただ環境や時間の必要性に応じて行動しているだけなのです。それはあなたではありません。私たちが生まれてきたときはこのようなものはありませんでした。

ですから、本当に私たちは神のようであり、また神の一部でもあります。実際、私た

ちは神なのです。あなたは今そのことを信じないかもしれませんが、家に帰ってから考えてごらん下さい。私たちは神の中で呼吸しているのです。神の中で生きているのです。私たちは神から生まれ、神に戻って行くのです。私たちが神以外のものから来たとしたら、私たちはどこへ戻って行けるのでしょうか。私たちがカーペットや天井から生まれたと考えますか。父親からの一滴の精子から生まれたと考えますか。

あなたを形成しているのは、あなたの食べたものですか。そうしたら、私たちは自分のことを人間や知識を伴った人類という代わりにハンバーガーとか、（聴衆笑う）キャベツだとか、八百屋さんなどというように呼ぶべきではないですか。たとえ、あなたの食べているもので牛や犬を飼育しても、牛や犬はあなたのようにには聡明になりません。あなたが父からの一滴の精子を犬や他のどんなものに与えたとしても、それが人間になるのでしょうか。いいえ。

私たちをこのような体に形成しているものはいったい何なのでしょう。それは神のパワーなのです。それは全宇宙にあるものなのです。それは空気中にもあります。私たちが行くところどこにでもあります。私たちのいるところどこにでもあります。それはた



またま、この道具の中に存在しているのにすぎません。道具のいくつかの中に。それはそれ自身ただ電力のように存在しているのです。電力は電球の中にあります。冷蔵庫の中や、エンジンの中にあるようなものです。電力はどこにでもあります。どこでも同じパワーです。それはある種の道具の中のみ存在しているのです。そういうことで神のパワーというのは、私たちの中にのみ存在しているのです。

私たちは一時的に神のパワーを保有することができるといえる道具の一つです。ちょうど滝やとても高い山から落ちる水の流れをためるように。ある人はたまたま穴や、プールを掘っておいただけでその中に水を入れることができます。水は入ってきてそして再び出て行きます。川とつながっているからです。プールの水は川から来ているのです。香港で私たちはプールを掘りました。実際私たちがそれを掘ったわけではありませんが。私が滞在しているところは山の上なのです。みなさんは香港に山があつて、非常に静かで、すぐ隣に百階建てのビルがあるということを知ったなら、驚くでしょう。ほんの五分歩けば、香港全体を見ることができのです。ほんの五分戻れば、果樹だけが植えられていて、緑で美しくそして山ごもりができる山があるのです。そこが香港で私が滞在してい

るところです。

現在私たちは一つの山を持っているのですが、そこにはたくさんの起伏や高台があります。段々になっている起伏が見えます。起伏の層の間を岩とセメントで囲むと、まるで天然の池のように見えます。近くの小川から池に水を引きました。そしてそれより低い層のところで私たちは野菜を育てています。非常に広いところですが、私に時間があるときだけですが、いつもはできません。私が泳ぐプールの水は、野菜のところに流れていきます。ですから私は水をまくために疲れることはありません。

水はいつも出たり入ったりしていて清潔です。というのは、私たちはすべての苔を取り去るために、繰り返し繰り返し掃除をしているからです。それは緑色の植物で、プールを覆っています。私たちは大きな玉石を敷きました。輝いていて、美しく、それは装飾用の玉石のようですが、安くて十キロで一ドルですが、とてもきれいです。水の中に敷き詰めると、ときどき緑色の苔で覆われてしまいます。ですから私たちはそれを洗うわけです。

魚もまたやってきます。とても高価な魚です。人々はそれを一匹、二千二百米ドルで

売ります。でもこんなに小さいのです。やっとこんな大きさになるのです。(聴衆笑う)でもそんなに違いはありません。それはとても愚かな小さな魚の一種です。その魚がある日私を驚かせました。愚かな魚でしかないと思っていたのですが、とてもゆっくりとしていて、何もできなくて、でも、現在とても珍しい品種になってしまったために、多くの人がその魚を捕まえようとし、買ったり売ったりしようとしていっています。私たちはそんなことをしようとは思いません。私たちはその魚でお金を儲けようとは思いません。私たちは彼らを守っています。誰一人私たちのテリトリーに入ってきて、捕まえることはできません。私たちのテリトリーはこの魚でいっぱいなのですが。私はすぐにも億万長者になるかもしれませんね。(聴衆笑う) 魚市場を開けばね。

さて、この魚は独特です。頭のてっぺんは焦げ茶色で、腹部には明るいオレンジ色の斑点があります。お腹の下とかひれとか、そんな感じですよ。そして水中で泳ぐことはもちろん、陸地でも大丈夫です。水陸両方で生きることができるのです。それで人々はその魚が好きなのです。私は非常に愚かな魚だと思っていました。でも、ある日私を驚かせたのです。というのは、彼らは互いに楽しそうに話すのです。ちょうど愛し合っ

いる恋人のようです。一方がちよつと怒つて、ぶいと行つてしまうと、彼はずつと後を追いかけて、前にまわつて止まつて、そして目を覗き込みます。ちよつどこんなふうにしたのです。(聴衆笑う。拍手) ちよつどみなさんが愛している彼女が怒つたときのようにな、とりなしたいと思うような感じなのです。本当にそんな感じなのです。信じられませんか。私は本当に感動しました。そして思いました。「ああ、しまった。本当にごめんなさい。あなたをおばかさんだなんて思つたことを後悔しています。(マスターと聴衆笑う) あなたは私たちより上手に素晴らしい恋人を見つけてるというのに」。そしてしばらくすると、メスが同意しました。一緒に泳ぎ、そしてもうそれ以上喧嘩しませんでした。あるとき、もつと私を驚かせました。というのは、彼は動作が鈍くばかみたいな魚だったのです。こんな感じですよ。水の中でとてもゆっくりです。私がプールのところまで来ると、私はそのうちの一匹に気がつきました。私はびっくりしてそして言いました。「ねえ！ そこにいるあなた、こつちにおいで」。ちよつと冗談ほく、わかるでしょ。すると彼はやつて来たのです。こんなふう私に急接近して、私の手のところまで来たのです。彼は触つてそしてまた行つてしまいました。私は言いました。「ねえ！ あな

たは私のことがわかるの。だったらもう一回戻っておいで」。彼は私のリクエストに応じて、三回連続して、ちやうど彼が愚かではないんだよと私に見せるかのようにしたのです。(聴衆笑う)

それで私は神に対する懺悔とこの生き物に対するお詫びで一日中過ごしました。一人の supreme Master (スプリームマスター) が、この魚が聡明なことを知らなかったなんて。(マスターと聴衆笑う) 私はとてもいけなかったと感じています。でもいいこともありました。私ともう一人の目撃者がいたのです。私が物語を作り上げたのではありません。(マスターが側近に話しかける) あなたはあの魚のことを覚えているわよね。三回プールからやって来た魚のことだけど。そうそう。あの魚はそこにいて、そしてビデオに収めようとしたのです。でも、カメラの黒いレンズがじっと見つめているのに気づいたとき言いました。「ウー、ウー、ダメ。私はテレビになんか出たくない」。(マスターと聴衆笑う) 有名になりました。たぶん恐かったのだと思います。そして私は「そのとおり、そのとおり」と思いました。「こんなふうにして映像にとつてはいけないわね。人々がこの魚をもつと獲ろうとするから。それを商売にしてしまうだろうし、

もっと危険にさらされてしまうわ」と、彼に言いました。すでに絶滅に瀕した品種なのです。この魚は非常に聡明でした。わかりますね。彼はいつ来て、そしていつ来てはいけないかを知っているのです。一分間に三回、彼は立て続けにやって来ました。私「おいで」と言うと、すぐにやって来ました。戻って行って、そして私が「もう一回おいで」と言うとまたやって来たのです。ちゃんと私がいる場所に。ちよつと脇にはずれたところではないのです。こんなふうに着接近して来るのです。真つすぐにです。

### ベジタリアンになることはすべての生き物を愛することのはじまり

みなさんが次のようなことに気がついた後に、魚や肉を食べなくなることは良いことです。実際、私たちは犬を好きになれるのに、なぜ牛や豚を好きになれないのでしょうか。彼らの本質は同じなのに。(聴衆拍手) これは私たちがベジタリアンにならないといけない理由の一つです。すべての生き物を愛し、愛を広げていかなければなりません。私たちの愛を広げなさい。私たち自身を大きくしなさい。全宇宙に。私たちは花を切ったり、野菜を食べることさえすべきではありません。けれども、やはり苦しみが少

ない最低限のことはしなければなりません。花は私たちが切ってもまた咲くことができますし、もっと花を付けることができます。野菜は私たちが枝を切ると、また何本かの枝を伸ばすことができるのです。ですから、それほど悪いことではありません。すべての生き物は感覚を持っています。植物は最も感覚が少ないのです。というのは野菜の成分の九〇%が水だからです。ですから、動物や人間よりも意識が低いのです。私たちは人間はたくさんのものの組み合わせで成り立っています。そしてそれが智慧を活性化するのに、良い環境を与えるのです。たとえばみなさんがとても聡明だとしても、知的なことをプログラムしたり、卓越したプログラムのために良いコンピューターが必要です。同様に、神のパワーは内在のものを外の世界に表すために、さまざまな要素で構成されたこの体が必要としているのです。これが私たちにはより多くの感情があり、比較的聡明である理由です。そして、神のパワーは神の加護やメッセージ、智慧を広めるために、私たちのごく小さなたくさんの道具を利用することができます。けれども、植物となると神のパワーが発揮できません。なぜならば植物は完全な道具ではないからです。それだけのことです。ちょうどどこにある電球のようなものです。その電球が一

〇〇ワットだとすれば、二〇ワットのものよりも明るいですが、もし私たちが一〇〇ワットの電球を壊してしまったら、二〇ワットの電球を壊すより高いものについてしまいます。それで私たちは節約に努めるのです。これこそ私たちがより低い意識のものを食べたほうが良いという理由です。野菜のようなものです。みなさんは論理的だと思えますか。大丈夫ですか。（「はい」と答える）

私はみなさんを罪の意識の中に押し込めようとか、そういうことを考えているわけではなく、原因と今後のやり方を話し合うだけです。そういうことで、人類を殺すということは一番ひどい犯罪です。動物を殺すということは二番目です。植物はそれほどではありません。植物は再び育ちます。たとえ根からでも。ところがたとえば、動物は頭の半分を切り取ったとしたら、再び成長するのは不可能です。ですから、私たちはそれが合理的であるということを信じなければなりません。罪と罰の理論であるからではありません。また何人かの教師がそう言っているとか、ある宗教がそう言っているからではありません。

私は私たちが何でもうのみにするような、そんな智慧のない人々だとは思っていません。



ん。特にアメリカ人はそうです。彼らはナンセンスな市民ではありません。彼らはただ何でも食べてしまったりはしません。ですから私たちは彼らに対して、どんなことであれ論理的なことを言わなければならないのです。たとえ人々が今日それを受け入れないとしても、彼らは後から考えるのです。ときどき私はこう思うこともあります。私の講義の間、あまりにも速すぎて、みなさんは一つの文章を聞き、次の文を聞き逃してしまふときがあります。そしてまた理解しにくいこともあります。そんなとき、みなさんがもう一度聞きたいと思うのであれば、テープを手に入れることができます。私たちが売っているテープは、儲けを考えていません。ちよつと質の良い新しいテープくらいの値段です。というのは、私たちは儲けのために神を売ろうなんて考えていないからです。

私たちは別の方法で利益を得ることができます。ドレスをデザインしたり、灯籠を作ったり、絵を描いたりというような世俗的な才能を使って。このようなことはすべて私たちに許されたことです。それは私たちの世俗的な才能ですから、私たちは世俗的な利益を得るのです。儲けのために神を売るではありません。私たちはお金集めをするこゝとさえしません。会費を取ったり、神の教えを利用して何かをしたりということはしま

せん。というのは、それはすべての神の子どもにとって無料だからです。それは私にとってもただなのです。私に余裕があるかぎり、すべての人にとってもただなのです。もし私に余裕がなければやめます。とても簡単なことです。

さて、みなさんは私たちがなぜ神なのかわかりますか。神のパワーは遍在しています。どこにでもまんべんなく行き渡っているのです。そして私たちはその一つの受け皿にすぎません。私のプールのようなものです。水は近くの小川から流れて来て、一本のパイプに通されます。水の流れをストップさせることなしに、川に再び戻って行けるように、私たちは上や下に穴をつけたのです。プールの水は、たとえ石やセメントに囲まれていたとしても、川からの水であり、そして他の道につながっているのです。

私たちのプールが、ある理由から泉とのつながりを遮断されたとしたら、開通させなければなりません。たぶんパイプが詰まっていたり、壊れていたり、また穴が詰まっていたりするのもかもしれません。そうしたとき、私たちは直さなければならぬのです。悟りというのは私たちの無知を取り去り、自分自身の本性に戻って内面にいる神とつながり、そして宇宙の全パワーとつながることです。(聴衆拍手)

## 〈講演後の質疑応答〉

※Mはマスターの答え

Q 「輪廻」についてどうお考えですか。

M 私が以前話したように、「輪廻」とは生まれ変わりのもう一つの言い方です。東洋の人がよく使う言葉です。聖書ではあまり使われていません。というのは、聖書は完成されたとは言えませんし、みなさんもよく知っているように、二千年かその間の間、「輪廻」（マスター笑う）してきました。ですから、何かが欠け落ちていられるかも知れません。本当の聖書はある場所に保管されていて、私たちは決して見ることが許されてはいません。でも、古代の遺跡から最近発見されたものの中に、聖書のある部分が出て来て、そのいくつかは「輪廻」について述べています。

ちよつと思いましたが、たとえばある部分で、ある人がキリストに、彼が最後の予言者、エリヤとかそういう人たちの生まれ変わりなのか、またはその使命を続けて負っている存在なのかを聞きました。キリストがすでにその存在になる前に、キリストよ

りに前に生まれてきた二、三人の予言者の名をあげて、彼らがキリストの前世かどうかを聞いたのです。するとキリストはイエスともノーとも答えませんでした。もし、「輪廻」に対する概念が間違っていて、予言者は人々を助けるために再び「輪廻」しないなら、そうならキリストは、「いいえ、『輪廻』などありません」と言ったでしょう。ところが彼は答えなかったのです。たぶん彼は「はい」と答えたのかもしれない。でも彼はとても小さな声で話す人だったのでしよう。(マスター笑う)

わかりますか。その後、この質問に対するどんな記述もありません。そこで私は次のように理解したのです。二千年以上も前、仏陀やキリストの時代にある問題に対して答えないと言うのは、同意しているという意味だと。人々があなたに何かを尋ねて、あるとき、三回尋ねたとして、あなたが答えなかったら、認めたということ。またあなたが弟子からの招待状を貰ったとして、あなたが沈黙を守っていたら、それはあなたが同意したという意味なのです。つまりこの場合、私たちは「輪廻」に対する聖書のある部分をちらりと見ることでできますが、他の方法では証明するのは非常に難しいのです。あなたがキリストに関するたくさんの文献を読んだとき、彼がインドやチベットにい

たことがわかるでしょう。そして仏教徒の師や、その他の人々と共に勉強していたというところを知るでしょう。そうだとすれば、彼は「輪廻」の法則をよく知っているはずで、もし、彼がそのことについて弟子に教えなかったとしたら、大いに驚くべきことです。たぶん聖書ではその部分が失われているのかもしれませんが。また翻訳が正確ではなかったり、すべてそんな調子なのです。というのはキリストの時代というのは非常に混沌とした状況だったからです。

ときには、彼は身の安全のために隠れなければなりませんでした。そして弟子たちも不安の中で修行をしていたのです。ですから、キリストのすべての教理が完全に記録されてきたわけではありません。また彼は息を引き取る前、ほんの三年半の間だけ教えることができたのです。恐怖に満ち、限られた状況の中で、彼はどうやってすべてを教えることができたのでしょうか。そしてそれもほんの一握りの弟子たちだけにだったのです。たいへん困難なことでした。

「輪廻」は理解するのがとても難しいというようなことはありません。たとえば私たちは一日一日生きていて、昨日あなたがあることをやりたいと思っただけで、やれな

ったり、完全にやり終えなかつたとします。そうすると今日目が覚めると、あなたはそれをやり終えようとしたり、もう一度試す方法を考えたりします。私たちの人生においてやり終えてないことはどんなことであれ、私たちがこの世を去る瞬間に、なお欲望として持っているのです。私たちはそれをしたいと思い、やり終えていなかったことに對して、とても深く後悔するのです。ですから、本当にこの欲求は、力強い強制力で私たちに再びそれをさせるために、もう一度チャンスを与えるのです。ですから私たちはこの世で神のパワーを用い、私たちの欲求を達成させる日まで、私たちの智慧を表わすために、繰り返し繰り返し肉体という道具を与えられるのです。この世に来て私たちの智慧を展開して、そして私たちのすべての仕事をやり終えるのです。そうして家に帰って行くのです。

それが悟りを渴望する人々の状況です。彼らはこの世の中ですりたいと思うことが、もはや何もないと感じています。たぶん彼らの使命が終わったのでしよう。それはただ家に帰りたいという心の状態に、彼らを自然に後押ししているということなのです。彼らはどこに家があるのか、それがどういふものなのかは知りませんが、その源に帰って行

きたいと思うのです。それこそ人々が悟りを得たいと思うときなのです。そういうわけで人々は言います。「生徒の準備ができたとき、マスターは現れる」と。人々に悟りを得ることを強制することはできません。ですから、キリストも仏陀も強制することはできませんでした。インドのすべての人が、師が存命中に悟りを得ていたわけではありません。すべてのユダヤ人が、キリストが存在していたとき、悟りを得ていたわけではありません。「輪廻」というのは、私たちが家に帰りたいと思ったときに止まってしまふのです。私たちがこの世のどんなものにも、興味を持たなくなったときです。

私たちが何かに興味を持っている限り、現世において未完成なことが残っている限り、それは私たちがまだこの世の中にとどまりたいということを意味しています。それはまさにどうすることもできないような、避けることができないようなパワーなのです。ですから、悟った人と悟っていない人というのは、よく似ていますが、悟った人というのはより良い生活をしています。順調で、より智慧のある生活を送っています。あまり努力せずにたくさんの方ができるのです。

多くの人々が私に尋ねます。「あなたはマスターになって、世界中を廻り、講義をして、

さまざまな国の弟子たちの面倒をみて、その上、絵を描き作曲をし、歌をうたい、作詞までしています。どうしてそんなことができるのですか」と。

私は言います。「どうして。それはとつても簡単なことですよ。絵を描くのにそんなに時間はかかりません。音楽を作曲するのも数時間ですみます。私は四日間で十二曲を作りました。大したことではありません。詩を書くことも、他のこともです。みなさんが実際にインスピレーションを受けて、時間があるなら、まさに同じようにあつという間にできます。わかりましたか。洋服をデザインすること、これは私にとつて十分もかかりません。何も問題ありません」

けれども、私がほんの少し悟りを得る前は、すべてが難しかったです。私には絵を描くという考えさえありませんでした。私は高校かどこかで絵を描いているときに、よく覚えていないのですが、馬の絵を描こうと思ったのですが、まるで七面鳥のように見えるのです。(マスターと聴衆笑う) 先生はこう言いました。「絵の具を無駄にしなれば点数を付けてあげるから」と。(聴衆笑う) 何かそんな感じでした。



Q 私たちの潜在意識は私たちの無限の智慧とつながっていますか。

M そのとおりです。潜在意識というのは、ある種のかげ橋のようなものです。それはまだ本性に達しているわけではありません。それは無限の智慧にかかる橋のようなものです。そういうことです。

Q 私たちの目の前にある問題や苦しみに、どのように向かっていけばいいのですか。

M 私たちが除去できるものであれば何でも除去してしまいなさい。もしそれができないのなら、神に私たちを助けてくれるように祈り、克服できるように祈りなさい。また苦しみを克服できるように、その人たちのために祈りなさい。とにかく悟りを得なさい。すべてのこの苦しみについて消化したり、手助けの方法を考えることはもつと簡単なことです。私たちが悟りを得ているなら。

Q あなたは私たちが生まれてから、ずっとすべての行程において神が私たちを導いていると信じますか。

M はい。でも私たちは神のことを気にとめていますか。私たちは今まで神の言うことを聞いたことがありますか。そうしていたなら、私たちの多くは困難に陥らずにすんだでしょう。そして、私たちの世界は今までのようにあんなではなかったでしょうし、また今日あるようなこんな状況ではなかったはずですよ。ですから、私たちはまず悟りを開かなければなりません。私たちは神の声を聞くために、神ともう一度つながらなければならぬのです。神が私たちに何をするように望んでいるか知るために。正しい道を知るために。

そういうことで、私たちは神と再び結びつくことを提供しているのです。それが悟りを開く、天国を探すということです。みなさんが呼びたいように何と呼んでもらっても構いません。私たちはすべての専門用語のリストを並べあげることにはできません。たとえば次のようなものです。悟りを開く、自分自身の仏性を探しあてる、仏陀になる、天国に戻る、自己を知る、神を知る、神を悟る、自己を悟るなど。ですから、私たちはそれを「即座に悟りを開く」と言っています。

- Q キリストは「私」が唯一の道であると言っています。もし彼が広い心を持っていたら、彼はこのように言うべきではないでしょうか。「釈迦もクリシュナも同じ道です」とある聴衆が答える 私はただ単にこのように考えます。キリストは「私」というのを遍在であり、全能であると話したのにすぎないと思います。（「そう、そのとおり」とマスターが言う） つまりそれは神の愛と智慧ということですからキリストは「私」というのを「愛と智慧、遍在、神のパワー」で、それが道であるという意味で言ったのだと思います。（聴衆拍手）
- M それはちよどこのようなことです。クリシュナが言いました。「私だけを愛しなさい」、そして「私」は大文字（**私**）です。「私だけについて来なさい。私にすべてを投げ出しなさい。そうすればみなさんの人生はより良くなります」と。釈迦も同じようなことを言いました。「仏陀だけについて来なさい。そして他のどんな人にもついて行つてはいけません」と。彼が意味したのは本性、遍在で全能のパワーを指しています。それは、当時たぶんその電信柱（釈迦自身）によって、明らかだったでしょう。（マスター笑う）

まさに明かりの中で電灯が一番強く、一番明るかったのです。その他の明かりは薄暗く、それは電力によるものだとということを知らなければなりません。当時は電力の明かりが一番強く、一番明るかったのです。近づけば本も読め、あらゆるものがはっきり見えます。また、鏡にうつる姿や、化粧した姿も見えます。かといって、その電球を信じてはいけません。その電球の内部に流れている電気を信じなければなりません。

ですから、すべての生きているマスターは、神のパワーを貯えているのです。神はどの時代においても、どの生きているマスターをも使いこなすことができます。なぜなら、神は無限だからです。神はたった一人の子どもしか持てないというほど貧しくありません。そうなのです。彼自身のそばに彼の子どもたちを引き寄せてくるために、彼はとてもたくさんの方法と道具を持っているのです。そう思いませんか。（「はい」と答える。聴衆拍手）

私はみなさんにできる限り、すべての愛を送りたいと願っています。みなさんが悟りを開くのを手助けするために。でも、もし私たちがよい縁を結んでいなければ、みなさんは待つこともできません。しばらく聖書を勉強しなさい。神を信じなさい。キリストを

信じなさい。それはみなさんにとってはとても良いことです。聖書を勉強するというのは、言葉を知るというだけではなく、行動に移すということです。たとえば十戒ですが、私たちはそれらを堅く守ろうとすべきです。それはクリスチャンにとっても良い方法です。

私は悟りを得る前に、毎晩聖書と共に眠りました。私は問題を抱えるたびそれを開いてみました。聖書なしで私は眠ることができませんでした。交替に、午前中私は仏教経典を読みました。私を心地よくしてくれて、ときにはとても至福に満ちた状態にまで、私を引き上げてくれました。それもまた助けになりました。みなさんが本当に聖書を尊敬し、深く信じるならば、心から学ぶのであれば、みなさんを大いに助けてくれるでしょう。

私たちはただ、みなさんが興味を持てば、もう一つ選択できる道を提供しようとするだけです。興味が無いのでしたら、どうか聖書を信じて戒律を守り続けるように努力してください。神があなたに教えている、愛すべきことを行動に移してください。それだけです。



## 修行は世界により文明をもたらす

アメリカ・ニューヨーク コロンビア大学における英語の講演

（一九八九年十一月三日）

親愛なるみなさん、一緒にみなさんの神に向い、みなさんの良き本質と仏性に向い、数分間お祈りをさせていただきます。この講義がみなさんにとって多少なりとも助けとなりますように。ありがとうございます。

みなさんは大知識であり、大智慧の子どもなのです。みなさんは自分のことについて何かわかっていると思います。みなさんが知りたいと思うと、ときには自分の内面の偉大さを感じ、造物主である父なる神、聖母、または私たちのいわゆる仏性を感じられると思います。私たちはそこから来て、またそこに帰るのです。

人々はみんな自由意志があります。そして、その絶対的な自由意志でこの世界にとどまるか、もっと高い王国に行くのかを選択します。大多数の人はこの世界にとどまることを好みます。けれども、一部の人は家に帰ることを好み、天国や仏土に帰ることを好むのです。私たちがいったい何をしたいのかをはっきりさせるだけでいいのです。本当にこの地球にとどまって、人類のために役に立つ地球人になりたいと思うなら、いくつかの条件について必ず考えなければなりません。そうでなければ、この世界で生きている間、楽しくないでしょう。天国に帰り、または仏陀になって仏土に帰ることを望んでいたとしても、そこに到達するために必要ないくつかの要素について考えなければなりません。

まずはこの世界にとどまって、快適で楽しい生活をするための条件についてお話ししましょう。もし、ここにとどまりたいと思う人がいればですが。私たちの地球はとても美しい宇宙船です。というのはいくつかの生きとし生けるものに乗せて空中を旋回しているからです。この地球は私たちに心地よさと楽しさを提供し、多くの宝物を与えてくれます。またいろいろな方法と手段で私たちの生命を維持しています。ですから当然の

ことながら、私たちは母なる大地がいつまでもこのような力強い状態を保ち続けるよう、少しでも責任を持つて助けなければなりません。そうしてこそ、私たちは大地に助けてもらうことができるのです。この目的を実現するためにどうすべきかについては、すべての宗教が教えています。もし許されるのなら、この機会を利用していただいて、みなさんに少し思い出ししてもらいたいのです。同時に、今後この講義のテープを聞く人のためにもなりますから。

私が見なさんの講師や先生、またはマスターといった類のものになりたがっていると、思わないでください。そのようなことはすべて忘れて、私のことをみなさんの兄弟や姉妹、娘と見てください。または単なるの善意と誠意のある者が、自分のすべてをできる限りみなさんに貢献したいだけだと思ってください。一人のエンジニアが自分の技術と知識を使って、社会のために役立つようにすることと同じことです。お医者さんが人のために苦痛を取り除き病気を治すことで、社会に役立つようにするものなのです。

私は生まれつき霊的知識を持つ傾向がありました。私には学んだすべての霊的知識を残さず還元する責任があります。それは、私たちが大学で機械や医術を学んだあと、社



会に還元するのと同じようなことです。ですから、私はただ自分の責任を果たすだけです。私にこのような機会を与えてくださり、私のこの仕事を歓迎して下さったみなさんに感謝いたします。

**私たちは5%の知能しか使っていない**

私たちの社会を以前のように楽しい状態に回復させるには、戒律を守り、互いに尊重し、理解しなければなりません。大多数の人たちの生活様式は自分を傷つけています。また他の有形、無形の生き物をも傷つけています。たとえ無形の存在を信じなくても、私たちは自分と同じ人種や人類、すべての動物の存在は認めるはずで、こういった動物も地球市民なのです。

ここ数年菜食がはやっていますが、これはとてもよい傾向だと思います。私たちはどんなものにもエネルギーがあることを知っています。すべての行動が記録され、何一つも漏れることがなく、科学でこれを証明することもできます。たとえば私たちが暴力をふるったとき、この暴力の雰囲気は私たちのまわりに漂い、地球のまわりに漂い、災難

を引き起こします。私たちはいつも、「なぜこんなに多くの戦争や地震や災難が、この惑星に降りかかるのだろう」と思っています。

どんなことにもすべて原因があります。聖書にはつきりと書いてあります。「汝がまいた種は自ら刈り取らねばならない」と。私たちは今自分でまいた種を見ないで、自分が刈り取る結果だけを見ることがあります。これは私たちの理解力が非常に限られているからです。科学の研究によれば私たちは5%の知能しか使っていないそうです。5%しか使っていないなんて、本当に意外です。それなら、私たちはどうやってこんなにたくさんのお仕事がわかるのでしょうか。私たちがまだ発見できず、知らないことがたくさんあるはずです。この点は認めなければなりません。否定することはできません。

二千六、七百年前、仏陀は弟子たちに「あなたが飲んでいる水に、気をつけなさい。水を飲む前にまず濾過し、秘密の呪文を唱えなければなりません。水の中の衆生を殺すことから免れるために」と言っています。彼はまた、一杯の水の中には八万四千の衆生がいると言っています。八万四千とは八万四千ちようどという意味ではなく、とても多いという意味です。これはインドの習慣です。それで仏陀は弟子たちに、飲み水を

濾過するよう教えているのです。

当時のインドでは、水を濾過するということが現在ほど普及していませんでしたが、仏陀は当時すでに時代を超越していました。水の中に多くの細菌がいるのが見えたのです。当然、当時の人々は仏陀の話が信じられませんでした。一杯のきれいな水の中に、さまざまな微生物や、私たちが細菌と呼んでいるものがあるなどということは証明できないため、信じられませんでした。でも科学が進歩したため、私たちは今日容易に証明することができます。

### 偉大な修行者は世界に文明をもたらす

今日、私たちの社会がこんなに進歩し、知的になったことはとても喜ばしいことです。科学の研究と勤勉な努力は、私たちに快適な生活をもたらしました。数千年前にはこんな電気製品がなかったのだらうかと、あれこれ思いをめぐらすかもしれません。それは私たちが昔はそれほど聡明ではなく、科学も発達していなかったからです。神が存在するなら、神はなぜ昔の人を聡明にしなかったのでしょうか。数千年前、その神の子た

ちの身に、いったい何が起きたのでしょうか。神は彼らに対して、生みの親のような待遇ではなく、養子のような待遇をしたのでしょうか。

実はこの世界の進歩は、いわゆる修行者、この世界で光のある人またはヨガ行者、開悟した人、偉大な魂、またはマスターなどの大変な努力によってもたらされたものなのです。そういった偉大な修行者が、この世界にもたらした利益は多く、仕事の範囲も広いのです。たとえば、いわゆる高いレベルとはいえないヨガ行者、修行者、光を帯びた者であっても、この世界に今日のような成果をもたらすために、世界全体の雰囲気を変えることにおいて大きな貢献をしています。このような光の修行者や光を帯びた人々が存在しなかったとしたら、歴史上に存在しなかったなら、私たちの世界には今日のような進歩はないはずです。

私たちは快適な生活や先進的な機器について、科学や科学者たちの発見に感謝し、私たちに快適な生活をもたらしてくれたことに感謝しています。けれども「陰の恩人」を忘れていきます。そういった舞台裏の見えない人たちが、文明をもたらしてくれたことを忘れていくのです。もし、いわゆる修行者または光を帯びた人々がいなかったら、世界

は地獄のようになります。道德の手本もなく、高い生活水準も光ありません。電気がない荒野のように、昔のように真っ暗です。

ですから、私たちの世界が地獄と違うところは、一部の人たちに今もお光があるということです。そして私たちの世界が天国と違うところは、光を帯びている人や道德のある人が少な過ぎるということです。もしこういった人々がいなくなったら、世界は地獄に変わります。地獄は光もなく、道德もないところです。光を帯びた人がもつとたくさんならば、私たちの世界は天国に変わるでしょう。ここに違いがあるのです。

人々は快適な生活をし、天国のような世界に住みたいと思っていますが、みんなが努力して自分のために、周囲の人々のために天国を創りたいと思っているとは限りません。私たちは原点に戻って、キリスト教や仏教の経典を参考にし、私たちの世界を天国のような環境にする術を身につけなければなりません。みなさんが飽きてしまいかもしれませんので、この点に関してはあまり多く述べたくありません。きっと「そんなこと私は以前から知っています」とか、「聖書なら始めから終わりまでわかっています。私はキリスト教徒ですから、あなたに教えてもらわなくてもわかります」と言うでしょう。

また仏教徒の人は「仏陀の五戒ぐらい私も知っています。私は在家で四十年前にすでに仏陀に帰依しています。私には法名というものがあって、仏教徒の法名でとても特別なものなのです」と言うかもしれません。

仏教徒の法名はクリスチャンネームと同じようなもので、洗礼を受けるとき、聖人の名をもらいます。マリアとか、ジョセフとかというように。キリスト教は伝統によって自分の本名の他にクリチャンネームを持ちますが、仏教もよく似た伝統があります。仏法僧に帰依すると名前を恭しくいただくわけです。たとえば「全光」「仏光」「智光」「全智」などです。または「全徳」「解脱」「大悟」といったものです。

キリスト教徒であろうと仏教徒であろうと、このような称号を持つことは大変結構なことですが、文字通りの生活ができれば、さらにすばらしいと思います。私たちのクリスチャンネームが聖フランシスであるなら、その人の伝記を読み、彼が今日に至るまで全世界の崇拜と尊敬を浴びるには、どのようにして聖人になり、どのような一生を送ったかを知らなければなりません。私たちの法名が「阿難」だとします。インドの伝統によれば「阿難」とはサンスクリット語で無上の至福、至上の喜び、幸福、法の喜びに満

ちあふれるという意味ですが、私たちは道徳を磨き、内面の修行に精進し、内面の喜びを静かに観ることにより、このような喜びを得なければなりません。

私たちの真我というのはこの喜びであり、この道徳であり、神との絆なのです。私たちは真我を忘れるとともに孤独で、この世の苦難をなめつくすことになります。けれども、いったんこの真我と接すると、物事はすぐに好転します。そして自分がどの方向に進んで、何をすれば自分のために、社会、宇宙のために、利益をもたらすことができるのか、わかるようになります。

私たちが行うことはすべて、この世界または次の世界に影響を及ぼします。すべての宗教が万物は同一体であると教えています。私たちの体の各部分と同じように、たとえば手を怪我しても、体全体が影響を受けるのと同じです。宇宙の本体がこんなにも大きく、その中においても宇宙全体のことを見ることも知ることもできないのです。それで私たちは自分の行為が他のすべての存在に影響するということを信じないかもしれません。私たちが天眼、智慧眼が開いていれば、自分が確かにすべての存在と関係していることを知り、自分の行為に対し非常に慎重になるでしょう。

イエス・キリストや仏陀はこの智慧眼を發展させています。そこで彼らは宇宙の法律を知り、私たちの世界を美しくし、生活がもっと楽しく快適で、私たちの好みに合うように変える方法を知っています。ですから、彼らは天国の生活様式に基づいて規則を作り、私たちの日常生活においての行為の規範としたのです。こういった決まりは非常に価値あるもので、それを戒律または聖なる神の訓示と言います。私たちがこの戒律を守れば、生活が順調になります。ただし、それは世俗的な関係、貢献に関してです。

### 天国に入る最も早い方法

私たちが戒律を守り、近隣の人たちと仲良くして、敵さえも愛するのであれば、世界は平和で住みやすく、地球はもっと長生きするでしょう。世界が平和であれば、私たちの生活もその影響で平和であると感ずるでしょう。私たちが、壊れていたり、条件の良くない家に住んでいれば、私たちの健康も影響を受け、快適ではなくなりません。同様に、私たちが住んでいる世界が混沌としていて紛争が絶えないなら、私たちは平和ではありません。ですから、この世界を助けることは自分を助けることなのです。



さて、このようなことは、私たちがこの世界にとどまりたい場合の話です。もし、天国や仏土に帰りたいと思うのなら、仏陀になりたいと思うのなら、さらにもっと細かい条件と規則を知らなければなりません。五戒を守り、道徳的で、寛容で、人を助ける生活をするほかに、天国と通じ合わなければなりません。

天国とは何でしょう。みなさんが努力し時間をかけ、しかも誠心誠意そこに行きたいと願うのであれば、見るのはとても容易なことです。みなさんの純粋な心と誠意と全身全霊を捧げれば、天国を見つげることができます。けれども、最善で最も早い方法は、天国に入る方法を知っている人を見つげることです。その人について行けば、その人はあなたの手をとって上に連れて行ってくれます。ですから、イエス・キリストはこの世界に降りて来なければならなかったのです。彼と同じ時代を生きている、神を誠心誠意愛する人々を連れて、天国に帰るためです。そして仏陀もこの世界に降りて来なければならなかったのです。彼に帰依する者を仏土に連れて帰るためにです。

それぞれの国や時代には、いつもイエス・キリストや仏陀のような人がいます。これは非常に良い情報です。私たちがイエスや仏陀に礼拝することはとても良いことです、

私たちもイエスや仏陀と同じように偉大な人になれるということを知っている人はほとんどいません。これこそ、彼らがこの世界にきた唯一の目的なのです。イエスは聖書の中で「今日私が行なつたいかなる奇跡も、明日あなたがたはもつとうまく行なうことができるだろう」と強調しています。彼は私たちも彼と同じように偉大で、しいて言えばさらに偉大になれると保証しています。釈迦も「みな仏陀になれる。私はすでに仏陀になつているが、みなも将来必ず仏陀になれる」と言っています。誰一人として、自分は仏土のたった一人の所有者であると言っている人はいません。だれもそう言つてはいけないのです。もしある人がそう言つたとしたら、その人は仏陀の性質やキリストの精神を少しもわかつてないに違いありません。

真の「キリスト」というのは、人から人に伝えるパワーなのです。お金をたくさん稼いでいる人が、好きなだけ人にふるまうのと同じことです。私たちが物質的な財産を所有するのと同じように、確実に精神のパワーを所有できます。このパワーは人から伝授してもらつてはじめて得るものではなく、私たちの内面にすでに存在しているのです。ただ専門家に開けてもらわなければなりません。

たとえばこの部屋に入るとき、この部屋の電源やスイッチがどこにあるのかわからないとします。そこで私たちは自分で見つけるか、または一番早い方法はこの部屋の管理者を探すことです。彼はすべてを知っていますから。彼は毎日ここにいるので、配電盤の場所やどのスイッチでどの電気がつくのかを知っています。これが一番いい方法です。彼は数秒でスイッチを入れて電気をつけ、今日の講演で必要とするものをすべて揃えてくれます。

### すべての智慧のパワーを目覚めさせる

同様に、イエスと仏陀はすでに天国を知っています。彼らは数百万回とは言えなくても、数えきれないほど、この世界と天国を行ったり来たりしています。ですから、彼らは私たちが天国に行く手助けをし、必要とするものを提供し、私たちが快適にすることができます。私たちはいったんこの部屋に入ってこの部屋の管理者を探しさえすれば、必要なすべての物を見つけることができます。

同様にイエスが言っているように「まず、神の国を探すことです。そうすれば、すべ

てのものが与えられるであろう」ということです。いわゆる天国とは私たちに生まれながらに備わっている、一度も使ったことのない智慧のことです。私たちのほとんどはこれを使っています。私が何度も強調しているように、私たちは5%の頭脳しか使っていません。もし私たちが100%の頭脳をフルに活用するとしたら、天地を動かすほどのことができます。5%の頭脳しか使っていないのに、飛行機を作ったり、ロケットを作ったり行ったり銀河に行ったりと、数多くの驚異的なことを行なっています。また、いろいろな病気を治したり、偉大な発見をしたり、さまざまなコンピューターや機械、高速車やジャンボジェット機を発明しています。でも、まだ95%の知能は使われていません。もし私たちがこの知能を目覚めさせたら、さらにもっと多くのことを知り、もっとたくさんの方ができ、もっと多くのものを発明して、たくさんの方を作り出すことができます。

これが天国であり、仏陀の智慧であり、仏性の意味なのです。私たちはもっと精密なパワーを頭脳の裏に隠しています。これがいわゆる「魂のパワー」です。これこそが私たちの「本来の姿」です。私たちは「真の人」なのです。疑いの余地もなく真の自分は

私たちの体の中に存在しています。私たちは決してこの肉体ではありません。肉体は単に私たちがこの世界にいる間に住む家、ホテルの部屋にすぎないのです。そうでなかったら、死んだときに、まだ肉体が存在するのに、なぜ二度と動くことができないのでしょうか。ですからきつと何かが体の中にあつて、頭脳の裏で全体を機械のように動かし、考えたり、歩いたり食事をしたり寝たりすることを促しているはずです。それが私たちの真我です。

この真我は幻想のベール、または梵語（サンスクリット語）で言う「魔」の裏に隠れています。幻想はまるで芝居のようで、私たちに真我を忘れさせてしまいます。私たちがテレビや映画や芝居を見ているときに、集中し過ぎて自分を忘れ、舞台の役者を見て、泣いたり、笑ったり、悲しんだり、恐がったりするのと同じです。たとえば自分が参議院議員だとか、ある偉い人の夫人であることを忘れて、画面の前に釘づけになり、ドラマの中の人物と一緒に笑ったり、泣いたり、怒ったり、興奮したりするのです。そして芝居や映画が終わるとやっと現実を引き戻され、我に返り、そして家に帰ります。私たちはいつまでも劇場にいるわけではありません。またテレビの画面の前にいつまでも釘

づけになっているわけでもありません。

芝居や映画、テレビはその場限りのものなのに、あんなにも人を引きつけるのです。テレビはクセになりますよね。つけるとなかなか消すことができません。それはテレビが変化に富み、人を興奮させたり新鮮な感じを与えたりして、人を引きつけるからです。ときどき私たちは自分の任務や職務や、仕事を忘れて、テレビに見入ってしまいます。

人生はもっと大きな舞台で、もっと長い芝居です。私たちの真我を忘れてしまっても不思議ではありません。人生の舞台は劇場の芝居よりももっと面白く、もっと強烈で多彩でドラマチックで魅力的です。それで私たちはいつまでも人生の画面に釘づけになり、自分は誰なのかを忘れてしまっています。これはすべて幻想の芝居で、幻想がやむと芝居も終わり、そのときこそ私たちの目覚めるときなのです。

私たちが目覚めたときが悟りを開いたときです。私たちが完全に目覚め、芝居の印象がすっかりなくなると、もう二度と芝居の中の物語に心を痛めたり、泣いたり笑ったりすることはありません。そのときキリストと同じようになり、仏陀になったと言えます。私たちはそれがすべて夢であることを知ります。私たちが完全に目覚めたあととは、非常

にパワフルで、コントロールが必要な物事はそうすることができると同時に、すべての人を自由にすることができません。コントロールされたくない人は、すべて自然にまかせます。私たちは自分がしたいと思うことは何でもできますが、誰にも危害を与えません。ただ良いことだけをします。

いったん完全に目覚め、悟りを開くと、私たちの内面に生まれながら備わっているすべての智慧を得ることができます。5%の頭脳を用いたほんの少しの賢さだけで、こんなにたくさんの優れた作品が創造できます。たとえばエンパイア・ステートビルとか、数多くの驚異的な先端の機器などです。この生まれながらに備えている、新たに発見した智慧を上手に用いるのであれば、天国をも造ることができます。私たちは快適な環境と生活を営むことができるだけでなく、自分が必要とするすべてのものを手に入れることができます。

**すべての人が創造のパワーを持っている**

みなさんはインドとか中国、またはアメリカで超能力を持っている人がいるという話

を聞いたことがあると思いますが、それはたいして不思議なことではありません。彼らはただあの創造のパワーを使っているだけのことであって、一般の人よりももっと自分の知能を活用する方法を知っているのです。これは私たちが5%の頭脳を使って、飛行機や船、ロケット、科学機器などを作るのと同じです。私たちはこの創造のパワーをもっといい方面に使って、さらに先進的でさらに神秘的で、想像もつかないような優れたものを作ることができます。天国をはじめすべての安らかで、神秘的なものはみなこの創造のパワーで作りました。天国をはじめすべての人の内面にはみなこのパワーがあります。このパワーで花やオレンジ、お菓子などを作り出すことはいとも簡単なことです。それは頭脳の創造のゲームで、そういったものを作るのはほんの些細なことにはすぎません。私たちは多くのことを知れば知るほど、偉大な物を作り上げることができます。科学者たちはすでに多くの驚異的な機械や機器を發明し、人類に奉仕しています。もし、この科学者たちが智慧の王国に入れば、何も用いないで天国を作り上げることができるでしょう。私たちは宇宙船や数々の交通手段や機器などを作るために、地球上の材料を使っています。また、現世と来世に必要なさまざまなものを作るために、無形の材料を使う



こともできます。

それでイエスは「まず、神の国を探すことです。そうすれば、すべてのものが与えられるであろう」と言っています。仏陀もこの世の王位と栄華を放棄しましたが、彼はもっと多くの財産を得たのです。そして自分は世の中のどんな国王より豊かであることを知っています。そうでなければ、どうして国王の権力を独り占めできるというのに、それを放棄して四十九年間も乞食のような生活をしたのでしょうか。彼はいつでも帰って王位を継承し、偉大な国王になって国を治め、快適な生活を享受することができたのです。けれども彼はそうしませんでした。それは出家する前よりもさらに豊かで、欲しい物は何でも手にすることができたからです。

彼はどんな天国にも、どんな境涯にも、どんな惑星や銀河にも行くことができます。彼はさまざまな宝物を持ち、欲しい物は何でも手に入れることができます。けれども彼はそれさえもいらぬのです。私たちは宇宙のあらゆる神秘を知ると、また天国のすべての宝物を手にいれると、もはや欲しいものはありません。何事が起ころうと、私たちの内面はとても楽しく、子どものようになります。この世界の欲望はもはや私たちの心

を動かすこともなく、これ以上私たちを支配することもないでしょう。これが開悟の利益です。

### 悟りを開いてこそ本当に人を愛することができる

ほとんどの人が間違った概念を持っています。悟りを開くためには修行をしなければならず、それにはお坊さんや尼さんになるか、ヒマラヤに行かなければならないというような考えです。私も以前はこれと同じような考えを持ち、そうしなければならぬと思っていました。そのとき私はまだ悟りを開いておらず、愚かだったのです。みなさんは決してそうする必要はありません。私たちは家庭生活を送りながら、世俗のさまざまな責任を果たしながら、悟りを開くことができます。私たちが頭と手を同時に動かして、たくさんの仕事をするのと同様に、世俗の仕事をしながら悟りを開くことができます。私たちは限られた知能、五%の頭脳を使うだけで、こんなにたくさんの仕事をこなしているのです。たとえば、あなたが内科医だとして、家に帰ると庭で野菜を作ったり、奥さんを手伝いカーペットの掃除をしたり、その他にもいろいろな趣味を持つことができ

きます。もし、さらに多くの智慧があるなら、もっと多くのことができます。減るということは絶対にありません。天国を得るためにこの世界を放棄する必要はありません。かえつてもっとたくさんのができ、もっと貢献ができます。あなたの果たすべき責任を減らす必要はありません。

これが悟りを開く理論です。私はすでに出家者になり、この生活に慣れていきますので、ずっとこの生活を保っています。特に不便を感じることはありません。けれどもみなさんはそのような生活をする必要はありません。私たちは自分の持っている智慧でたくさんのができ、多くのものを受け入れることができます。私たちは神を愛すると同時に家族を愛することができます。私たちが神を愛することは、家族や家庭に対する私たちの愛をさまたげることではありません。神が愛であり、仏陀が慈悲であるなら、私たちの家庭もその愛と慈悲の対象となるべきであって、排除すべきではありません。私たちは神を愛すると、単に家族や夫、妻を愛するだけでなく、隣人や敵をも愛することができます。悟りを開くと私たちはこのようになります。

それでイエスは「汝の敵を愛せ」と言っています。彼は口先だけで言っているのでは

なく、本当に実行しています。完全に悟りを開くと、どんな人に対しても少しの恨みも抱くことはなく、物事がさらにはつきりと見えてきます。人々はどうしてあなたに対してこんな態度をとるのか、あの人にはあんな態度をとるのかよくわかります。けれども自分の行なった行為に対し罪悪感もなく、傷つけた人を恨むこともありません。なぜなら、あなたは宇宙のあらゆる物事の因果がわかっているからです。それで私たちは恨みというものからかけ離れ、隣人や敵をも愛することができます。

人に自分の敵を愛しなさいというのは容易なことではありません。道理はわかっても実行となると別です。仏陀の言葉を借りるなら「すべての衆生の本性はみなきれいで、罪もなく善も悪もない」ということです。けれども罪がないということ人を人に納得させることは、とても難しいことです。なぜなら人々は原因と結果を見ることができないからです。ですから、何かをするときにエゴが出てしまうのです。また、このエゴのためにさまざまなトラブルを引き起こしてしまうのです。けれども、いったん悟りを開くと、もつと高い観点、もつと高い知能で物事を見ることができます。そうなると私たちに何一つ偶然の出来事はなく、何一つ自分がやったことではないことがわかります。

しかし、これをみなさんに説明するのはとても難しいことです。悟りを開くことは、悟りを説明するよりよほど簡単です。

### 神に対する呼び方はたくさんある

仏陀の名前を聞いたり、さまざまな宗教の經典の道理を聞いていけば、ある程度の功德があり、道徳的な功德を持って、再び天国に生まれることができ、そうでないと地獄に落ちる、と人々は言っています。私は今、地獄のことをあまり信じていません。でも地獄は確かに存在します。ただし、私は決して行くことはありません。だから信じないのです。

地獄には地獄の法律があり、天国には天国の法律があります。地獄の法律は非常に低いレベルの法律で、ただ人々をその幻想の輪廻の中に縛りつけるためのものです。けれども天国の法律は、慈悲深い恩恵と愛と無条件の許しであり、人々を天国や仏土に連れて行き、私たちが本来あるべき楽しさと永遠の喜びを享受できるようにしてくれます。地獄の法律とこの世界は魔王の統治下にあります。魔王とはいわゆる「幻想の監督」で、

この幻想のゲームにおける舞台裏の監督なのです。けれども天国と仏土の法律は、慈しみ、愛、同情心、慈悲深い天人の管理下にあります。彼らは万能の神、または最高の仏陀の仕事仲間です。

神をさまざまな名前で呼んでも構いません。みなさんが奥さんのことを「ダーリン」と呼んだり「アツプルパイ」また「キャンデー」「ハニーパイ」などと呼ぶように、どう呼ぼうと構いません。同様に私たちは人々が自分の心理や好みによってさまざまな名前前で神を呼ぶことを許すべきです。これは非常に理にかなうものです。私は多くの人がこの道理を知らず、呼び方のことで争っていることに非常に驚いています。自分の奥さんのことを「クツキー」と呼んでもいいですし、隣の人が奥さんのことを「アツプルパイ」と呼んでもいいのです。実際は同じことなのです。ですから神のことを、アラー、エホバ、最高の仏性、阿耨多羅三藐三菩提（あのかたらさんみやくさんぼだい）、または万能のパワー、最も親愛なるもの、父なる神、聖母、造物主、神、どんな呼び方で呼ぼうと、それがどうしたと言うのですか。

多くの人は私が同時に多種の宗教を教えていると思っていますが、それは違います。

そうではありません。私はたった一つしか伝えていません。それは真理の宗教であり、智慧の宗教であり、愛の宗教です。私たちが言っている万能の神、最高の仏陀というものは私たちの智慧であり、私たちが生きていくパワーと才知です。私たちが望むのであれば、いつでもどこでも使うことができます。

### 仏陀になるとても平常になる

私たちがこの智慧の門をどこから開けたらいいのかわからなければ、専門家を探すことです。それだけのことです。とても簡単で、とても現実的です。私たちは何ごとも神秘的で、難しく、信じがたく、実現しにくいものにする必要はありません。私がこの智慧を得られるのなら、みなさんもきっと得られるはずで、私は決してみなさんから讃美されたくて、たくさんのプレゼントなどをもらいたく、自分は全智慧を得たと言っているわけではありません。私がこのように言っているのは、医者が自分を医者だと名乗るのと同じです。医大を卒業したら自分は医者だと名乗るのであって、それは人々を助けられることを信じてもらうためです。私が智慧を得たと言っているのも、みなさんに

手本を示し、希望を与え、励まし、みなさんもそれを得られるということを知ってもらうためです。

ときどき人々は私の弟子たちが私を讚美し、私のことを仏陀だとか何だとか言っている。と批判していますが、こんなに長い年月の間、私は一度も自分は何者であると言ったことはありません。ときどき私の弟子から話を聞いて、私のところに来て、私が一度も言ったことのないことに対して攻撃をします。「何、あなたが仏陀だって。そんなことあるものか。よくも大胆にもそんなことが言えたもんだ」というふうな。このようなことがあまりにも多いので、私はうんざりしてしまいました。謙遜するのにも疲れて、こう言いました。「私は確かに仏陀です。それがどうかしましたか。何か間違っていますか」とあえて隠さないことにしました。仏陀になるとかえって、とても平常になり、愛があつて、とてもかわいくなります。大したことでも特別なことでもありません。ただ自分の宝物を探し、自分のパワーを探し当てて、それを使っているだけのことです。忘れていた自分の銀行口座を見つけることは、そんなに大したことではありません。そして自分のお金を使うことは道徳的なことでもなければ、偉いことでもないので。すべ



ての人はこの道理を知っています。

同様に、自分のパワーと自分の智慧を見つけて、それを自分のために、または必要とする人のために発揮することは、大して偉いことではありません。自分がもともと持っていた智慧とパワーを見つければ、相変わらず普通の人は、ただ、さらに多くのパワーがつけ加えられただけのことで、他の人がすることをあなたもします。彼らが道を歩き、あなたも道を歩く。彼らが寝れば、あなたも寝る。彼らが何かを食べれば、あなたも食べる。彼らが仕事をすれば、あなたも仕事をする。特別なことはありません。以前とまったく同じですが、ただ以前より余分に充電されただけです。

たとえば医大生と同じように、医大を卒業したあと医者になります。彼は何も変わっていません。そうでしょう。外見も変わらず、以前と同じ友人を持ち、以前と同じようにふるまい、行動も変わりません。違いは以前よりもっと多くの知識と才能と医学の専門能力を生かして、自分や家族を含め人々を助けることができるということです。

人々は仏陀を架空の人物で、偉大な存在で、神秘的で、誰も理解することができず、知ることも接することも見ることもできないものとしています。キリストのこともこの

世界の主人にしてしまい、誰も彼のレベルに達することができないものとしていますが、これは間違いで正確な情報ではありません。

失くした自分の宝物を見つけたからといって、今までの習慣や態度が変わってしまうわけではありません。木像や石仏になつてしまふわけではありません。以前と同じような感情と、以前と同じかそれよりも増した理解力と仕事の能力を持つのです。そしてもっと大きなパワーと活力とクリアな見方で、さらに集中し、社会のために奉仕することができます。また、有形の才能で社会のために、全世界のために貢献できると同時に、無形の智慧を持つことができます。この智慧ははっきりと表れ、まわりの人々を加護し、励まし、彼らに喜びをもたらすことができます。

このことから見て、誰も悟りを開くことを拒むべきではありません。自分の智慧とパワーを得る権利を拒むべきではありません。この智慧は触ることも見ることもできませんが、それを使おうと思うと感じられるのです。電気は見ることはできませんが、つけたときに感じられます。扇風機やテレビなど電気製品をつけたとき、電気を使うことができます。そういうことで私たちは電気の存在がわかるのです。

では私たちはどのようにして神、智慧、仏性といった存在がわかるのでしょうか。それはこういったパワーが表れたときにわかります。私たちはすでにこのパワーを見つけ、使っています。有益な目的、有益な物事のためにこの智慧を使っています。電気と同じように見ることはできません。電気を光に変えたりレコードプレーヤーの電源にしたり、冷蔵庫や扇風機など、あらゆる便利なものに使っています。私たちが生まれながらに智慧を持っているとしたら、それを使い、自分の天国を造ることを含め、私たちが望むどんなものも変えることができます。そうなるかと神でさえ必要でなくなります。

それで真に悟った人や、すでに悟りを開いた人たち、たとえば禅師たちですが、彼らは悟りを開いたあと、いつも「神もない。人もいない」とか「私は今お茶を飲んでいる」などと言って、決して神や聖霊に対し、たくさんの感情を表しません。彼らのことを理解するのは非常に難しいことです。私たちはときどき彼らを外道だと言ったりしますが、決してそうではありません。

仏陀も同じでした。彼は「道」を得てから神の存在さえ否定しました。彼は別の名称を用いたのです。つまり阿耨多羅三藐三菩提（あのくたらさんみやくさんぼだい）とい

う名前を使いました。その意味は最高の仏陀という意味ですが、これは最高の神と同じ意味です。「最高の仏陀または最高の神は私たちの内面にある。この一切は不思議の中の不思議なことである」これはどういう意味かみなさんわかりますか。これは私たちが神であり、仏陀であるということです。もし私たちの内面に仏陀がいなかったら何がいるのでしょうか。内面に擁するのは仏陀なのです。ですから私たちは仏陀であり、神なのです。こういうことを話したり、伝えたり、繰り返す言うのは易しいのですが、実現するのは簡単なことではありません。

私たちは毎日々、傲慢な生活をしていて、自分自身が本当は誰なのかがわかっていません。それで苦しみを受けた重圧を感じたり、孤独、絶望、無力を感じたりします。それは私たちが自分の偉大な地位と、自分の内面にある真の自分、神または聖霊を知らないからです。聖書にはこう書いてあります。「あなたがたは知らないのですか。あなたがたは神の神殿であり、自分のうちに聖霊が宿っていることを。見よ！ 神の国はあなたがたのただ中にあるのだ」

仏陀も「仏陀は心の内にある」と言っています。その意味は仏陀が私たちの内面にあ

るということです。もし仏陀が内面にあるのなら、私たちはすなわち仏陀であるということですから。そうでなければ、私たちは何なのでしょう。ほかの誰かが内面にいるのではなく、仏陀だけが内面にいるのです。ですから私たちは仏陀なのです。そうではありませんか。内面にいるのはほかの誰でもなく、聖霊、天国なのです。そうすると私たちは天国であり神であるということです。たとえ悟りを開いていなくても、これは非常に理にかなうことで、議論の余地はありません。

そうすると次に行なうべきことは、この天国を見つけ、私たちの内面にある万能のパワーを探し当てることです。私はすでに見つけていて、みなさんに教えられます。みなさんが見つけたいなら、私は無条件にみなさんに提供したいと思います。

### 〈講演後の質疑応答〉

※Mはマスターの答え

Q 悟りを開くと、人格が変わりますか。

**M** あなたが言っていることは、たとえば怒りっぽい人が冷静になるかという意味ですか。そうです。悟りを開くと私たちの人格はさらに完全になります。

**Q** 仏陀は座禅を強調しています。今のカトリック教徒たちも、仏教の座禅法を習って黙想しています。カトリックの黙想は聖書を使い文字を読み、学び、そして文字を用いて黙想しています。でも仏陀の座禅法は心を空にする方法です。どのようにすれば、この方法で神のところに行くことができますか。

**M** 悟りを開きさえすれば、物事を理解するときに普通の見解とは違ってきます。以前私も心を空にするという意味がわかりませんでした。天国とか仏性の意味も理解できませんでした。このような言葉はすべて、私にとつてとても遠くて手が届かないものと思っていました。でも悟りを開いてからは、すべてのことが子どものゲームのようです。カトリックの伝統にもいくつかの黙想があります。キリスト教にも多くの黙想場があります。また、たくさんの隠れた秘密教団と呼ばれるものがあり、外部の人は入れません。彼らは何をするのでしょう。彼らは黙想し、祈り、座禅をしているのです。

座禅とは何でしょう。長時間神に祈りを捧げていると、手は数珠を数えているため痛く、膝が疲れて倒れてしまうこともあります。静かに座って、正座して休んでいると、そのとき、神の導きがやってきます。これが座禅です。私たちは静かになってこそ耳を傾けることができます。ずっと喋り続けていると、神は私たちに告げるチャンスがありません。祈りを捧げることは話をして求めることであって、座禅とは耳を澄まして聞くことです。けれどもほとんどの人はずっと祈り続けて、いつまでたってもやかましくしゃべっているのです。神は彼らにどうすべきかを教えるチャンスがありません。彼らの祈りが答えを得られないのは、無理ありません。神は教えるチャンスが全くないのでから。

ということ、論理的な観点から見ても、座禅は必ず必要なものです。仏教徒でも、キリスト教徒でも、イスラム教徒でも構いません。みなさんが時間をさいて神の導きに耳を澄まさないとしたら、決して神と同じ合えないのです。たとえ友人と話をしているときも、電話しているときも、自分が話すだけではなく、聞かなければなりません。また私に質問するときも、まず質問したら、静かにしなければ、私が答えるチャンスがな

いのです。みなさんの神に対する態度は、友人に対する態度にも及ばないのです。ずっとしゃべり続けて、神に答えるチャンスを与えないのです。ですから座禅するときには静かに耳を傾けるときで、そうするだけで神はやって来るのです。

Q あなたは本当のマスターは超能力を使わないとおっしゃいましたが、キリストは超能力で人々の病気を治しました。

M キリストが母親に「どうして人々に私が超能力を持っていることを教えたのですか」と言ったことを覚えておいてください。彼はそのようなことをしたくなかったのです。でも、彼の母親がすでに人々に水を準備させていて、強制したので、彼はそうせざるを得なかったのです。そのほか何度も、らい病の人々や病氣の人々を治しました。けれども彼は誰もいなくなるのを待つて病人のところへ行き、体を起こすように言い、治療しました。人々が彼の後ろについて来るのを見ると、すぐに姿を隠しました。みなさんは覚えていますか。彼が隠れたのは人々に自分が神通力を使っていると見られるところを見られなくなかったからです。彼は患者に病気を治したことを誰にも言わないように言ったの



ですが、その人は外に出ると全部しゃべってしまったのです。

マスターはたとえ超能力があつたとしても、おおよけにして人々の注目を集めるようなことはほとんどしません。ただ誠心誠意天国を求めている人を引き寄せたいと思うのです。というのは超能力だけを求めるなら、超能力だけしか得られず、天国には至りません。ところが天国を求めれば、天国を探し当てたあと、すべてのものがその人に属し、超能力を含めたあらゆるものを手に入れることができます。大多数のマスターが超能力で人を引きつけるようなことは避けています。というのは、人々が注意力を神のパワーの一部分だけに集中して、自分の完全なるパワーを忘れる恐れがあるからです。

**Q** 私の生命は非常に危ない状態にありますか、あなたにはそれがわかりますか。

**M** わかります。けれどもあなただけではなく、私やどんな人もみんな同じです。知っているかも知らなくても、私たちの生命にはいつも危険があります。あなたが自分を守りたいのなら、まず悟りを開くことです。自分の智慧で自分の生命を守るのです。誰もあなたを助けることはできません。

Q 一生菜食をして肉を食べないのは殺生しないためですが、卵は食べてもいいのですか。

M 卵には半分の生命があります。受精するとひよこになります。これがなぜ卵を食べてはいけないのかの第一の理由です。現在、一部の卵はいわゆる受精していないものですが、それでもやはり半分の生命が含まれています。第二の理由として、にわとりは何でも食べます。どんな虫でも食べます。虫はバクテリアや病気を持っていて、みなさんが食べている卵は決してきれいなものとは言えません。私たちデリケートな霊体にとつて良くありません。私たちは修行するほど敏感になるのです。卵はあまりにも汚いです。第三の理由として、黒魔術師や魔女たちはいわゆる卵で死んだ魂を引きつけ、その魂をコントロールしています。ですから私たちが卵を食べると、それらの魂をも自分に引き寄せることになり、そうなると陰の性質が加わって、修行の進歩の妨げとなります。それで私たちは卵を食べないのです。

Q 仏陀が彼の弟子に、水を飲むとき、濾過するよう教えていますが、私たちも環境や行ないをきれいにすると悟りが開きやすくなるのですか。

M そうです。私たちはそうしなればなりません。これが戒律、神の掟を強調している理由なのです。

Q あなたは占星術についてどう思われますか。

M それは何も変えることができませぬので、大して助けになりませぬ。私たちは高意識の段階から変わるべきであつて、ただ明日何が起きるかを知ることにとどまるべきではありません。私たちは自分の生活様式を変えることによつて、生活をもっと良くし、道を平坦にしていくべきであつて、占い師に頼るべきではありません。なぜなら一つの災難から逃れる方法を教えてもらったとしても、また次の災難が続いて来るからです。あなたは占い師をポケットに入れて持ち歩くことはできませんが、あなたにはあなたの智慧があつて、永遠にあなたと一緒にです。これこそが最高の占い師で、最も良い案内人なのです。智慧はすべてのことを教えてくれます。たとえ教えてくれなくても、あなた

を導いてくれます。また霊的な面において十分な理解がなくても、内面のマスターがあなたの面倒をみてくれて、あまりたくさん、の困難に遭遇しないよう、あなたのために道を開いてくれます。これこそが最も良いことで、占い師に尋ねることはありません。私たちの智慧がハイレベルにまで発展したとき、私たちは占星学を超越し、誰も私たちの運命を占うことができなくなります。また誰もどの星があなたに影響しているかなどとわかる人はいません。それはすべてを超えているからです。星も太陽も月も、何一つあなたに影響を与えるものではありません。

Q 世界中で、なぜこんなにたくさん、の災難があるのですか。罪のない人も被害に遇うことがありますか。

M 罪のない人はいません。私たちが生まれ変わらない限りは罪がないということはありません。生まれ変わるといふ意味は、過去の過ちに対し懺悔し、神に向かってこれからはもっとすばらしい、もっと道徳的な生活をする、と約束することで、そうすると神の恵みが訪れて私たちを助け、きれいに洗い清め、子どものようにしてくれます。そのと

き初めて「私は生まれ変わった。私は罪がない」と言えるのです。印心を受けたあと、私たちは罪がないと言えます。私たちがずっと道徳の道に沿って歩むなら、いつまでも罪がありません。けれども印心を受ける前は決してそうではありません。私たちはいわゆる原罪または過去世のカルマを背負っていて、決して罪がないとは言えません。私たち一人ひとりとは今日の世界の状況に対し、責任を負わなければなりません。私たちは意識的にまたは無意識で、この世界に損害を与えるようなことをして来ています。ですから必ず懺悔して、私たちの生活様式を変えていかなければなりません。そして智慧と道徳と共に生きるべきです。

Q 神または仏陀が一人しかいないのなら、どうして私たちはみな神だ、というのですか。

M それは私たちがみな同一体だからです。幻想が私たちを同一体でないものにしてしまったのです。悟りを開いたらみんなが同一体であることが理解できます。たった一つの霊体、一つの源、一つの偉大な聖霊だけが、私たち一人ひとりの内面に存在している

ことが理解できます。たとえば太陽の光は一体ですか。その光は太陽から来たもので、太陽という全体の一部分なのです。太陽はいろいろな方向のいろいろな場所を照らさなければなりません。そうしてこそさまざまな面に利益を与えることができ、私たちも十分な光を浴びることができのです。一筋の太陽光線は太陽という源と分離して、単独で存在するとは言えません。一筋の光を別のものとしてとらえるのは、一種の錯覚なのです。決してそのようなことはありません。波は海とは違うというのも、一種の幻覚で、無知な人の言い方です。そうではありませんか。

**Q** たまに友達とビールやワインを一杯飲むことのどこが悪いのですか。

**M** それは何も悪くないように見えますが、でも多くの人はそこから始まっています。人々は友人とワインやビールを一杯、害のない程度飲んで、そして悪い酒癖がついたのです。彼は突然酒癖が悪い人になったわけではありません。そうではありませんか。一杯また一杯のビール、一杯また一杯のワインから始まって病みつきになって、ますますたくさん量を飲み、お酒に振り回されるようになったのです。ですから悟りを開くた

めには、火遊びはしないほうがいいのです。一滴のお酒も、どんな酒精の入ったものも智慧を鈍感にさせます。記憶力が消され、永遠に真理から離され、自分が誰なのかも忘れてしまいます。またあなたを栄光の道、最高の智慧から離脱させてしまいます。ですから避けたほうがいいのです。たくさんの生まれつき知的障害を持っている人々は、前世においてお酒や麻薬など有害なものを使用しすぎて、多くの智慧が消されてしまったのです。ですから火遊びなどしないでください。なぜなら私たちは自分にどのぐらい抑える力があるか、わかっていないのです。わかったときはもう遅いのです。すべての間違いはみな私たちが自分の意志力を高く評価した結果、引き起こされたものです。言うのは簡単ですが、実行することは容易ではありません。ですから最も良いのは、試しに飲まないことです。世界はすでにとても乱れていて、混沌としています。それなのに、精神をさらに混乱させるようなことを、どうしてするのでしょう。私たちの視界はすでにぼんやりとしていて、はっきりしない状態にあります。なのにどうして、お酒や有害なものを、その明晰でない知能に上乘せしようとするのですか。

Q どうして人々はときどき、自分をコントロールすることができないのですか。

M 私がすでに言っているように、他の人をコントロールすることは簡単ですが、自分をコントロールすることは難しいのです。それは私たちが自分をコントロールする方法を学んでいないからです。そのほかにカルマとの関係もありますが、私たちにはこのことがわかっていません。ある人は一目見ただけで恋におちてしまいます。私たちはこれを一目惚れと言います。またある人は一目見ただけで、その人とケンカしたくなる場合もあります。自分の感情や怒りを押さえようと思わないわけではありませんが、とにかくそういう気持ちにさせられるのです。こういったことはすべて前世のカルマの関係です。もしかしたら、その人はかつてあなたと恋愛をしてあなたの心にとっても良い印象を残したのかも知れません。それでその人を一目見ただけで強い愛を感じ、一目惚れだと錯覚するのです。これはみな、前世で作ったカルマの影響です。そして一目見ただけでケンカしたくなる人は、その人が前世においてずっとあなたのことを怒っていて、その上あなたにたくさん迷惑をかけていたのです。



Q 普通の人や世俗的な愚かな人も悟りを開くことができますか。世俗を超えた境界に達することができますか。どうぞマスター教えてください。

M もちろんです！ 普通の人や愚かな人なんていません。みなさんは自分で自分を騙しているだけです。仏陀が心の中にいるというのに、そんな人はどこにいますか。そんな人はいません。知っていながら知らないふりをしてだけです。私たちは自分が仏陀であることを理解したいと思わないで、毎日お金を稼いで、寝て、食べて、子どもを育てているだけで、探そうとしません。働くのも、食べるのも、寝るのも、子どもを産むのも結構なことですが、悟りを開けば、なぜ私たちがそのようにしているのかわかります。そして自分が仏陀であることもわかります。悟りを開かないで、ただこの世の仕事だけをするのなら、それは当然永久にこの世界にいて、永久に煩惱に束縛されて迷っている人ということです。



## 夢から覚める

アメリカ・ハーバード大学における英語の講演

（一九九二年二月二十四日）

私は世間の人が無明であるとは思いません。みんなとてもロマンチックです。あまりにロマンチックなので幻想がとんでも多く、それで自分で努力して、問題を解決しよう、理解しよう、理想を実現しようとして試みないので。

### 人生は夢のよう

私たちはいつも夢を見ています。何年も道を探し求めた後は、この世のすべてが夢のようです。まるで長い夢から覚めたようです。私たちは死んだ後にまた目覚めます。ある人は目覚めると、自分がきれいなところにいることに気がつきます。ある人は見たこ

ともない奇妙な世界にいます。ある人はまだこの世界にいます。同じ環境の中にいるのですが、別の体なのです。ある人は同じ人間の体をしていますが、感覚や動作や体の機能が違うのです。ある人は目覚めると、自分自身が苦しみの世界にいるのに気がつきません。ある人はとても暗くて、耐えられないところにいることに気がつきません。

それはまるで人が夢から覚めたようです。自分が日常生活の環境と違う場所にいることに気がつきません。どのような環境なのかは、その人の生活形態によって決まります。たとえば重い責任を負っている人は、どんな素晴らしい夢を見ても、覚めたらやはり、さまざまな責任や解決しなければいけない問題に直面します。ビジネスマンは目覚めると、投資の問題、銀行口座、最新の為替レート、世界的な経済危機のようなものもろこの問題に直面しなければなりません。病院に入院している患者は目覚めると、やはり病気で苦しんでいて、鼻の穴に管を入れられ、腕には点滴をされ、その上ベッドに縛りつけられていることもあります。または完治して健康になり、もっと楽になり、もしかしたら、その日に退院できるのかもしれませんが。

死のとき、私たちは百年の夢から覚めるのです。それは長い夢です。わりあい短い夢

の人は運がいいのです。本当に運のいい人です。みんな、ある日覚めることを知っていますが、覚めてからの状況に直面する準備をしていません。ですから、困惑し、恐れるのです。私たちが生命の次のページのために、どのように準備をすればいいかがわかれば、この過渡期を苦しまなくてもすむのです。それはちょうど、とても穏やかな生活をしていて、義務を怠らず、愛のある人は、毎朝目覚めるとき、多かれ少なかれとても良い気分になるのと同じです。その人がどのような生活をしているかによるのです。私たちはこの世界を離れたあと死ぬのではありません。私たちの生活が普通であり、正常であれば、何も恐くありません。けれども、もし神の戒律をおろそかにするならば、恐ろしい幻影が私たちを待っています。この戒律は全世界の運行のために作られたものであり、また、生命が多種多様な形で延々と継続するために手配されたものです。私たちを処罰するためではありませんが、戒律を守らなければ、ある程度の修正作業が必要になります。ただし、永遠ではありません。戒律を守らなければ永遠に処罰される、というような否定的な考えは絶対に持たないでください。

## 地獄は一つの心境である

地獄も有限です。誰一人として永久に住むことはできません。それは神が世界を無間地獄（むけんじごく―絶え間なく苦しみを受ける地獄）に変えたくないからです。永久にそんな醜いものにさせておきたくないのです。それで私たちは何をするにしても、埋め合わせをしなければなりません。といっても、一時的なものです。けれども、ほんの一时的な苦痛を受けるだけでも、私たちは非常に苦しみます。なぜなら、苦しんでいるときの時間は尽きることがなく、この苦しみの期間を乗り越えるのに、非常に長い時間がかかるからです。ちょうどこの世界で、寝ているときはとても心地よく、時間が過ぎるのがとても早く、まだ寝ている時間だと思つて、朝起きられないようなものです。恋人や友達と一緒に楽しんでいるときは、時間がとても短く感じられます。煩わしいことがあるときや、人を待っているとき、心配事のあるとき、肉体的、精神的な苦痛があるときは、永遠に続きかのように思われます。いわゆる地獄の中の状況と同じです。地獄というのはまさに精神的、または肉体的にあまりにも不幸であったり、苦しいときのもう一つの精神状態です。つまり、ちょうどこの世界で私たちが病気であったり、

楽しくないときのようなものです。それがさらに倍加されたものです。私たちはそれを地獄と言います。精神的混乱、抑圧、形のない苦痛の状態のことです。

この世において苦痛を免れる方法はたくさんあります。私たちはつまらないときや、楽しくないときは外に出かけて行って、何か飲んだり、ダンスをしたり、映画や劇を観たりします。ある人は部屋の隅で座禅をします。内面の喜び、内面の世界、内面の天国を探すのです。私は、麻薬に手を出す人、アルコール中毒の人、いろいろな、いわゆる低俗な代替品で快楽を得ることで、生活の苦痛を忘れようとする人を軽蔑はしません。ただ彼らが間違った方法を用いたのだ、と思います。本当に残念です。彼らが他の方法があることを知っていたり、違う形の楽しみを味わったことがあれば、より早く別の方向に変えることができ、より早く悟りを開くことができたいでしょう。幸せになるための喜びの目標や方法に向かっても、全速力で走る人になったでしょう。この人たちはすべて悪い情報の被害者です。彼らは誤って導かれたのです。ですから、私たちの責任は、いわゆるまだ悪い情報に染まっていない、智慧のあるかわいそうな彼らを助けることです。ただ非難するのではなく、助けることです。

私たちは彼らの真理への渴望や、心の中にある快樂に対する大きな渴望が理解できないのです。神はすなわち喜びと愛ではありませんか。彼らは神を強く渴望したのですが、誤って導かれ、逆の方へ向かってしまったのです。そして、誤った方法で神を求めてしまったのです。このような人々はこの世を超越した境地にとても近く、まるで出家者のようです。彼らも生活を手放し、物質的な、はかない無常の人生を拒絶して、彼ら自身の幻想的な幸せを探し求めているからです。

普通の人は分厚いステーキや一本のウイスキーなど、どんな些細なものでも幸せになります。毎日仕事に行き、生活を大切にし、奥さんやご主人や子どもを大事にします。でも、先程述べたような人々は、このような平凡な生活が好きではありません。我慢できないのです。このような生活をしたくないのです。このような生活には満足できません。これは彼らが高貴であるということで、それほど悪くはないのですが、まだ抜け出す方法を見つけていないことを表しています。もしかしたら、彼らはどんな出家者よりも、人生にうんざりしていて、（マスター笑う）最も放棄した人々かもしれないかもしれません。ただ、彼らはどうやって本当のもの、本当の喜びを得たらいいのかわからないのです。

私たちは開悟や涅槃や喜びを獲得できる方法をたくさん見つけました。最も良い方法は、もちろん、努力して悟りを開くことにより、正しい道を通って、神を見つけることです。物質的な代替品、たとえば麻薬、アルコール、他の不自然なものに依存してはいけません。

### 内在の宝物を見つける

私たちはこの座禅の方法が、みなさんや喜びを渴望する人々に対して貢献できることを願っています。この座禅方法はとても安全で、多くの努力を必要としません。また、生活様式を変えることもありませんし、費用もいりません。みなさんには何の負担もありません。実際、自分の内面を見て自分の宝物を探し、本当の永遠の喜びを見つけないにまったく何も必要ないのです。世界一裕福な人でも、世界の王様でも、悟りを開かなければ楽しくないのは同じです。悟りを開いただけで本当の喜びが得られるのです。

悟りを開いた人の外見は、もしかしたら他の人と同じかもしれませんが、同じような性質、個性かもしれません。怒ることがあるかもしれませんが、でも、悟りを開いた人の



怒りは本物ではありません。恨みも深く根強いものではありません。雲のように散って消えてしまい、熱しやすく冷めやすく、少しも強い感情がありません。怒るときにそのようにできたなら、とてもリラックスできます。彼の怒りはまるで海の波のようで、海には少しも影響がありません。波は海から生まれますが、海ではありません。海ですが、海ではありません。波は風が吹いたときや地球の自転によって生じます。波の花があったとしても本当の海洋ではありません。

悟りを開いていない一般の人は全身を震わせて怒ります。その瞬間、彼らは理性のほとんども失ってしまいます。もちろん、永遠に失われるわけではありませんが、彼らの怒りは、ときどき彼らを非常に興奮させたり、感情をコントロールできない状態に追いやり、彼らの心、精神、感情、肉体を傷つけてしまうことがあります。

悟りを開いた人が怒っても、ただ、表面的な怒りなので、あまり自分を傷つけません。怒りのパワーも相手を傷つけません。憎しみや本当の感情が後ろ盾になっていないからです。悟りを開いた人は表面では怒っていても、内面は笑っています。まるで舞台の上で劇を演じているように、自分の役がわかっていて、観客を喜ばせたり、悲しませたり

するために、真に迫った演技をするのです。目的はただ観客を楽しませるためなのです。悟りを開いているのといないのでは、違いがあります。悟りを開いている人といない人は、ある面から見ると全く同じですが、悟りを開くとその違いを感じる事ができません。けれどもただ感じるだけで、言い表すことはできません。それは彼らも鼻が真ん中にあり、目と耳が両側にあり、私たちと同じように食事をしたり、話をしたり、眠ったり、さまざまな義務を果したりするからなのです。しかしながら、彼らの内面は完全に自由なのです。

### 解脱こそ本当の自由です

私たちはいつも自由について議論していますが、自由にはさまざまな種類があります。それは外面の自由と内面の自由で、内面の自由こそ最も奥深く、揺らぐことがあります。外面の自由は社会制度の違いや環境や身体的能力によって変化します。内面の自由こそ永遠に変わりません。私たちはいったん内面の自由を得ると、いつも持ち続け、日に日により自由になっていきます。自由を表す、限らない可能性を発見します。反対に

外面の自由には非常に限界があり、またさらにたくさんの責任を負う必要があります、自由でないときよりも責任が多いのです。

キリストについての映画のことですが、題名は忘れしました。ある人がマスターを何年も探しているという話です。彼は自分の持っているすべての財産で、三種類の宝石を買いました。そしてマスターに会ったら、それを差し上げるつもりでした。さて、彼はとうとうキリストを見つけました。もともと、宝石をキリストに差し上げるつもりだったので、間に合いませんでした。彼がキリストに会う前に意外なことが起きたのです。それまで彼はあちこちキリストを探していたのですが、マスターに会ったことがありませんでした。いつも意外なことが起きて、偉大なマスターに出会えないのです。彼に長く仕えている男が、ある日主人に自由を求めて言いました。「私はあなたに仕えて、あちこち行きましたが、あなたは給料をくれません。私は自由が欲しいのです。もうこれ以上あなたのために働きたくないのです。あなたはもう私の主人ではありません」。この求道者は言いました。「いいだろう。おまえが行きたかったら、行くがいい」。そしてこの使用人は行ってしまいました。どこかに行って、自由を楽しみます。そのあと使用人

は思いました。「私は本当に自由が欲しいのかどうかわからない。主人がいなくても煩わしいものだ」。使用人は今では自分自身ですべての面倒をみなくてはならず、彼はこんな状況にはあまり慣れていなかったのです。

刑務所に入るのはいいことではないと、みんな思っています。自由がないうえにあちこち出かけることもできません。一日の時間割に完全に従わなければなりません。けれども、刑務所に入るのが好きな人もいます。仕事を探したり、何かしたり、誰が子どもを教育するか、誰が奥さんにネックレスを買ってあげるかというような問題について、悩む必要がないからです。起こされたら起きます。寝なさいと言われたら寝ます。何かをしなさいと言われたら、すればいいのです。彼らは奇妙な自由を感じます。もしかしたら、この人たちは悟りを開いているのかもしれない。釈放されると、仕事を探しに行かなければなりません。これは容易なことではありません。特に前科がある人にとつて、いい仕事を見つけるのはとても難しいことです。何かしら仕事はありますが、あまりいい仕事ではありません。税金を払わなくてははいけませんし、請求書が来ますし、いろいろな書類を作ったり、複雑なことも処理しなければなりません。

ほとんどの人が出家者は放棄した人だと言っています。私はみなさんこそ、放棄した人たちだと思えます。みなさんは簡素で、憂いのない生活と神に奉仕する喜びを放棄して、複雑な税金表や電気代や子どもの面倒をみているのですから、みなさんこそ生活を放棄した素晴らしい人たちなのです。もしかしたら、子どもの世話をしている間に多少の喜びが得られるかもしれませんが。でも、子どもは複雑ではないのですが、子どもと関連していることが複雑だと私は言っているのです。みなさんは子どもの面倒をみなければいけません。子どもが病気をしたら眠れませんし、学校の成績が良くなかったら、心が晴れません。子どもが大きくなってからも、限らない悩みと心配事があるのです。「彼女は誰?」「彼は誰?」「彼らは誰とつき合っている?」「麻葉はやってない?」。まるで家の中に爆発しそうな爆弾が二、三個あるようなものです。

私はみなさんが放棄していることはとても偉いと思います。私はみなさんの勇氣、忍耐、根性や複雑な生活に対しての真心からの奉仕に感服します。(マスターと聴衆笑う) 私は、私たちの間で誰が比較的好ましいのかわかりません。ときどき考えるのですが、私が以前の生活に戻ってこのような雑事をするとしたら、恐らくできません。私にとつ

てあまりにも複雑すぎるからです。毎朝五時、ふとんが最も暖かく、眠りが最も深いときに、あなたは目を覚まさなければなりません。まだ、半分眠っていて、コーヒーは鼻に入るし、目ははつきり覚めないし、パサパサのパンを飲み込んで、まどろんでいたいし、やはり起きなければいけないし、手探りでトイレに行き、と毎日こんなふうで、みなさんはどのようにしているのですか。(聴衆笑う) 私は目が覚めたら、ただ、あまり遠くない座禅場に這っていけばいいのです。もちろん、私にも仕事があります。でも、私の仕事はそんなに複雑だとは思いません。それは別の方法であり、別の意義があり、みなさんの生活のように複雑ではありません。みなさんはどのようにして楽しく受け入れられたのでしょうか。少なくとも表面的にはとても幸せですが、どのようにしたのか私にはわかりません。個人にはそれぞれ自分の生活があります。万一、みなさんがそのような生活に不満足で、もっと簡素な生活がしたい、もっと内面的な永遠のたくさんのパワーを持ちたいと、もっと宇宙生命の微妙なことを理解したいと思ったら、悟りを開く方法を見つけないければなりません。

みなさんが目の前の生活に大変満足していて、百年、または六十年後に夢から覚めよ

うと思っけていても、それはそれで結構です。夢から覚めたとき、より快適な環境が待っているなら、それはより良いことです。同じような環境、またはもっと悪い環境にいるより良いことです。誰でも夜寝るときは無意識に、または意識的に明日はもっと良くなり、問題がすべて解決し、ビジネスがうまくいき、子どもがもっといい子になるよう、結婚生活がもっと満ち足りるようにと願います。でも、長い夜の睡眠から目覚めると、いつも同じような問題や、状況がやはり存在しているか、またはもっと悪くなっていることに気がつきます。

私たちの命も同様です。生命の長い眠りから目覚めると、自分がまだ同じ世界にいることに気がつきます。ところが、環境はさらに悪くなっていて、とても疲れるし、とても辛いことです。私たちはこういった状況が我慢できません。みなさんは死んだ人が帰ってきて、親戚に迷惑をかけた話をたくさん聞いたことがありますね。彼らはそこでは幸せでなく、さらにもっと悪いことには、彼らには肉体がなく、愉快な人生を楽しむことができないのです。

人生苦あれば楽もあります。私たちは楽しんでいるときは、少なくともしばしの間、

苦痛を忘れることができます。でも準備がなく、人の導きがなく、功德のない人たち、つまり平凡な生活を送り、生涯良いことを何もせず、神に見向きもしない人々は、体から離れたあと、幸せの境地へ行くチャンスを見つけることが難しくなります。

### 私たちは永遠に死なない

私たちにはまだ肉体があります。あまり苦痛がなく、少し喜びを得られますし、選択もでき、まだ少し自由意志があります。ですから、私たちは次の世界のために準備しなければなりません。私は多くの人が死んだ後は何も無いと思っていることが信じられません。というのは、現代の人は聡明で、知識が広く、たくさん資料があるので、生命は永遠であることを証明できるからです。生前、死後、または生まれる前にどんなことが起きたとしても、生命という意識の流れはいつも途切れることはなく、私たちは永遠に死にません。一枚一枚服を脱ぎ捨てるように体を捨てることができても、私たちは決して死なないのです。私たちが死んでしまおうとしたら、またどうやって生まれてくるのですか。私たちが生まれる前に生命がなかったら、私たちはいったいどこから来たので



すか。死んだ後、もし生命がないとしたら、生まれるとき私たちはどこから来たのでしょうか。死んだ後、もし生命がないとしたら、生まれるとき私たちはどこから来たのでしょうか。

私たちは何もないとどこから飛び出してくることはできません。科学によりわかったことですが、何もないとどこからは何も生じません。私たちは無から来て、無に帰るわけではありません。科学が日進月歩のこの時代において、私たちは生命の永遠を信じなくてはなりません。私たちは内面の修行から、このことを理解するための十分な証明を得られました。私はみなさんに本当に永遠に生命があることを告げたいと思うのです。みなさんの信念が本当であることを実証したいのです。私の考えと同じである、過去の偉大なマスターたちの見解により、私たちはこの肉体を離れた後の大きな「目覚め」の準備をしなければなりません。目覚めたあと、私たちは死んでいないことを発見します。そのとき、私たちは何をすべきなのでしょう。このいわゆる新しい生命を得て、どう順応すべきなのでしょう。私たちは早くこの問題について考えなければなりません。そのときになってからでは遅すぎます。

〈講演後の質疑応答〉

※Mはマスターの答え

Q 生きているときにはこの肉体の世話をしますが、それではどうやって私たちの霊体の世話をすればいいのでしょうか。

M あなたの思っているように、そんなに難しいことはありません。たとえばある修行仲間ですが、彼女は食事をし、仕事もして、そして学校の先生でもあります。二つの仕事を持つているのです。夜は教え、昼は学びます。時間があるときに自分の霊性の世話をします。私たちは時間を割り振らなくてはなりません。おしゃべりをしたり、電話で無駄話をしたり、つまらない新聞広告を見たり、見たくもないテレビを見たりして、多くの時間を浪費しています。テレビをつけたときはだいたい、見たいと思っていないのにつけてしまったので、そのままずっと見ているのです。

私たちにはつきりした目的とスケジュールがあれば、私たちは時間を割り振ることができます。学校に行き、仕事をして、座禅をすることが可能です。座禅をするときはおしやべりもしませんし、話もしませんし、電話にも出ません。そのようなことは座禅が終わってからにします。私たちと話をしてはいけないからといって、誰も死にはしないでしよう。

(聴衆笑う) 私たちは自分自身をあまりに重要に考えすぎるのです。まず、私たちは自分の智慧の世話をしなければなりません。偉大な智慧の源をさらに開発するべきです。そうすれば、もっと他の人をうまく世話できるのです。学ぶスピードもより速くなり、仕事の効率も上がり、世界に対してもっと多くの貢献ができます。私たちはただ単に精神面に偏って、この世界を忘れてしまうわけではありません。

私も仕事をしています。みなさんは知っていますか。私が歌を歌ったり、講演をしたりと、絵を描いたり、またそれを売って得たお金を講演に使うのですが、(マスター笑う) 私は一生懸命仕事をしています。修行はとても簡単です。非常に簡単です。私ができるのですから、みなさんにもできます。

Q ときにはもっと自分本位に時間を使い、自己満足させることも必要でしょうか。

M それは自分本位ではありません。たとえば、あなたがご飯を食べるために時間を使うのは、一日中社会のために仕事をしたからです。すでに疲れているし、おなかが空いているし、体力を補充しなければなりません。これは自分本位ではありません。この無常の一時的な体のためなのです。一生懸命仕事をし、多くのものを発明し、体を養うためにたくさんのお食事を作らなければなりません。そして、さらにもっと時間を使って、私たちの霊体を養わなければなりません。これは自分本位ではありません。正当な方法です。私たちは難しい、間違った方法で物事をすることに慣れていきます。今私たちが正当な方法を使うと、かえって自分本位と見られます。それは正しくありません。

もし、世界中の人が何も食べなかったとして、あなたはおなかが空いて何か食べたなら、他の人はあなたを自分本位だと言いますか。(マスター笑う) 私たちの内も外も食糧を必要としています。私たちが精神の食糧を吸収しないときこそ、飢餓や苦痛や無知を感じます。どうすればいいのかわからなくなり、このようにもがくのです。この世で迷ってしまうのです。

イエスは人であり、キリストはパワーである

Q マスター、聖書の中のある章に「救いは神の恩恵であり、善行により獲得したものである。イエス・キリストは私たちの罪のために死んだ。神や救世主を受け入れるすべての人に、彼は永遠の生命を与える」と言っています。説明してください。

M そうです。救いは神の恩恵です。私たちはただ善行をし、布施をし、道徳的な生活をするだけでは救いを得られません。でも、そのようなことをすることも良いことです。私たちの心を平静にさせます。私たちが良いことをすれば、また道徳的であれば、バランスがとれてより高潔であると自覚できます。そして神を探するときの障害が少なくなり、罪悪感が私たちを妨げたり、ぎこちなくさせたりすることもありません。わかりましたか。良いことをしたり、布施をしたり、道徳的な生活をしたことだけでは、私たちは本当の救いを得られないのです。キリストが私たちのカルマを担うために死んだことも本当です。

キリストは生存中とても偉大なマスターであり、キリストを通してこそ天国に入るこ

とができると強調しました。それは生きているマスターを通さなければならぬという意味です。彼は自分が永遠にマスターであるとは言っていません。キリストはこう言っています。「私がこの世にいる間は、この世界の光です」。その後、キリストは言いまして。「私のために悲しまないください。私はみなさんのために慰め、助ける人を送ってあげます」。これはまた他のマスターが来るといふ意味です。魂は永遠です。キリストはどうやって死ぬのでしょうか。キリストは一回、また一回と私たちを通して、開悟者を通して生きていくのです。私たちは自分をキリストに変えるべきです。それでこそ、キリストが世を救ったことを証明できるのです。そうでなければ、私たちは毎日ただ、非常に無知で、低いレベルの意識生活を過ごすこととなります。いったい私たちはキリストがどうやって私たちを救ったことを証明できるのですか。

たくさんの人がキリスト教徒であると自称していますが、互いに闘争し、キリスト教やいわゆる熱狂的な宗教のために、非常に多くの血を流しました。その人々は本当のキリスト教徒ではありません。キリストは彼らを救うことができなかったのです。彼らの行為はキリストの恩恵を証明することはできません。私たちはキリストの恩恵を証明す

べきです。キリストが本当に私たちを救ったことを理解しようと思つたら、私たちはその神聖なレベルに到達すべきです。そうでなければ、単なる空論にすぎません。キリストのことを何も知らないのに、どうやってキリストを本当に理解し、どうやってキリストに心から感謝できるのですか。

キリストは人ですが、一種のパワーです。資格のある人を通して、いつでも、どこにでも伝達できます。電線に問題がなく、コンセントもあれば、電力が電線を通して伝わるように。マスターはただみなさんにイエス・キリスト、キリストのパワーと通じ合える方法を提供するだけです。そうすれば、みなさんはキリストとは何かということを理解し、心の底からキリストに感謝するようになります。単なる議論だけでは理解できません。イエス・キリストの救いも得られません。

キリストは人類のために死にました。それは彼がその時期に生存していたからです。いつの時代に生きていたマスターも、その当時の人々のためにカルマを担わなければなりませんでした。特にそれは彼を信じている人やその弟子たちのためなのです。そのカルマを処理するために、マスターは苦しみを受けるのです。それは彼の肉体に明らかに

表れ、病気になるったり、苦難を受け、十字架に張り付けられたり、誹謗され、迫害されることもあるのです。どのマスターにもこのような経歴があります。みなさんが自分で見ればはつきりとわかります。釈迦、マホメット、キリストなど、その他東西の多くの聖人や哲学者など誰でも、どんな迫害も受けずに、平穩に過ごせた人は一人もいません。すなわち、これこそマスターが人類のために犠牲になっているという真相です。けれども、肉体があるときこそカルマを担えるのです。それはこの世のカルマは物質的なものだからです。物質的なカルマから人々を救おうと思つたら、物質的な体がなければなりません。それで人類を救うためにマスターが物質的な肉体を持ち、困難を担い、苦難を受け、このようなあらゆる問題を解決するのです。マスターは広大な恵みと幸せの宝庫であるからこそ、彼の体はすべてを担えるのです。とはいっても、彼に苦しみがないわけではありません。キリストが人類のために苦しみを受けたという言い方は正しいのです。でも、それは彼の生存中だけのことです。後は他のマスターが担わなければならないかもしれません。他のマスターが出てきて、次の世代の面倒をみなければならぬのです。キリストがすでに全人類を救つたというなら、世界中に苦難が続いていることを、どう説明す



るのでしよう。また、どうして人類は無知のまま生活しているのでしようか。また、どうしてキリスト教徒でさえ、互いに殺し合うのでしょうか。あなたが私にこう言ったとします。「他の人は無知で、キリストの名前も知らないし、キリスト教徒の生活の仕方に従わないので、彼らは苦しみを受け、互いに闘争し、殺し合い、悪いことばかりするのです」と。私はあなたの言うことに同意します。もしかしたらそうです。けれども、キリスト教徒について、あなたはどう説明するのですか。彼らはキリスト教も、その教理も知っているし、教会にも行き、教会で高い階級の人さえます。もし、キリストがすでに彼らを救ったのだとしたら、なぜまだ、そんなことをするのでしょうか。つまり、イエスは生きているときだけ救えるということですか。キリストは今すでに他の世界に行って別の仕事を担っています。今は、他のマスターが仕事をしにここに来ているのです。

Q マスターに伺います。観音法門とは何ですか。

M 観音法門の「観」の意味は観察で、「音」の意味は音流です。音流とはすなわち聖書に書かれている言（ことば）です。「初めに言（ことば）があった。言（ことば）は神

とともにあった。言（ことば）は神だった。すべてのものはこれによってできた。できたものうち、一つとしてこれによらないものはなかった」。昔はこの振動力を「言（ことば）」と呼びました。言（ことば）は一種の振動力で、神とともにあり、神はすなわち振動力です。私たちはこの音流と通じ合うときに、神と通じ合うのです。そして、私たちは神のことを本当に理解できるようになり、再び、神と同一体になることができます。私たちは神の意志により仕事をするのであって、エゴでするものではありません。また過ちも犯さなくなります。間違えようと思っても間違えるのが難しくなります。まるで、今みなさんが正しいことをしようとするのが難しいのと同じです。

### 神の意志に従って行う

Q ある人が言いました。「本当に悟りを開いた人は、この世において何事にも関心がなく、何もしようとせず、彼らはただ傍観者であり、どんな選択もしないで、ただ川の流れるように流れていくのです」と。人がこの世で生きていて、どうして何事にも関心がなく、何の選択もしないでいられるのでしょうか。彼はまた言いました。「『有為（なす

こと』は大自然のバランスを崩すことになり、それで大自然は相反する物事を作り出し補うのです」。本当でしょうか。

M まず、あなたが悟りを開けばわかります。あなたがまだそのレベルではないのに、どうやってあなたに説明すればいいのでしょうか。でもやってみましょう。「無為（なすことなし）」はあなたが生命、魂、心、智慧などがないことを指しているのではありません。あなたがなすがままに物事をすることを指しています。悟りを開いたとき、「無為」になり、何かを選択するということはありません。あなたは神と同一体になり、完全に神の意志に従って物事をするのです。外面的には、一般の人と同じことをしているように見えますが、実際は違います。すべては神の意志なのです。ですから、あなたは責任を負う必要がありませんし、決して過ちを犯しません。

他の責任を負わない人は、神の意志に従っているとは言えません。違います。彼らには神の意志が何なのか、全くわかりません。悟りを開いてから、私たちは宇宙の計画を理解することができ、それに従って物事を行なうのです。悟りを開く前は、私たちはすべてを認めるだけで、自分の願望を自然の計画に無理に加えようと企てるのです。たと

えば、良い役者は自分の役を知り、自分のせりふを覚えます。彼らは劇の脚本と演出家の指示に従って、語り、行ない、演じるのです。ところが、でたらめな役者は自分の役とせりふをわかろうとはしません。ただお金を稼ぐことや舞台上がり、見せびらかすことしか考えていません。自分の責任を果たそうとしないのです。自分の扮している役もしつかりと演じようとはしませんし、劇中のモチーフと指示を理解しようとしません。また演出家の考えに従わず、舞台上がって失敗し、すべてを台無しにしてしまいます。これがよい役者とでたらめな役者の差です。悪い役者はせりふさえも覚えていないのです。舞台上がり、言うべきことを言わず、言わなくてもいいことを言い出すのです。相手を軽くぶつところを、本当に力を入れてぶつて、相手を舞台上に倒し、気絶させてしまふのです。演出家は劇を止めて、改めてもう一度やるしかないのです。全くやっかいなことですが、演出家はかかわらないわけにはいきません。

Q マスター、どうか教えてください。どうやって座禅をしたらよいですか。どのくらいの時間座ればいいのですか。どんな方法が最も有効ですか。

**M** 私たちの心と智慧を安定させる方法はたくさんあります。それは私たちをもっと聡明にし、もっと効率よく仕事ができるようになります。あなたは好きな方法を選べます。あなたが自分を理解しようと思うのなら、私は神と直接通じ合う方法を提供します。神は、すなわち私たちの本性であり、自分の高貴な品性であり、最高の智慧です。ですから、天国はあなたの内面に在る、または仏陀は心に在るというのです。そうでなければ、仏陀は涅槃に在り、神は天国に在ると言わなければなりません。神を探そうと思ったり、自分の高貴な品性を探そうと思うのなら、観音法門を修行すべきです。その振動力、宇宙の根源のパワーと同一体になります。それは神と通じ合うことなのです。

**Q** 動物は獲物を捕まえて食べますが、人間はどうしてできないのですか。獲物を捕って食べるのは自然界においては生存の道です。人類は大自然の一部ではないのでしょうか。  
**M** あなたがそう思うのなら、自分のことを動物と呼べばいいのです。動物は獲物を捕って食べます。もし、あなたも食べるために獲物を捕ったり、動物を獲物として捕るなら、動物と同じになってしまい、レベルを下げることになってしまいます。あなたがそ

うしたいのなら、それでも構いません。誰一人、あなたを止めることはできません。でも、もしあなたがもっと高貴であり、自分を人間と呼びたかったら、人間とは何をすべきかを、どんな生活をすべきかを理解しなければなりません。それによって、私たちの兄弟の模範になるのです。もし、動物の兄弟と同じ生活をするとしたら、私たちは神の創造物としての価値がなくなってしまう。旧約聖書の第一章で神はこう言っています。人は動物を支配すべきであると。私たちは動物より優秀でなければなりません。私たちはあらゆる動物の上に位置しています。レベルを下げて動物になろうと思うなら、それでも構いません。あなたには選択の自由がありますが、やはり自分に聞くべきです。それがよい選択かどうかを。私は人類があらゆる生きとし生けるものの中で最も優秀だと確信しています。身を持って模範になるべきです。高尚で、優雅な生活をすべきです。なぜかという、動物は将来、人類に進化するのです。私たちの悪い模範を見たら、動物はどうやって良いことを学ぶことができるのでしょうか。私たちはどうやって動物を教育することができるのでしょうか。

高貴な品性は天国より来る

Q 五戒を守って十の善行をし、座禅の修行をしなかったら、死後解脱することができませんか。

M 戒律を守り、善行をすることだけでは解脱させることはできません。ただ、自分が解脱したとわかったときこそ、解脱できるのです。私たちの本性を理解すれば、すでに自由自在で何の障害もありません。自分の本性が永遠に死なないことがわかったら、そのとき私たちは解脱するのです。まだ盲目的に善行したり、布施したりしていると、解脱できません。何かをしなければ解脱できないと考えているのは、私たちがまだ無明（無知）だからです。まだ、本性は自由自在で、障害がないということがわからないからです。五つの戒を守って、十の善行をするなどと言わないで、五百の戒律を守って、一万の善行をしても、まだ解脱できません。砂を炊いてもご飯ができないのと同じです。

Q 座禅の修行の最終目標は解脱です。マスターにお伺いしたいのですが、解脱した魂は本当に「貪り、怒り、愚か」が取り除かれていますか。

M はい、そうです。私はすでに言いましたが、悟りを開いた人が怒るときは本当の怒りではありません。相手も憎しみや、否定的な雰囲気に影響されません。悟りを開いた人はいつも利己の目的のためには怒りません。悟りを開いた人は、あなたが十分なお金をあげなかったとか、あなたがどこかに行ってしまったとか、妻子が他の人の所へ行ってしまったとかでは怒りません。彼は奥さんを追いかけて戻ってきて欲しいとは言いませんし、あとで、相手の人を傷つける方法を考えたりはしません。もしかしたら、悟りを開いている人は見かけは怒っているかもしれませんが、それは他の原因のためなのです。仕事や、やらなくてはいけない使命のためなのです。魔の障害を突破するために、いわゆる攻撃的なパワーを用いなければなりません。悟りを開いた人は、食べ物をあげなかったとか、お金をあげなかったとか、愛さなかったとか、そんなことで怒ったりはしません。あなたは怒りからは逃げられませんし、怒りを活用しなければなりません。本物の怒りと悟りを開いた人が用いる武器のような怒りは、同じではありません。それはちやうど外科医が手にする手術用のメスのようです。殺人犯のナイフとは違います。メスも同じように人に痛みを与え、血を流しますが、病気を治療することができます。



るのです。外科医はどうやって手術するのか、どこを開くのか、どのくらい切るのか、わかっています。しかし、殺人犯はただ恨みや自己の利益のために、盲目的に人を殺すのです。

「貪り、怒り、愚か」やその他の否定的な品性もすべて涅槃、天国から来たのです。それらはすべて高貴な品性なのです。どうして、私たちは世俗のものを貪欲に求めるのでしょうか。それは、私たちが輝かしい天国から来たからです。私たちは天国の光輝に慣れているからです。私たちは裕福に慣れていて、仕事をしなくてもすべてを擁することに慣れていきます。ですから、私たちのほとんどが怠けているのです。仕事が好きではなく、ただ、お金が欲しいのです。ただ、ダイヤモンドが欲しいのです。（聴衆笑う）とはいえ、私たちはこの世界の状況が違うことを知らなければなりません。私たちは貪欲を利用して自分でこの世界を突破し、内面の貴重な宝石を獲得できるのです。たとえば如意珠（望みが叶う数珠）のような宝石です。「貪り」は別に悪くはありません。「怒り」も否定的性質ではありません。「愚か」もとてもいいです。ただし、正しく利用し、病氣治療の道具として用いて、殺人に使ったりしなければ、すべてのものはとても良いので

す。どんなものも否定的ではありません。私たちの概念が間違っているので、物事を否定的に変えてしまうのです。(聴衆拍手)

Q 他の人の病気を治療したり、苦痛を軽くしたりすることは自然に反しているのですか。私たちは他人の苦痛の状態を受け入れるべきですか。たとえば、難民のことですが、介入しないほうがいいのですか。

M 霊のパワーを使って病気を治療するのは自然に反することです。病人の霊気、チャクラ、磁場を乱れさせるのです。乱れてから直すのはとても難しいのです。同時に病人の霊性も混乱させます。でも、助けを必要とする人を助けたり、私たちに救いを求める人を助けることは、自然に反していません。ちようど、医者がいわゆる物質的なもの、たとえば針、メス、チューブ、薬品を使って病人を治療するようなもので、自然に反していません。医者はそのれによつていかなるカルマも招きません。ところが、人の霊性、磁場が乱されると、カルマはとても重くなるのです。

飢餓を救済したり、難民を助けたりすることは大丈夫です。それは聖書にも「見知ら

ぬ人に親切にしなさい。見知らぬ人を虐げてはいけません。私たちもまたエジプトの国ではよそ者なのです」とあります。つまり、私たちもこの地球上のよそ者であり、もしかしたら、私たちにも同じ状況がやってくるかもしれないのです。現在は戦争中です。私たちも、もしかしたら難民になるかもしれません。ですから、助けを必要とする人を助けるべきなのです。このように神は私たちを助けるのです。

### 悟りを開くことは神の恩恵

Q 釈迦は世々代々の善行により悟りを開き、成仏しました。凡人はいかに近道をして、現世において悟りを開き、天国に行くことができますのですか。

M そうではありません。あなたはあなたの過去において、世々代々善行をしなかったとどうしてわかるのですか。あなたは仏陀が世々代々善行をしたと証明できますか。それはすべて彼が言ったことです。あなたも聞いただけです。本当かどうかわかりません。あなたも自分が良かったか悪かったか知らないのです。そんなに悲観的になることはありません。私たちは自分の価値を信じるべきです。神は「自分にかたどって人を創造し

た」と言いました。それで私たちはまさしく神と同じなのです。どうして自分のレベルが低いと思うのでしょうか。

仏陀は世々代々ずっと善良で高尚かどうか、私は知りません。ただ私が知っていることは、開悟以前もこれといって良いことをしていません。彼は宮殿に生まれ、過度の寵愛を受け、皇后以外に側室が五百人いて、多くの美しい女性や踊り子は日夜歌い、踊り、彼を楽しませました。四季折々、冬は暖かく、夏は涼しい宮殿が与えられ、楽しみました。彼は国家の納税者の血と涙の税金を三十年も使っていました。彼は開悟の資格を与えられるような良いことをしたのでしょうか。先ほどすでに言いました。悟りを開くことは神の恩恵です。道徳や善行を通して獲得できたものではありません。

私たちはみな仏陀になることができます。少なくとも解脱はできます。私たちが望まなければ、神は私たちを救うために、キリスト、仏陀、マホメットを派遣する必要がなくなります。もし、道徳のある人だけが開悟できるのなら、私も誰が本当に道徳があるのかわかりません。俗説によると「どの聖人もみな過去があり、どの罪人もみな未来がある」と言われています。私たちが自分で思うほど、そんなに罪は深くありません。罪

も一種の幻想です。いったんそのことを理解したら、罪も美德もありません。けれども、このことを理解するために、あなたは一生懸命修行しなければなりません。そのとき、あなたは自在になるのです。観音法門はみなさんに高速道路を提供するのです。みなさんに直ちに自分を理解させるのです。みなさんは本来高貴であるとわかります。それから、もしかしたら、自分の過去を見ることもできます。そのときあなたは良いことをしたことがあるかどうか、私に報告してください。いいですね。

Q マスター、先ほど、開悟した人がしたことは、すべて神の意志によるものだとおっしゃいましたが、開悟した人はどうやって自分のしたことに責任を負うのですか。その人はどんな状況のときでも、神の指示に従って行動するのですか。私たちはどうやって、誰が本当に開悟した人とわかるのですか。私たちは彼らを信用できますか。

M あなたはまだ誰が悟りを開いているかわかりません。自分以外は誰も信用できないのです。もし、他人を信用できなかったら、そのときは祈って、そして反省しなさい。あなたの動機が誠心誠意かどうか、純粹かどうかを考え直してみなさい。もし、あなた

が本当に開悟したいのなら、マスターに会うことができます。すべてはあなたが決めるのです。マスターではありません。もしあなたが純粹であれば、類は友を呼ぶことになります。不幸にもでたらめなマスターや悪いマスターと出会う人は、自分が間違っているからです。自分の行為、動機、純粹度、誠意を反省すべきです。それから神に祈ります。すると神は他のマスターへと導くのです。これがいわゆる需要と供給の法則、「求めよさらば与えられん。たたけよさらば開かれん」なのです。

**Q** どうして私たちは前世のことを覚えていないのですか。

**M** すべてを覚えていたら、耐えられません。負担があまりにも重いからです。この世で私たちが出会わなければならないことが多すぎます。税金、戦争、子ども、目の前の問題、カルマなどです。前世において、とても悪かったとか、とても良かったとか、とても高貴だったとか、そういうことがわかってしまうと、もっと混乱して、一生の責任を果たすことに専念できなくなります。それで、神や自然の法則がカーテンを引いたのです。必要なときになればわかります。もし、修行の進歩に必要であれば、座禅の中で

わかります。必要でなければわかりません。

キリストも「明日のことで思い悩むな。その日の苦労はその日だけで十分である」と言っています。明日は私たちにとつて影響があり、とても重要です。それなのに私たちにはわからないのです。すでに消え去った過去を知る必要はありません。

Q 仏陀の智慧は何ですか。論理的に示したのですか、それとも直感的に示したのですか。あるいはそれらを越えた何かですか。

M そういったものをすべてを超越しました。私たちが思いつくことのできるすべてのものは、仏陀の智慧ではありません。私たちが仏陀の智慧に触れるときにだけ、理解できるのです。表現のしようもありません。けれども、その状況が訪れたとき、私たちははつきりと理解できるのです。あなたは仏陀の智慧に背を向けて、うろろろしないでください。ただ、この大きな智慧の中で生きて、それを生活に応用して、智慧の化身になるのです。

Q 祈りは私たちのカルマを減らすことができますか。

M できます。私たちが誠心誠意であれば、非常に敬虔に、深く祈れば、それも一つの座禅です。座禅をしているとき、私たちは加護の宝庫の中に入り、功德、福德の宝庫の最も深いところに入ります。これこそ有効で、カルマを洗い流すことができます。私たちが本当に誠心誠意に深く、許しを渴望するときだけ効果があるのです。







## 財力と権力

フォルモサ・西湖道場における英語の講演

（一九九五年六月三日）

大切なことは、私たちはもつと努力しなければいけないということです。より良い生活ができるようにいつも努力しましょう。私たちは物質主義者ではなく、すべての面において楽しい、豊かな生活を送らなくてははいけません。私たちは財力や権力を悪人に譲る必要はありません。善良な人々が自分たちの収入や社会的権力を得る努力をしなければ、すべての権力や財力は否定的なパワー、あらゆる悪人たちのところに行ってしまう。そして、彼らは逆に善良な人々をコントロールするようになります。善良な人々は何もできなくなり、良いことを広めることさえもできなくなります。ですから、私は家族、自分自身、国のために高い生活水準を得られるように努力したり、お金を稼いだ

り、商売をするのは一つの務めであり、罪ではないと考えています。

私についてくる弟子たちに、貧しい生活をして、すべての権力や財力をモラルのない悪人に渡すことを勧めています。道徳心、責任感、愛情、他の人と分かち合う心を持っていない人たちに渡すように勧めています。私たちのように修行して、道徳や戒律を守っている人たちは、お金があるときはいつでも他の人と分かち合えます。私たちは天災にあつた人、被災者、難民、貧困者、助けを必要とする人、病人、孤児というような人々を助けるのです。ですから、お金を持つことは大変良いことです。これは資本主義ではありません。私たちは財力と社会活動の中の権力を活用しなければなりません。

あなたが政治家ならそのまま政界にとどまり、立派な政治家になり、国家のため、国民の生活水準のために奮闘すべきです。ビジネスマンなら、成功すべきです。成功するように常に努力しなければなりません。神が与えてくれた分のお金を稼ぎ、そして、他の人に分け与えることができます。お金はとても扱いやすいものです。お金を持っていないと、みなさんは「私はお金はいりません。修行者ですから。お金の触りません」と言うことができます。そういうことはいけません。わかりましたか。そういう態度をと

つてはいけません。お金を持つていなくて、お金を稼ぐことを怠つて、こう言うのです。「私は気にしません。すべて手放しました」。実際はそうではありません。

昔、修行者と呼ばれる人は通常もろもの物を捨てました。それでもいいのです。みなさんはしばらくの間、そうすることができました。でも、私はいつもそうすべきではないと思います。違いますか。みなさんはできたと思います。できないはずないでしょう。みんなが僧侶になり、朝に夕に霞を食べ、（聴衆笑う）露を飲みました。それだけです。実際、修行者はそれほど皆さんの物はいりません。私たちは野菜だけを食べ、いつも美しい服を着る必要はありません。本当です。私たちは本当に外見を気にしません。本当に気にしません。

ときどき私はお化粧をしたり、きれいな服を着たりしますが、三、四日後には河辺に行き、きれいな服も着ず、お化粧もせず、自分一人、自然になるときが一番幸せです。お化粧や服はときには人を疲れさせます。世間が求める美的感覚や体裁に慣れていないと、みなさんは疲れを感じるでしょう。修行者にとっては特にそうなのです。私たちは自然であることだけが好きですから。私たちは髪の毛、服というようなものがない方が

かなりリラックスできることがあります。けれども、それが世界を美しくするため、または社会の中で仕事をするためなら構いません。

ですから、修行者と呼ばれる私たちには本当に物質的な満足はいりません。本当にいりません。そのためにときどき、私たちは「なぜお金を稼がなければいけないのでしょうか。何もいらぬのに」と考えます。それはとても逃げやすい方法です。でも良く考えてみれば、私たちがこの世界に生きていると、家族、子ども、両親、親戚、そして友達といった多くの人たちが私たちに頼らなければなりません。彼らが助けを必要とするとき、私たちが彼らの力になってあげなかつたら、誰が助けるのでしょうか。というのは、この世界には貧しい人、助けを必要とする人を助けたいという人はほとんどいません。

この世界では誰かに何かをあげたいという人は本当にまれです。日常生活の中でもそうです。これは否定的なパワーが作り出した結果です。このパワーは人間を貪欲で、欲張りにさせ、何もかも私のもの、私のもの、私のものだと言って、決して人にあげようとしません。十分な、数えきれないほど、どれほどあるのかもわからないくらい、たくさん持っているにもかかわらずもつと欲しがります。誰にも譲らないのです。と

いうことで、いわゆる善良な人、プラスのパワーを持っている人、道徳的な修行者、道、真理を求めて修行している人がお金を持っていないくて、誰が貧しい人々を助けるのでしょうか。そこです。それが違いです。なぜ、私たちがお金を稼ぎ、ビジネスがうまくいく必要があるのかという理由です。私たちにお金が必要なのではなく、この世界でお金、権力、または政治的地位といった有効な道具を使って、人々を助けることができるからです。

### 神の仕事をするために権力を善用する

たとえば、もし私がアメリカの大統領だったなら、もしもですよ、（聴衆笑う） 私はオウ・ラック（ベトナム）、キューバ、ハイチ、チェチェン、ボスニア、そしてあらゆる民族の難民をずっと以前に受け入れています。それから、私は弟子たちに難民をどう世話すればいいのかを話します。私はみなさんに話します。（聴衆拍手） みなさんはやってくれます。一人の修行仲間が一人か二人ずつ世話をすれば短時間でこの問題を片づけられます。残念ながらこのようにすることさえ許可してくれません。

私が「この人、この家族の世話をしてください」と一言言えば、すべての弟子は国籍を問わず、きつとそのとおりにしてくれると信じています。韓国、中国、オウ・ラック、フォルモサ（台湾）、アメリカ、フランス、イギリス、そしてあらゆるところにいる修行仲間がすぐに行動してくれると信じています。そうでしょう。（「はい」と答える。聴衆拍手）そうすれば、私たちには何の問題もありません。本当です。難民キャンプで彼らを養う代わりに、私たちは彼らに商売をするためのお金をあげたり、彼らを訓練すれば、彼らは自立できるようになると思います。後に、彼らは他の難民を助けます。そうすれば、世界は何の問題もなくなるでしょう。そうではありませんか。そのとおりで。本当に何の問題もありません。

これはその一つの問題、難民の問題です。もう一つは中絶の問題です。私たちは胎児を殺してはいけません。私は国連とその他の国々に手紙を送りました。中絶すべきではないと彼らに訴えました。私たちは特別社会保護機関を設け、その子どもを生ませて、子どものいない人々にあげることができます。現在では養子を貰うのも非常に問題があり、多くの手続きや複雑な政府機関の処理が必要です。子どもがいなくて、欲しがって

いる夫婦はたくさんいます。一人だけでなく、二人も三人も四人も養子にしたり、どんな人種の子どもでも、彼らは喜びます。それなのになぜこのような大切な胎児を殺さなければならぬのでしょうか。

このようなことをこのまま続けていくと、私たちは自分自身を殺すことになると思います。そして、私たち人類は保護の必要な貴重な動物になってしまいます。現在では鳥類、ライオン、トラのようなジャングルに生息する多くの生き物が数少なくなっています。今後、人類も数少なくなるでしょう。というのは、現在多くの国々において二人以上の子どもを産む人はいません。一人か二人以上子どもを生んではいけないという法律です。そして、それ以上の子どもは中絶しなければいけないというのです。それ以上の子どもを殺すのです。そんなことはすべきではありません。そうでしょう。私たちは交換すればいいのです。あなたには子どもがいなくて、私にたくさんいれば、私があなたに子どもをあげればいいのです。とても簡単なことです。なぜそういうふうにしらないのですか。これが二つの問題です。現在、世界で最も深刻な問題は難民そして中絶です。私はとても簡単に解決できると思います。私が強大な国の大統領であるならば。この世



にいる間は社会的権力や財力を手放さなくていいことをみなさんにわかって貰うために、私は一つの例をあげただけです。私たちはこのような権力が欲しいのではなく、欲しいと思わないからこそ、権力を持つべきなのです。（聴衆拍手）もし、このような権力を欲しがっている人に渡すと彼らはいつも悪用します。彼らは非常に権力が欲しいので、いったん手に入れるとすぐに悪用するでしょう。私たちは欲しがらないからこそ、非常に公正に平和的に、世界に役立つように使うことができます。私の言いたいことがわかりますか。

そこで問題なのは修行者と呼ばれる多くの人が、この世界を放棄することを好むということです。それは簡単な逃げ道です。そうでしょう。私のように人々に教えたり、みなさんと会ったりしなければ気軽に、わずらわしいことがなくなるのは承知しています。それなら、私は何をすればいいのでしょうか。私はいつも簡単な逃げ道は選びません。私の言いたいことがわかりますか。たとえばこういうことが言えます。私はみなさんの先生ですから、何も仕事をする必要はありません。本当に必要ありません。私はたくさん食べませんので、本当に仕事をする必要はありません。どこかに行きたいときは、「いい

ですか。私に来てもらいたいなら、航空券と、ホテルと、あれこれ用意してくださいね」と言うだけでみなさんはすぐにそうするでしょう。そうでしょう。（「はい」と答える）

### マスターは教えたことを自ら実行し、お手本となる

私はそういう簡単で、安っぽい方法は選びません。私は自分自身でします。自ら仕事をしてお金を稼ぎます。どうしても必要なときだけみなさんに要求します。でも、些細なことだけです。たとえば、どこかで天災があると、私はこう要求します。「私は他の国において行けないので、代わりに状況を見に行ってください。行って私たちに何かできることがあったら、するのですよ。できる限り助けてあげなさい。もし、資金や人手が足りなければ、こちらから援護します」。いつもはこのような感じですよ。そうでしょう。実は私がそうするのは、みなさんに自分自身を助けさせるためなのです。他の人を助けるのも毎日の座禅で得た愛の力や智慧を表わすためです。私はそれくらいのことしか要求していません。

私は私のためにみなさんに何かをして欲しいと言ったことは一度もありません。そう

することはいつでもできますが。そうでしょう。ですから、私が行なうことはすべて、みなさんへの教えなのです。私はいつもみなさんに「これをしなさい。あれをしなさい」とは言いません。私の行動を見るだけで十分学ぶことができます。実際、私はみなさんに何も教える必要がありません。みなさんがときどきしかここに来られないので何か話して欲しい、物語を聞かせて欲しい、あれこれ説明して欲しいと期待しているからです。でも実際、みなさんは私に何かを話して欲しいとたのむ必要がありません。私が見なさんに何かを話す必要もありません。私が行なっていることはすべてみなさんに教えたこととです。みなさんに教えることはすべて私は実行しています。

「私はマスターです。なぜ、仕事をしなければいけないのですか。私はお金に触りません。私は純粋です。すべてを超越しています。決してお金には触りません。墮落させ、汚れます」と大いに言いがちです。私もそうできます。すべての言い訳が通用してしまいうのです。俗に言うグルのほとんどは、信者と呼ばれる集団を洗脳し、自分たちの望むものを告げると彼らは何でもしてくれるのです。けれども、私はそうしません。

私がみなさんに教えることは本当に良いことで純粋なことです。みなさんや社会にと

つても良いことです。私の行なっていることは私の教えていることです。私の教えることは私が行なっていることです。そうでしょう。（「はい」と答える。聴衆拍手）

私はただみなさんに教えるだけです。私も簡単なことだけを選んで行なってもいいのですが、でもそうするわけにはいきません。なぜなら、この世界を助けるためには、私たちは必ず権力や財力を持たなければなりません。個人の利益や名誉のために権力や財力を手にするのではなく、自分の理想と信念のために手にするのです。これが私の言っている、なぜみなさんもこのようなことをしなければならぬかという理由です。もし、みなさんに能力があつて、自分がそうしたいと思うのであれば、そうしてください。なぜなら、私はこれがとても合理的だと思うからです。でも、もちろん必ずしもそうしなくても構いません。みなさんが同じ理想を信じ、そしてそこに道理があると思うなら、同じことをします。私はみなさんになぜお金から逃避してはいけないか、政治的地位を軽視してはいけないかを説明したいだけなのです。なぜなら、これらは良い道具ですから。神の仕事をするため、この大きな世界をより良くするための良い道具なのですから。さあ、わかりましたか。（聴衆拍手）

私はマスターなのになぜまだお金を稼いだり、多くの仕事をするのか疑問に思っている人がたくさんいます。もちろん私は彼らが無知だから、愚かだから、そういうふうと言ったのだとわかっています。そうでなければ、彼らはなぜ私がそうするのかわかるはずです。もともとその必要はありません。みなさんから一人百ドルずつ集めただけで、一日ですぐに億万長者になります。何も問題ありません。私は仕事をする必要がないのです。(聴衆拍手) 私は物質主義者ではありませんし、地位や金銭を気にしないからこそ仕事をしているのです。反対にもし私が地位や金銭を気にするのなら、いつもみなさんをコントロールするでしょう。私はみなさん一人ひとりに毎月いくらかを寄付するようには要求するでしょう。みなさんは喜んでそうするでしょう。そうではないですか。(「はい」と答える。聴衆拍手) みなさんは百ドルだけでなく、それ以上くれると思います。みなさんから一人あたり一ドル貰えば、たった一日で私は数百万ドルも集められます。わかりますか。一日だけです。(聴衆拍手) そして、毎日みなさんが私に一ドルくれると、どれくらいになると思えますか。

OK、今、誰かがみなさんになぜ私がお金を稼ぐのかと聞いても、みなさんはその理

由がもうわかりますね。そうすることが正しいからです。これが誠実に生きるための正しい道で、私たちは汗水流してお金を稼ぎ、自分たちの才能や努力で働きます。私たちは労働力、才能、仕事、時間を生産のために使い、お金を得ることができます。そして、人々に分け与えることができます。もし、私が本当にお金が欲しいなら、それは愚かなやり方です。そうでしょう。これは何百万もの弟子を持つマスターにしては愚かなやり方です。一枚の絵を描くには何日もかかり、その上絵の具が目にしみたり、あるいは生地を裁断し、服を作って世界中に行っては宣伝したりするというやり方は愚かでしょう。私の言う意味がわかりますか。これこそ愚かなやり方です。この世界のすべてのマスターは決して仕事をしません。彼らは仕事をする必要がありません。仕事をしているのは私だけです。私は最も愚かなマスターです。

ですから、私のことを物質主義者で、お金や地位が欲しい人間だと思っている人は愚かです。そういうふうにいる人は本当にひどく誤解しています。そうでしょう。フォルモサ（台湾）の修行仲間だけで十分です。毎日一人当たり一ドル私にくれればフォルモサだけで十分です。海外の修行仲間から貰うまでもないのです。必要ありません。

私は何百台ものロールスロイスを買うことができます。自分だけのために好きな場所にパラダイスを造ることができません。買うことだってできません。建てる必要はありません。時間がかかりますから。それに誰が建てるのですか。マスターは家を建てません。そんな物質的なものには触れてはいけないでしょう。私はお金にさえ触る必要はないのです。弟子たちにあそこの家、あるいは宮殿を買ってくるようにと言うだけで彼らはすぐに実行します。フォルモサ、スウェーデン、スイス、フランスに行つて滞在する必要はありません。私が気に入ったどんな宮殿もすぐに手に入れることができます。そうではありませんか。海外の修行仲間と言うまでもありません。フォルモサのだけで十分です。たとえばの話ですよ。

ですから、私はこういう方法で苦労してお金を稼いでいるのに、人々は私が弟子たちからお金を取っていると思つています。愚かですね。この方法は愚かな方法でしょう。私がみなさんからお金をもらいたいなら、ここにいるだけでいいのです。世界各地に足を運び、色々なことをする必要ありません。これでわかりましたか。みなさんの頭の中に何か疑いがあるのなら切り捨てましょう。みなさんにとって良くないことです。そ

れが内部にガンをつくり、こぶができてしまいます。みなさんの健康、精神の健康に良くありません。

ということ、世の中はあべこべです。マスターはすべて仕事をしません。何一つしません。ひたすら弟子から供養され、彼らに「何て神聖な人でしょう。決してお金に手を触れない。物質的なものも何も必要としない」と褒められるのです。事実ではありませんが、可能性はありますが一つの面にすぎません。全部がこのようではありません。すべてのマスターがそうしたいわけではありません。お金に触れないで、ただじつと座って他人から供養される人だけが聖人というわけではありません。そうではありません。けれども、実際、私のしていることは、他の人の目から見ると、少し愚かに見えませんか。なぜなら、マスターはすべてそうしないからです。弟子たちが彼らを十分供養しているのに、仕事をしたり、他のことをしたりする必要があるのでしょうか。けれども、私はすべての方面において、完璧な成長という、良いお手本をみなさんに見せたいのです。道徳のレベルや智慧を発展させるだけでなく、これらを日常生活で応用し、表現してほしいのです。



## 才能を發揮して世界を美しくする

みなさんに才能や智慧があれば何でもできます。みなさんは世界を美しくしなければなりませんし、自分のためにお金を稼がなければなりません。自分自身で生活を営み、他の人に負担をかけないようにしましょう。そして、みなさんが本当に良い道徳を持っているなら、当然みなさんは困っている人々に対して、慈悲心や愛の心を持つはずです。もちろん、みなさんはあらゆる人々、民族、肌の色、主義、信仰、宗教にかかわらず、敵にさえも手を差し延べます。こうすることにより、他の人々は私たちに智慧と道徳心があることを知るので、そうでなければ、他の人はどうやって知るのでしょうか。また、彼らはどうやって自分を教育するのでしょうか。みなさんは良いことをするように、智慧を開くようにと言いますが、自分たちが何も表現しなくて良いのでしょうか。

たとえば、あなたが英語の先生だとします。もし、あなたが英語を話したり、書いたりが一度もない生徒たちにこう言ったとします。「諸君は自分から英語を話さなければならぬ。今日から、私に会うときが私から学ぶときになる。また、自分で英語を話さなければならぬ。誰でも英語を話せるはずだから」けれども、先生は一度もお手本を

見せず、ABCさえ発音したこともありません。そして、一文字も書いたことがなく、一文字も発音したこともなくて、生徒たちはどうやって彼が英語の先生であるとわかるのでしょうか。彼は口のきけない人、耳が不自由な人で何も話せない人かも知れません。読んだり、書いたりすることができないかも知れません。ですから、先生は言葉だけでなく、行動においても優れていなければなりません。そうでしょう。(聴衆拍手)

少なくともみなさんは私を理解してくれませぬ。この世界の多くの人は理解していません。彼らはあべこべに考えています。たとえばこうです。私がここに美しく座ってそしてみなさんが花や食べ物、色々なものを私の周りに置き、それから頭が床につくくらいまで深く私にお辞儀をしたりすれば、私は聖人であるということです。なぜなら、私は何もしていないからです。お金にも触っていないのですから。このときこそ聖人であると言うのです。実に役に立たない聖人です。(聴衆笑う) 自分たちの手で、力で熱心に世の中を改善しようと努力している人たちは、世間に文句を言われ、非難されます。世間は彼らを物質主義者、権力を乱用するといったような人間であると思っっているのです。権力なら私はすでに十分持っています。物質的なものならいつでも手に入れること

ができます。一日かかりません。たったの一時間、一分だけで十分です。ちようどお金を口座に入れるだけの時間です。それだけです。一人当たり一ドル貰えば私は何度輪廻しても使い果たせません。一回の人生だけではありません。スイス銀行に預金して、次のトウルク（チベットのラマ）、在世仏、リンポチエ（もう一種のラマ）、またはは何かに生まれ変わってもお金をどこに預けたのか知っています。（聴衆笑う）ラマは転生すると自分たちの前世を知っているそうです。そのため、彼らは傘から数珠玉まで自分の持ち物のすべてを知っています。そうじゃないですか。知っていますか。OK、スイス銀行に預金することは大変結構なことです。それから、私が口座番号を覚えていればもつと助かりますね。（聴衆笑う）

### 悪の力にコントロールさせないようにする

私たちは仕事をしなければなりません。神は私たちをここに送り、平等な機会、パワー、才能を与えてくださいます。ですから、私たちがこの世界で財力や権力をつかまなければ、すべてが悪人たちに取られてしまいます。そして、コントロールされます。悪

の力が勝つと私たちは何もできなくなります。神に不平を言い、なぜ助けてくれないのかと嘆くこともできません。神は私たちを助けています。神はあなたをここに送り、しかもあなたに研究する機会まで与えてくれました。他の人や悪人たちと全く同じような機会を与えてくれたのです。これは一種の競争のようなものです。両方とも同じものを得るためのチャンスや才能や能力を与えられています。

ですから、みなさんが放棄すると当然悪人たちが取ってしまいます。彼らは「お気の毒に。知らないそうなので」と言います。この世界において、権力や財力を持つていなければ私たちはどうなるのでしょうか。当然乞食になります。乞食には誰でもなれます。けれども、覚えておいてください。現在では乞食になっても生きていけません。多くの政府は乞食を好んでいません。みなさんは乞食になりたくてもなれないのです。みなさんがすべてを放棄すれば安全というわけではありません。わかりましたか。多くの政府は乞食を一カ所の収容所に入れます。すると自由でなくなり、したいことができません。こうしたり、ああしたりすることはできません。そして、自分たちがしたくないことをたくさんしなければなりません。その収容所の中では肉を食べなければなりません。菜

食はできません。そうなったらみなさんはどうしますか。

ですから、すべてを放棄したからと言って、悪の力はみなさんを見逃してくれません。穏やかな生活をさせてくれません。そうではありません。ですから、奮闘しましょう。みなさんは本当に他を選ぶ余地がないのです。ですから、金銭や名声に対するみなさんの誤った観念を捨てましょう。放棄すべきものは権力や名声に対する執着で、金銭や名声そのものではありません。私の言いたいことがわかりますか。これらに対する欲望を捨てるべきなのです。金銭や名声ではなく、欲望だけを捨てるべきなのです。(聴衆拍手) 今日では非常に多くの修行者がこのような誤った観念を持っています。ですから、みなさんはもうこの種類の観念を持つべきではありません。私はすでにみなさんに教えましたが、論理的にその理由を述べましたから。私はみなさんに無意味なことを言って、無理に私を信じさせているわけではありません。これは本当に理にかなったことです。そうではありませんか。OK、これでわかりましたね。

捨て去るものは欲望であり、この世界自体ではない

ですから、国会や議会で仕事をしている修行仲間をあざ笑わないでください。彼らは自分たちの職務を遂行していて、立派にやっています。多くの修行仲間が政界において高い地位に就いていて、同様に大変有名で成功している人もいます。私は彼らにその仕事を辞めるようにと言ったことは決してありません。もし、彼らが辞職するならば、私は「なぜですか。あなたは気が狂ったのですか」とさえ聞きます。そうです。修行仲間の何人かが印心を受けたあと、辞職しました。国会議員をもうやりたくなくなり、出馬しませんし、何もかもしないのです。私は「今、みなさんは何がしたいのですか。私の周りには無能な人間は要りません。もうたくさんいますから」と言いました。（聴衆笑う）

私たちはこの世界自体ではなく、この世界に対する欲望を捨てるのです。なぜなら、世界は私たち自身の一部分であり、私たちの親戚、友人、兄弟、姉妹の一部分です。ですから、この世界を捨ててはいけません。これは誤っています。私たちが捨てなければならぬものはこの世界に対するあらゆる欲望です。私たちが捨てなければならぬこととはそれだけです。そうしたら、みなさんは自分たちのしたいことなら何をしても構い

ません。お金を稼げるだけ稼いで、地位は高ければ高いほどいいのです。そして、権力や財力を用いて困っている人たちを救います。この行ないこそ正しい行ないなのです。

(聴衆拍手)



## 開悟は肯定的なパワーを呼び覚ます

幻想の門をくぐり抜ける

ほとんどの人が、悟りを開いた人や悟りを開く人というのは並はずれていて、身長が二メートルもあつたり、こんな足やこんな手だと思つています。仏教の経典を読むと、仏陀にはそれぞれ特徴があり、足はアヒルのようで、（聴衆笑う）脚はシカのように、目はウシのようで、というふうに述べられています。（聴衆笑う）仏陀を美化したいのですが、それをすべて合わせると、おかしな仏陀になってしまいます。わかりますか。（マスタ―笑う）

たぶん、昔、このような動物の王が美しさと高貴な品性の最高のシンボルだったこと

シンガポールにおける英語の講演

（一九九五年一月十日）



を知らない人たちがいたのでしよう。それで、仏陀を敬愛する人は仏陀がいかに美しく、ガチョウの王のように道を歩き、胸はライオンのようである、などと他の人に伝えようとしたのです。でもこのように形容された動物の部分を全部合わせると、いったいどんな類の仏陀になるのかわかりません。

これはただ外面のことだけで、私たちの内面はみな同じです。このことはみなさんすでに知っていますね。でも、どう同じなのですか。どう知っているのですか。これは難しい問題です。簡単そうに見えますが、とても難しいのです。というのは、私たちは忘れてしまったからです。それだけです。私たちは真の自分を完全に忘れてしまいました。そして私たちは毎日夢を追うことに忙しく、目の前の欲望を満たそうとして、本当の自分、私たちがどこから来たのかを忘れてしまいます。私たちがどの位忘れやすいのか教えましょう。私の体験を話しましょう。

二、三年前だったと思いますが、初めて招待を受けて、オーストラリアに行き、複数の都市で三つの講演が予定されていました。講演初日は順調に進んで、何も問題はありませんでした。二回目の講演も順調でした。私は時間通りに到着しました。三回目は遅

れました。遅れた理由は交通事情ではありません。寝過ごしたわけではありません。車やそのようなものがなかったからでもありません。唯一の理由は忘れたからです。その晩に講演があるのを忘れていました。

私はずっと自分のことをしていました。部屋が少し乱雑なので、ずっと片づけていて、そして自分の部屋のように物をあちこち移動してみました。ことによると、私の忙しいスケジュールを調整するため、何かすることを与えてくれたのでしょうか。そうかもしれません。私は完璧主義者かもしれませんが、整頓されていないのを見ると、いつも整頓しようとしみます。けれどもそのことでその晩の講演のことを完全に忘れてしまいました。

講演が始まる三十分前まで忘れていました。そして弟子たちが、音を立てて慌てて走り込んできて、「マスター、どこにいらっしゃるのですか」と言いました。「私はここにいます」と答えました。実に冷静に。「マスター、講演会場にいないといけない時間ですよ」と言いました。私は「何？ 何の講演会場？」と聞き返しました。すっかり忘れていました。私のようにひどい人間はいないと思います。でも私たちは忘れることもあるでしょう。あなたはどうか。

みなさんは何か他の仕事に没頭して、その日の重要な目的を忘れてしまいます。そのようなことはありませんか。ありますか。OK、当然私はすぐにみなさんにお詫びしなければなりません。私は本当に悪いと思いました。もし、私にもう一度講演させてくれるなら、神はまず、私のために目覚まし時計を準備してくれなければなりません。ですから、そのときから、いつも目覚まし時計を至る所に置いておき、講演があるときに、すべての目覚まし時計をセットしておいて、忘れたときに思い出させるようにしています。どうして講演を忘れてしまったのでしょうか。ああ！私にはわかりません。でも、私は忘れてしまいました。

ですから、今私たちがこの世に長く居すぎて、第一の人生、第二の人生、第百の人生になったら、私たちは当然、この世に生まれた目的をもっと忘れてしまうでしょう。一時的に、数分間または何十分間か仮死状態になったことがある人々がいます。臨床上の死亡、呼吸の停止、脈拍の停止などで医師が臨終を告げます。そして、彼らが息を吹き返したとき、超世界の話をたくさんしました。彼らはなぜこの世に来たのか、この地球に来た目的は何かを思い出しました。

けれども彼らはほとんど、天国で見たことや、この世ですべきことをすぐに忘れてしまいます。彼らは人生の目的がわかったのですが、この世に戻るとき、あるいはこの人生に再び戻ってきたときに忘れてしまいました。彼らは自分に使命があることは知っていますが、それが何であるかはわからないのです。

中国人はこんなふうに言います。私たちが再びこの世に生まれて来る前に、閻魔様が私たちにスープのような暖かい飲み物、たぶんチョコレートか何かを与えます。(マスターと聴衆笑う) それは私たちの前世を完全に忘れさせ、新しい人生を始めさせるものです。私たちの多くは、この世に来ることができるなら、もう一度人間になるチャンスを与えられるなら、これも、あれもすることを約束します。そして、私たちは修行をし、座禅をし、悟りを開き、自分の生命とエネルギーのすべてを、人類に奉仕するなどして貢献しようと誓います。

そして、私たちは本当に良いことをしようと思うのです。でも、このスープ「忘我スープ」のお陰で忘れてしまうのです。ですから、唯一、私たちが再び思い出すためには、秘密の知識の門を開けなければいけないのです。その門を開けなければ、私たちは永遠

にこの世界を超越できなくなります。私たちが知っているのはただこの物質的存在、すべての苦痛、享楽、その他無常な物事にすぎません。私たちは永遠に自分をこの外在の肉体だけとみなすのです。そして、その肉体に伴う苦痛を受けます。

### この世の苦難は無明から生じる

でもなぜですか。なぜ私たちはここに来る目的を思い出さなければならぬのですか。それは私たちが約束したわけではなく、私たちが思い出さなければ、思い出すまで、この惑星での使命を果たすまで、何回も戻ってこなければならぬのです。それから、私たちはより高度な世界へ行くことができます。天国、涅槃においての本来の偉大な地位を思い出すことができます。この世界の苦難は戦争だけが引き起こしたものではありません。戦争は大災難ではありません。この世界の苦難は食料不足などから起こるわけではありません。人類の無明からなのです。私たちは自分の使命と目的がわからず、遊び場を我が家と間違え、そこに長居しすぎ、家に帰るのを忘れてしまい、外の寒さや危険に苦しんでいることもあるのです。

けれども、仏陀、菩薩や全能の神は、いつも私たち、迷える子ども、遊ぶのが好きで、家に帰るのを忘れた人々を見つけようとしています。

ですから仏陀はときどき降りてきて、人間として存在するという苦痛に耐え、迷える子どもたちを見つけ、遅すぎないうちに彼らを安全な場所に戻してあげるために、些細な物質的生活の屈辱に耐えるのです。どの家もどんなに頑丈に建てても、他の要因や理由のために、また老朽化のため建て直さなければならぬので、いつかは壊さなければなりません。この世界は一軒の大きな家、とてもきれいで丈夫な家ですが、でもそれは永遠の家ではありません。

それは仏陀、菩薩、キリストやマホメットなどのような聖人が、私たちのところに降りてきて加護してくれているからです。私たちが一步步め彼らは十万歩歩み、私たちを迎え入れてくれ、過ちを許し、過去の良くない行為を浄化し、新たな人生、新たな始まりへと導いてくれます。良く言えば、私たちを本来の生活の方法、生きるべき道、あるべき人生の送り方へと連れ戻してくれます。

## マイナスの情報破壊力

今まで私たちの体は細胞や神経系統は、ほとんど、私たちの情報センターからマイナスの命令だけを聞いていました。それで戦争が起こるのです。それで暗殺が起こるのです。それで他の人の仕事や事業、妻や夫を犠牲にして競争するのです。それは私たちの頭脳センターには、私たちの体に良いことをするように命じるプラスの情報がないからです。そしてこの世界の良い人でさえ、社会のマイナスの影響に圧倒されてしまうこともあります。また信念が揺らぎ、善良な本性が弱まり、ついに否定的なパワーに屈服してしまうこともあるのです。

ですから、私たちの頭脳にマイナスの情報だけしかない場合は、もちろん否定的情報やマイナスの命令だけをだし、そして体内の細胞や神経系統もマイナスの命令に従い、マイナスのことでしてしまいます。それでこの世界に平和がないのです。それで今なお兄弟が殺し合っているのです。両親さえ享楽のため、個人的理由のため、個人の自由のため、「墮胎の合法化」に賛成し、自分の子どもを殺してしまいます。別に彼らが悪いわけではありません。決して戦争当事者や両親が悪いわけではありません。妻を殺した夫

や、夫を殺した妻や、互いに殺し合う兄弟が悪いのではなく、彼らの頭脳がただマイナスの情報やマイナスの概念だけを与えるからなのです。頭脳が命令すれば、細胞は従わなければならず、体は実行しなければなりません。それで私たちは意気消沈して、より深く落ち込んでしまうのです。それで私たちの世界は四六時中、自分が造った滅亡の危機にあるのです。

ですから、唯一私たちを救えるのは論理的なことだけです。私たちに自分にプラスの情報こそそぎ込み、私たちの情報の流れを変えることです。私たちは毎日、良い情報、プラスの情報、建設的信息、開悟された、智慧のある情報を受け取るべきです。そして頭脳から細胞や神経系統に命じて、すべて良いことだけ、平和なことだけ、智慧あることだけ、建設的なことだけと、肯定的なことだけをします。それが世界を救う方法なのです。そうでなければ、どんなに和平会談をしても、平和の話があっても、軍備にいくらお金を使っても、私たちは依然、安全に感じません。いいですか。ある日この国ではちようど戦争が終わり、お互いに握手をし、また新たにやり直します。そして翌朝、他の国に戦争が起こったことを聞きます。そして国連がそこに駆けつけ、それがまだ終わ



らないうちにもう、至る所で、どこかの国がどこかの国と戦争を起こすのです。

### 開悟は世界に奇跡をもたらす

もう二十一世紀が近づいていますので、私たちは文明的で、平和で、愛情があり、お互いに助け合えるはずです。その上、科学技術が発達し、母なる大地や宇宙において発見された富により、私たちはみな王様のような生活を送ることができるようになります。それなのにこの世界はまだ貧困、戦争、苦しみがあふれているのは、私たちが自分の頭脳とシステムに十分なプラスの情報を入れていないからです。それが悟りについてのすべてです。悟りはプラスの生活の方法であり、私たちの内面にすでに存在している肯定のパワーとつながる方法なのです。宇宙には陰と陽と呼ばれる二種類のパワーが存在していることをみんな知っています。今、私たちはほとんど陰の中に生き、陽のパワーがありません。それは私たちがその資源を開発しなかったからです。

この世界は否定的な世界なのです。ですから、明らかに至る所に陰のパワーがたくさ  
ん存在しています。そして否定的なパワー、陰のパワーと、より簡単に接触できます。

それで、私たちが智慧を十分に肯定的な方面に向けられるときや、その中から毎日必要とするプラスのパワーを引き出せるときに、私たちはバランスを保つことができ、世界に奇跡を起こすときえできます。もちろん戦争もなく、苦しみもありません。ですから先程話したとおり、この世界の苦しみは個人や国のせいではありません。その原因は私たち地球上の人々が無明だからなのです。

悟りを開くことは目新しいことではなく、請い求めなくてはならないものでもなく、神秘でもありません。それはただ、私たちの内面にある肯定的なパワーで、今までずっとそのまま、眠っていて、使っていなかったのです。ですから、誰かがみなさんにどこを探しに行けばいいのか、どのように使ったらいいのかを思い出させたとしたら、それを悟りを開くと呼びます。「即座に悟りを開く」ことができるからです。あなたのポケットに、そこに何か入っていれば、すぐにそれを取り出すことができるからです。スーパーへ買いに行く必要はありません。ただ、あなたがそれを受け取りたいと思えば、それはそこにあります。私はあなたに即座に証明できます。あなたはすぐに使うことができ、最初の日でもすぐあなたの人生が改善されることを体験できます。

ある人たちは印心のおきに、生まれ変わったように感じます。彼らはとても喜びに満ち、街に出掛けてみんなにキスするかもしれません。もちろん、私はそうしないように忠告します。特にシンガポールでは。それはただ彼らの喜びを表現する方法なのです。そして、彼らの人生は羽毛のように軽くなります。彼らは負担を感じないで働きます。彼らは愛を込めて、そしてそれほど苦勞せずに家族の面倒をみます。多くの家族は無明のために互いに苦しめています。ですから、悟りを開いた人の多くは、自分の家庭が天国になったことに気づくのです。あらゆる人が、あらゆる家族がそのようになれば、私たちは天国に行く必要はありません。私たちの惑星は保護され、そして私たちの肯定的なパワーで、地球の振動力を高めることもでき、地球を天国のようにすることもできるのです。

### 天国と地球の違い

天国と地球の唯一の違いは、振動力、周波数なのです。天国の周波数は速くて穏やかです。私たちの地球のような物質世界の周波数は、粗雑で不揃いです。それはときどき

地震やさまざまな目まぐるしい天候の変化という天災があるからです。もちろん、天気予報に基づいて「ああ、北東の風か。強風だ」などと言って、そのようなことがすべての結果を招いています。けれども、それは同時に惑星全体の振動力、周囲の大気の振動力によるものなのです。天国にはそれはなく、台風もなく、地震もなく、大地さえもなく、風さえありません。あらゆるものが違っています。天国の衆生の振動力も違いません。なぜなら彼らは異なっていますから。彼らは異なる振動力を持っています。ですから、天国は異なっているのです。私たちの振動力が違えば、たとえここにおいても、私たちの生活は異なってきます。

もちろん地球上のわずかな人だけが修行しても、私たちは地球を天国に変えることはできません。けれども、全部の人が、または半分の人がこのような方法で修行すれば、地球の振動力が変わるでしょう。そして、他の半数の人々も何もしないうちに利益を得るでしょう。一つの家族で両親が共働きで、家族全員が両親のお給料の恩恵を受けるようなものです。子どもは働く必要はありません。成人になってから、社会の義務として、働きたいときに働くことができます。生活のためではありません。もちろん、お金を稼

げは稼ぐほど、家族の生活は良くなります。

同様に天国の生活の方法を修行する人が多ければ、私たちの地球はもっと高められるでしょう。そのとき、ここにある私たちの家は安全になります。そうでなければ、安全とは言えません。振動力のきめがまだ非常に粗いと、ある日崩壊し、爆発するに違いありません。私たちは細かいものであればあるほど、目に見えないものほど、より永久の存在であることを知っています。同様に私たちの地球は粗雑すぎて重すぎるので、自ら壊滅することは免れません。おそらく、私たちが造った原子爆弾や環境破壊や地球の大きな保護層がまばらになることで、地球は破壊されてしまうでしょう。

いつか私たちは自らが使用した多量の化学薬品により、土壌や水源を毒してしまいました。ですからきっと地球は存続することはできないでしょう。超能力者やノストラダムスのような予言者のように、この世界が滅亡するなどと言う必要はありません。私たちは自分で予知できます。私たちが周囲の環境を見回して、私たちがどのように地球に対応しているのか、戦争がいかに世界の隅々まで破壊しているのかを、今再び見れば、私たちは自ら予知することができるのです。

## 赤鬼と青鬼の話

これはある山に住んでいる二人の鬼の話です。実のところ彼らは邪鬼ではなく、一種の精霊で、半神半人が妖怪のような、恐らく半分天使で半分鬼のようなものです。彼らは二人で住んでいました。一人は青でもう一人は赤。まるで青と赤の信号のようです。青は平和、進行で、赤は戦争、停止、障害を表しています。彼らはずっと幸せに暮らしていました。(マスター笑う) 今までずっと何の問題も不安も欲望もなく、山で一緒に暮らしていました。何百年もの長い間暮らしていました。何もすることがないときは、山の頂上に座り下界を、人間界を見下ろすこともありました。すべての所業や人間たちがただあちこち歩き回っている様子などを見ました。そして、世界がいつも変化しているのを見ました。すると青鬼に言いました。「見ろよ。俺たちはもう何百年もここに住んでいるけど、全然暮らしは変わってないな。毎日同じだ。だのに下界は、人間たちの世界は毎日変化している。どうしてなんだ」。すると赤鬼は言いました。「おお、そうさ。そのとおりさ。すごく興味があるよ。人間たちの暮らしはすごく面白そうだ」。そして青鬼は言いました。「なぜなんだ。何で人間たちの暮らしはいつも変化しているのだ

ろう」

すると赤鬼は少し考えてから言いました。「うーん。それは人間たちがいつも争っているからに違いない。人間たちは大きく立派な建物を建てるけど、次の日には戦争で壊しているのさ。そして人間たちはまた建てて、戦争が起こって、また壊してしまうのさ。だから人間の世界はいつも動いているのさ。それで人間の世界はいつも変化しているのさ。さあ、今、この俺たちの世界が平和すぎて退屈すぎるなら、戦いを始めたほうがいいんじゃないか」。これが赤鬼の考えです。

すると青鬼は言いました。「ダメだよ！ 戦いは嫌だ。俺たちはいい友達じゃないか。百年来の友達じゃないか。どうして戦えるんだよ」

けれども赤鬼は言いました。「戦わないと俺たちは何も変わらないんだ。俺たちの生活はこのままだろう。うんざりするよ。何の進歩もないんだ。さあ、戦おう！」。すると青鬼は言いました。「ダメ、ダメ！ できないよ。俺たちは友達だろ」

けれども赤鬼は言い張りしました。「今日からお前は敵だ。いいな」赤鬼はこのように宣戦布告し、そして去って行きました。赤鬼はもはや青鬼と一緒に暮らしませんでした。

山の向こう側に行き、一人で座り込んで戦争開始に備えています。青鬼は山の片隅に残り、とても孤独で惨めでした。赤鬼のことを考え、とても悲しんでいました。

みなさんは精霊のような鬼を知っていますね。彼らは超能力を持っていて、離れた場所に飛ぶことができ、物を作り出すことができ、とても遠くが見え、遠くの音が聞こえるのです。そしてどこまでも伸びる長い鼻も持っています。ある日、青鬼は座り込んで、とても退屈でした。彼は突然、下の人間界で何か光って、ずっと輝いていることに気づきました。彼は好奇心をそそられ、鼻を伸ばしてみました。(聴衆笑う)「長くなれ、長くなれ、長くなれ」と言うと、鼻は長く、長く、長く伸びて、下界で輝き、光っているとところに届きました。

輝いて光っていたのは、あるお城の王女様の衣装でした。召使いが王女様の衣装を外に干していたのです。衣装には金箔が施してあり、ダイヤモンド、ルビーなどの宝石も散りばめられていました。それが太陽の下できらきら輝き、光っていたのです。さて、召使いは「王女様の衣装は本当にきれい。でも少し多すぎるわ。物干し竿が足りない。どうしましょう」と言っていました。



そのときちようど青鬼の鼻が伸びてきました。(聴衆笑う) すると召使いは「ああ、こんな長い竹竿があるわ。これだったら衣装を掛けるのに十分だわ」と思いつきました。それで召使いはその青い竿に王女様の衣装を掛け、楽しそうに外へ出かけていきました。チャパティを食べに行つたのです。

さて、青鬼は突然鼻がとても重く感じました。彼はとても恐ろしく、すぐに鼻を元の長さに縮めました。すると、きらきら輝いている衣装がたくさん彼の足元に落ちていました。そして、彼は思いました。「おお、今日は本当に運がいい日だ」。それを着てみると、とてもきれいだったので、得意気に一人で歩き回りました。

このときちようど赤鬼がやって来ました。彼は進歩したために戦いを開始したかったので。でも青鬼は「見ろよ！俺はきれいな新しい衣装を持ってるんだ。お前に何着かあげるよ。半分取つておいたのさ」と言いました。すると赤鬼は軽蔑して言いました。「いいかい。俺はそんなおかしなものを着ないよ。気違いが着るものさ。お前のように」戦いを始めたかったので、口からでまかせを言い始めました。けれども青鬼はいつも青そのもので、とても冷静でけんかを買いませぬ。「いいさ、いいさ、いいじゃないか。お

まえが着なくても大丈夫さ。そこに置いておけばそれでいいさ」と言いました。それで赤鬼はどうしたらいいかわからなくて家に帰りました。

けれども実際は青鬼にとても嫉妬し、何枚か着物を手に入れようと試みました。それで赤鬼も鼻をお城まで長く伸ばして衣装が掛けられるのを待っていました。けれどもちようどそのとき、侍たちが刀の稽古をしていました。その長い物が伸びてきたのを見て、お互いに「何だ。こりゃ」と聞きました。その中の一人は言いました。「おお、拙者をやっつけるための敵の新兵器に違いない。先に成敗してくれるわ」

「おお、心得た」そして刀で「スパッ！」（マスターが斬る音をまねる）。すると突然、赤鬼は激痛を覚え、急いで鼻を元の長さに縮めました。血が流れ出ているのを見ると泣きだしました。とても悲しそうに泣きました。

青鬼は赤鬼が泣いているのを聞いてやってきました。「どうしたんだ。何があったんだ」と言いました。赤鬼はどぎまぎして、怒って、本当のことは言えませんでした。「消え失せろ！ ほっといてくれ」と言いました。青鬼は「違うよ。俺は邪魔しに来たんじゃなくて、助けに来たんだけだ。血が出ているよ。ほら、俺はこの薬を持っているから、傷口

につけてあげよう。すぐに出血が止まって、元のようなきれいな鼻になるよ。でないと大きな傷痕になって、穴になったらすごく醜くなってしまふよ。俺はただ、おまえの世話をしたいだけなんだよ」と言いました。

結局赤鬼は感激して「わかった。わかった」と言いました。そして思い切り泣いて、「ああ、すごく痛い。早く、早く手当てしてくれないか。早く治してほしいんだ」と言いました。それから、二人は仲直りをして、また平和を取り戻しました。赤鬼はもう戦いはこりごりでした。戦いは良くないとわかりました。平和について学んだのです。それから二人は毎日すてきな着物を着て一緒にお茶を飲み、そしてはや、戦争はありませんでした。

### 開悟こそ本性を目覚めさせる

けれども、私たちの世界はまだこの愛について学び終えていません。それは本当に悲しいことです。ですから今、新聞紙上で、あちこちの国の政府を批判したり、独裁者を責めたり、軍隊に何をすべきか指示したりしないことです。今までずっと役に立たな

ったのですから。そのようなことはやらないでください。そのようなことをする前に、私たちは手遅れにならないうちに自分たちの道を見つけ出さなければなりません。「悟りを開く」ことが解決の唯一の方法です。そして悟りを開くことは、私たちに非常に欠乏しているプラスの情報をあらためて取り戻すことなのです。それはすでにあるのです。ただ私たちはそれを使わないだけです。

私たちがこの世界に生まれると、誰でも自分の生理的な本能の需要の配慮をしなければなりません。寒さ、飢餓、環境汚染のようなことです。ですから生まれてから、あるいは幼いころから備わっている反応は、すべてこのような物質的な快適さ、肉体的需要からなのです。これこそ、私たちがプラスの情報を覚えておく機会がなかったことの原因です。プラスの情報を得られてこそ、私たちが生存でき、智慧を得て、この世界の義務をより完璧に果たせるのです。

私たちがどうして忘れてしまったかわかりますか。私たちがなぜそれを持っていないかわかりますか。私たちにあるのに、なぜ使わないのかわかりますか。それはまさに私たちが生まれてすぐ、生理的需要の脅威にさらされるからです。それは私たちが耐えら

れる限度を超えているからです。そして私たちが行なう反応はすべて自分自身の体を保護するためです。食べたり、飲んだり、着たり、家を建てたり、さらに毛布を買ったり、あちこち移動するために大きな車を買ったり、車が通行できるように大きな道を作ったりします。このような生まれてすぐの肉体的な需要が、私たちの時間のすべてを占有するので、それで物質的な需要が私たちをさえぎり、だんだんこのような習慣になつてしまつたのです。それこそ、なぜ私たちがさらに遠くへ行つてしまい、生まれつきの本能のプラスの面をますます忘れたかということです。そしてそれは唯一の秘密なのです。理になつていきますか。（聴衆「はい」と答える）

ですから、現在私は何が本当の開悟なのかを簡潔に論理的に説明して、思い出させたのです。悟りを開くことは神秘ではありません。悟りを開くことは私たちの本性のプラス面です。私たちの内には二つのパワーがあります。今まで私たちはマイナスのパワーだけを使っているのです、このマイナスの世界の物質的要求が私たちの生存のために、私たちをマイナスの面に傾かせたのです。そして、私たちがそうすればするほど、もう一方の面を忘れてしまいます。そういうことです。でもそれは私たちのすべきことではあ

りません。

プラスのパワーがないと、マイナスの面まで、うまく対処することができません。運転手がいないからです。いくらきちんと車の手入れをしても、運転手がいなければ動かないでしょうし、車が動いても、でたために走って人をひいてしまうかもしれません。ですから、今、その運転手を目覚めさせるべきです。彼を起こし、しっかりと運転させなければなりません。これが悟りを開くことです。

### 〈講演後の質疑応答〉

※Mはマスターの答え

観音法門はすべての生きとし生けるものに利益をもたらす

Q マスター、私が友達を招いて昼食や夕食をもてなすとき、彼らが菜食主義者でなくても、私が菜食主義者であるなら、その人たちに菜食の料理でもてなすべきなのでしょうか。

**M** いいえ、あなたはお客さんが食べたい料理でもてなさない。私たちのライフスタイルを他の人々に押しつけてはいけません。彼らの自由を妨げてはいけません。それは彼らの選択なのです。わかりますね。あなたが尋ねてみて、彼らがたまたま菜食にしてみたと言うのならいいでしょう。彼らが同意して、喜んでいるのだったら構いません。一度彼らに尋ねてみなさい。そしてその人たちがそれで満足しているかどうかというのを、ちゃんと確認しなさい。彼らが満足していないのなら、あなたはそうしてはいけません。

**Q** マスター、どうかアドバイスしてください。神の王国の第一界にどうやって近づいたらいいのかということ。そして、私は最初に何を用意しなければならぬのかを。

**M** 第一界だけでいいのですか。あなたの目標は非常に低いですね。(聴衆笑う) どうして私と一緒に少なくとも第五界まで行こうとしないのですか。そこは誰も行かないので、ほとんど空っぽで、たくさんの部屋があります。シンガポールは過密ですから、私たちはちよつと気分転換にそこへ行きましょう。たくさんの宮殿があつて、信号もなけ

れば交通渋滞もありません。(マスター笑う)

第一界というのはあなたの目標には値しません。そこにはただ阿修羅の衆生だけが住んでいるのです。小さな天国と地獄があるだけなのです。ただ単に超能力があるだけです。少しのヒーリングの能力や少しの透視力というような。それがすべてです。そしてあなたはそこに何百年、または何千年、何万年も住めるかもしれませんが、また再び戻って来なければなりません。そしてあなたがどこへ生まれるのか、あなたが何になるのかということを知っているのですか。それなのに、どうして第一界に行くのですか。第一界というのはこの世の中と同じくらい安全ではありません。ええ、ですからそこに行くことを目標にはいけません。それはただ単に最初のステップAにすぎませんが、すべての物事の、単なるABCにしかすぎないのです。私たちはそこから始めますが、しかしながらそこに止まってはいけないのです。

Q マスター、第一の戒は「殺生しない」ですが、もし蛇が私の家に入ってきたら、家族を守るために殺すべきなのでしょうか。



M シンガポールに蛇はいないのでから、どうか私を困らせないでください。(聴衆笑う。拍手) みなさんは人が住む土地さえ十分に持っていないのです。このかわいそうな蛇はどこに棲めるのでしょうか。いずれにしても、殺す必要はありません。蛇に布の袋を用意してあげたら、蛇は喜んでその中に入っていく、とぐるを巻くことでしょう。その後であなたは蛇をどこか外に、藪の中とかそういうところに出してあげます。そうすれば蛇はとても喜びます。幸せでいられるのです。でも、あなたが殺さなければならぬのなら、もちろんできます。当然あなたは代価を支払わなければなりません。この世の中ではあなたが望むことはどんなことでもすることができます。とはいえあなたは代価を支払わなければなりません。金銭的な意味ではありません。カルマです。

あなたが蛇を殺せば、後であなたはたぶんどこかに傷を負ったり、かなりひどい頭痛がしたり、腕が突然マヒしてしまったり、そのようなことが起こります。あなたは代価を支払わなければならないのです。それは一時的なものかもしれませんが、長期間かもしれないかもしれません。それはあなたがどのくらい重大なことをしてしまったかによります。あなたがこの創造主の神から物質的な宝物をどれくらい奪い取ったかによるのです。奪い取

ったものが多ければ多いほど、あなたは代価を支払わなければなりません。あなたが取ったものが少なければ少ないほど、支払いは少ないのです。それで私は菜食をすすめているのです。というのはそれがより代償が少ないからです。

野菜もまたやはり生命がありますが、しかし野菜は食べてもそれほど大きなカルマを造りませんし、それほど大きな負担にはなりません。野菜を食べても代価を支払わなくてもいいというわけではありません。それは市価のことではありません。私が言っている意味は創造主に対する支払いのことです。創造主というのは全能の神の下にあるからです。もしあなたが創造主に支払うことができなかつたり、それを支払わなかつたりしたら、あなたは全能の神のもとには行くことができません。それが問題なのです。

**悟りを開いたマスターは悟りの鍵を持っている**

**Q** マスター、観音法門の印心について説明していただけますか。

**M** 印心というのは智慧を開く無形の儀式です。お花もいりませんし、お線香もいりません。ひれ伏す必要もありません。仏像もいりませんし、教会も何もありません。

ただあなたと、あなた自身のもととある肯定的なパワーだけあればいいのです。あなたがただそこに静かに座り、そして私はあなたの魂に、陽と陰を結合させ戻すためにどこに行くべきかを指示します。現在は生存のために、常に陰の方向に偏っているので、隔てられています。ただあなたはそこに静かに座って準備し、戻りたいと願っていれば、私はただあなたを引き戻すのです。といっても何の行動も伴いません。抽象的で無形のパワーによるすばらしい出来事なのです。何一つ行なうことはありません。行為なき行為なのです。

私がそこにいる必要さえないのです。私はあなたの名前、住所、年令、職業も知る必要がありません。私はあなたを知らなくてもいいのです。私が言っているのは肉体的な意味でということですよ。内面において知っているからです。ですから印心というのはただあなたがそこに座っているだけで、肯定的な方向に戻らせるのです。バランスを失ってしまったように、あなたはいつも陰の方向に偏っているのです。ですから戻ってそしてバランスを取り戻すのです。そういうことです。そしてあなたは光を見、旋律を聴いて天国からの教えを受け取り、あなたは悟りを開いたことを知ります。

それは、「シングリッシュ」と呼ばれるシンガポール独特の英語でもありませんし、また中国語でもありません。それは言葉なき言葉なのです。静寂の音なのです。これはあなたをより賢くし、ますます、あなた自身が偉大であり、あなたが家の主であることを気づかせてくれるのです。ええ、それが印心なのです。どんな言葉でも表現することはできません。というのはそのとき、私はあなたに話したりしないからです。私はその場に居ることさえありません。というの、あなたはそのとき宇宙と共にいるからです。わかりますか。これが自分自身を知る方法なのです。今それを理解しようとするのは難しいことかもしれません。もし理解できないのであれば、印心を受けてご覧下さい。そうすればわかりますよ。

**Q** マスター、悟りを開いた後でも私たちは病気になるのでしょうか。

**M** もちろんです。ほら、私もインフルエンザにかかっています。私に風邪をうつしてくれた友達に感謝します。私は長時間働きすぎて、体が弱くなりました。というのはたくさんの弟子がいますし、世界中からたくさん助けを求められるからなのです。ですか

ら私の体もみなさんの体と同じようです。みなさんの体が他の人と同じようであるとも言えるでしょう。あなたの抵抗力が弱かったり、働きすぎたりすれば、病気になると思います。車を使いすぎたら、故障します。それは同じことなのです。ベントであろうとキヤデラックであろうと故障するのです。ときどき病気をするのは当たり前のことなのです。

どうして私たちが病気を避けなくてはならないのでしょうか。そんなに大したことではありません。もしここ数日、病気でなければ、私には二日間ベッドの中で過ごすという楽しみはなかったのです。これはボーナスです。悪いことではありません。私が病気の間、すべての人々が私に愛を注いでくれました。彼らは心配してくれ、気づかせてくれました。それもうれしいことです。病気になることは何の問題でもありません。釈迦も病気になるしました。そうでしょう。ですから病気というのは大したことではないのです。

Q マスター、どうしてこの世の中にはたくさん宗教があるのですか。

M 実際には一つしかありません。違う名前が付いているだけなのです。もしあなたが私を信じないなら、時間をかけてすべての宗教を勉強してごらんなさい。すべてを比較

してごらん下さい。そうすれば、あなたは私の言っている意味がわかります。ただ人々は他の宗教について、どれが良くて、すばらしいかを学んでいないだけなのです。

もしあなたがある宗教を知っているのなら、それに専念して下さい。それで十分です。というのは、他の宗教と同じだからです。良いことをしなさい、殺生してはいけない、盗みをしてはいけないと人々に教え、そして神や仏を崇拜しなさいと教えているからです。悪いことをしなさいと人々に教えている宗教は一つもありません。ここに永久にとどまって、食べ、飲み、遊び、楽しみ、そしてここで死になさい、などと教えてはいません。すべての宗教は「生きているときは良い人であり、そしてできるかぎり天国を見つけないさい」と教えているのです。それ以外のことはすべてただこまごまとした、繁雑で煩わしい事柄にすぎないのです。(聴衆拍手)

Q マスター、あなたは家に戻る道を知っているということを話されましたが、この家というのはどこにあるのですか。天国というのは、そして地獄というのはどこにあるのですか。

**M** ここです。すべてはみなここにあるのです。しかし、あなたが知らなくても、すべてはみなどこにでもあるのです。至る所が地獄であり、至る所が天国です。あなたがそのことを知っていれば、そこは天国になります。あなたが知らなかったら、そこは地獄になります。そういうことです。簡単なことです。(聴衆拍手)

**Q** マスター、私が観音法門を修行すれば、自分の死んだ身内の人たちを見つけ、彼らと通じ合えるのでしょうか。

**M** 亡くなった身内の人たちとですか。ええ、もちろんです。しかし私はたぶんあなたがそこに行きたがらないのではと心配です。あなたの身内のある人々は、接触するのが非常に困難なところにいるのです。もしあなたがそのような場所に行きたいと望むのなら、あなたはマスターが必要です。そうしない限り危険にさらされるからです。ということで亡くなった身内に会うということは、常に良いわけではありません。

あなたが観音法門を修行すれば、亡くなったあなたの身内の何人かは、今苦しんでいるどんなものからも即座に解放されます。もし彼らがすでに天国にいるとすれば、彼ら

はより高い天国に行くでしょう。彼らが軽い苦しみの罰を受けているとしても、刑罰はとても軽くすみ、すぐに行くことができます。もしそれが非常に重い罰なら、そのとき私たちは談判しなければなりません。そのときマスターは談判しなければなりません。あるいはその人の代わりに苦しまなければならないのです。しかしそれもそんなに長くかかりません。

たとえばもしその人たちが、何千年間も苦しまなければならないとしても、マスターは何千年も苦しまなくてもすみます。たぶん数時間、数秒、あるいは数分、もう少し延びることもあります。大した病気でないというようなものです。ですから、亡くなつた身内に会うということは、常に良いこととは限りません。生きている彼らに会う方がいいのです。彼らが死ぬ前に、彼らを愛し、奉仕し、励ましたほうがいいのです。(聴衆拍手) しかし、あなたは彼らに会うことはできません。私たち修行者の多くが、亡くなつた身内や友人が、彼らのおかげで解脱できたといつて、彼らのところに感謝しに来るのを見ると言います。それは大して重大なことではありません。大したことではありません。



Q マスター、五戒のうちの一つは邪淫をしないということですが、独身者はどのようにして守ればいいのですか。

M 私が言っているのは、みなさんがお互いに誠実でなければならぬという意味です。しかし他のいくつかの宗教団体のように、その伝統により、たくさんの妻を持っていてもいいのです。もし、印心前にすでに何人かの妻を持っていたとしても、離婚してたった一人にしなければならぬという意味ではありません。しかし一般的に、私たちはあまりたくさんの人と関係を持たないようにと言っています。というのは一人の妻だけであなたは十分苦しんでいると思うのですが。あら、ごめんなさい。(聴衆笑う) 失礼しました。どうか私を恨まないでくださいね。お願い。私はこう言いたいのです。不倫問題の苦しみはその妻や夫にとっては、非常に堪え難く重くのしかかるものなのです。しかもあなたは他の人々に辛い思いをさせたくないと思うでしょうし、あなたの親愛なる友達、あなたの子どもの母親や父親についてはなおさらです。

そういうことであなたがすでに結婚しているのなら、別の恋愛関係というものを慎む

ようにと言っているのです。あなたがすでに印心前からそういう関係を持っているのなら、そのまま続けることです。そして互いに他の人に知られないようにするほうがいいのです。苦しみは最低限に押さえなさい。苦しみは少なければ少ないほどよいのです。というのはそれもまたあなたに影響を与えることになるからです。あなたは良心の呵責と罪の意識に悩まなければならなくなるのです。そのような状態で、どうして落ちついて座禅できるでしょう。座禅をするとき、あなたは神について考えたいと思うのです。でもあなたが考えることはみな二番目や三番目の妻のことです。そうでしょう。昨夜帰りが遅く、彼女がどんなふうにあなを殴りたいと思っていたかなどです。そのようなことです。またあなたがもう一人の女性にすてきな服を買ってあげたとかそのようなことなどです。まあ、厄介なことが多いこと。それは人を傷つけるのです。そういうことなのです。それが邪淫と呼ばれるのです。

まだ結婚をしていない人々の場合は、この世の中ですから、私は人々にダメ、ダメ、そうしてはダメ、などと言うことはできません。お互いに誠実に努力することです。そうでしょう。心にとっても良いことですし、あなたの道徳的にも良いことですし、お互

いの間の信頼関係にも良いことですし、特にあなた自身の健康にとって良いことです。みなさんは私よりも新聞をお読みになっていることと思います。現在みなさんが知っているように、とても大きな文字で載っていますね。もつと言わなくてはいけませんか。次から次へとたくさんの人がエイズで亡くなっています。ですから自分自身のことは自分で気をつけましょう。

Q マスター、修行のために、静かな環境は必要ですか。

M はい、修行の初めの頃は必要ですが、後になると必要ありません。でも、後で必要なこともあります。それで私たちはときどき、一週間や二週間、四日間、あるいは三日間というように集まって座禅会を催します。毎年違う時期に行ない、人々は平和で静かで、座禅するためだけの環境を持つ機会を得ることができます。その一方でみなさんは社会にも出ていかなければなりません。私たちの兄弟姉妹のもとへ、光と加護をもたらすために。永久に山に隠れて自分本位の仏陀になってはいけません。(聴衆笑う)

Q マスター、夢の中で見た未来の出来事は本当に起こるのでしょうか。私たちは未来

を変えることができますか。

M ええ、できることもあります。私たちが十分に強ければ。みなさんが十分に強くなりたいと望むのなら、座禅をして、仏陀のパワーを引き出せば、どんなことでも変えることができます。そうしないと未来がみなさんを変えてしまうことになります。

### 情欲を最小限にする方法

Q マスター、どのようにして私は自分の強い情欲をコントロールしたらよいのかを、どうぞアドバイスしてください。私には神の恩恵が必要なのです。

M この方面に関しては私には経験がありませんが、あなたは知っていますか。これにはたくさんの治療方法があります。ほとんどの人があまりにも肉を食べすぎたり、ワインを飲みすぎたり、そういうときに、そのようなものが情欲を刺激するのです。私たちはすでに、いわゆる動物的な性質が体内にあるので、まるで動物のようなさまざまな表現をしてしまうのです。これは私たちにはコントロールできないものなのです。

というのは、私たちはこの世にいる間に、動物の性質、またその一部をこの肉体によ

って受け継いでいるのです。ですから、今もし私たちがそれをコントロールしたければ、酒類や興奮させるような食物などは控えなければなりません。情欲を増強させる食物もあります。ある人はそれを専門に探しています。ある人々はそういうものを好みます。ですから、昔の国王はみなそのような食べ物を喜んで食べていました。というのは、彼らはとてもたくさんさんの妻を持っていたからです。

情欲を抑制する食物はたくさんあります。まず第一段階は菜食です。完全菜食です。卵も食べません。魚も食べません。そしてアルコール類をとらず、興奮させるようなものもとりません。私たち一般の人々はとても高い代償を払っています。買ってきたほとんどが毒物なのです。そして私はいつも不思議に思っています。どうして人々は自分自身を毒するようなものに対して多くのお金を浪費しているのでしょうか。しかしいづれにしてもそれは彼らの個人的な選択であり、自由な意志なのです。

ですから、あなたが私にどのように、あなたの情欲を最小限にするかと尋ねるのなら、すべき多くの方法があります。まず、あなたは菜食に切り替えることです。そして質素なものを食べ、油をとりすぎたり、刺激のあるスパイスなどをとらないことです。そし

て冷たい水をたくさん飲むことです。シャンペンには飲まないこと。シャンペンはとても良くないのです。それは結婚式の日だけに取っておきましょう。知っていますね。私は知りません。そのように聞いたことがあるだけです。わかりませんが彼らはそのように言いました。

とはいえ一番簡単な方法は、忙しくしているということです。何か有意義なことをするとということ。他人を助けたりとか、そうすればあなたは自分自身の問題を忘れられます。私にはあなたがこの衝動に対して、どうして考えをめぐらす時間があるのかわかりません。もしあなたが一晚中ずっと起きていて、私のように読書しているなら、私 はあなたの性的衝動はひとりでどこかへ行ってしまうと思います。(聴衆笑う。拍手)

というのは、情欲というのは仕事を恐がっているからです。

何かをしなさい。この世の中にはとてもたくさんさんの苦しみがあります。あなたの空いている時間に、ボランティアの仕事をしなさい。あなたの仲間である人々の苦しみを感じ取りなさい。献身と喜び、すべての人々のために奉仕をする純粋な喜びに没頭しなさい。人々に高貴な幸福をもたらしなさい。そうすることがあなた自身にも、高貴な幸福

をもたらずのです。

あなたはたいへん悪い、たぶんポルノの雑誌のようなものを読みすぎているのです。

もうこれ以上読んではいけません。神聖な書物に切り替えなさい。聖書を読み、仏典を読み、コーランを読み、聖なる生活において手にするどんな書物も読みなさい。ヒンズー教の本でも構いません。あなたが読みたいものは何でも構いません。ヨガの練習のもの、聖人の教えに関するものをたくさん読みなさい。

Q マスター、観音法門が私を輪廻転生から救い出してくれるなら、私の過去世におけるカルマはどうなるのかということを教えてください。

M ええ、私がそれを焼き払ってしまいます。私はそれをごみ箱のなかに投げ入れて火をつけて、そして終わりです。いいですか。あなたはカルマがどこから来るのかわかりますか。それはもちろんあなたの行動とその反動から生じるのです。どこからやって来るのでしょうか。それはみなさんの潜在意識の中に貯えられているのです。そこにボタンがあつて、私はただそれを押すだけです。そうすればすべて消えてしまうのです。まる

であなたのコンピュータやテープレコーダーのように、あなたは操作できます。再生することもできますし、録音することもできます。そして全部消去することもできます。ただどうやって使うかがわかればいいのです。

Q 普通、悟りを聞くにはどのくらいの時間がかかりますか。そしてそれは何と関係があるのか教えていただけますか。

M ええ、たくさんのものと関係があります。まず、最初に正確な座禅法と関わりがあります。そしてあなたの先生にも関わりがあります。その人があなたを開悟させられるかどうかに関わります。長いか短いかいうことは話すには及びません。あなたが良い先生を得たなら、あなたはすぐに悟りを開くことができます。もし良い先生を得られなかったなら、どれくらい長くかかるのか、とても長くかかるのか、何世もかかるのかは私にはわかりません。そして開悟とはみなさんの真心の深さに関わっています。みなさんが望んでいるか、望んでいないかということです。もし望んでいるなら、即座に悟りを開くでしょう。みなさんが望んでいないなら、みなさんがどれほどそう装ったとこ



ろで、そこにどれほど長く座っていたところで、あなたのお尻の肉が落ちてしまうまで座っていたところで、（聴衆笑う）何も得られません。

### 印心とは内在の伝法である

Q マスター、シンガポールには私たち初心者が観音法門を修行するのを導いてくださる人はいるのでしょうか。

M もちろんです。何人かお坊さんか尼さんをみなさんのためにここに残していきましよう。実際は観音使者と呼ばれる人たちです。彼らはお坊さんのように見えません。彼らは私のように見えます。彼らはみなさんのようにごく普通の人たちです。私はみなさんのために長く修行をしていて、修行の初期についてよく知っている人を何人か残しましょう。またみなさんはいつでも私に手紙を書いて送ることができるのです。現在はフックスもありますし、心配はいりません。そして内面のつながりはずっとあります。一〇〇%完璧で、決して壊れたりしません。これが最良の指導なのです。

そのうちに、みなさんは誰にも依存しなくなります。というのは、あなたは内面から

答えを得て、すばやくそれがわかるようになるからです。そして、先生はあなたがどこにいるかわかりますし、あなたが何をしているのかわかりますし、どのような危険にさらされているのか、どんな練習が必要のかもわかります。またあなたが必要としているのがどのような修行なのかということもわかります。内面からわかるのです。内面の教えに従うのです。言葉で教えるではありません。

言葉はただ単に普通の一般的なものです。私たちが互いに話したりおもしろおかしくしたりするためのものなのです。みなさんの修行を励ましたりするために、故事を話すこともあります。言語による指導というのは決して完璧な教えではありません。完璧な教えというのは、ただみなさんが内面からのみ見つけることができます。それはマスターと弟子の間にそれぞれあるのです。内面にそれぞれ違った形であるのです。たとえ、みなさんが互いに隣どうしに座っていたとしても、みなさんはその隣の人がどのレベルにいるのかとか、マスターが何をその人の内面に伝えたかということを知る由もありません。みな違うのです。いいですか。それはそれぞれのレベルによって違うのです。

Q マスター、私たちは一方で神やキリストに祈りを捧げ、また一方ではお寺で観音菩

薩を拝めますか。

M どうしてできないのですか。多ければ多いほど良いのではないかと思えます。(マスター笑う) それは私たちの考えるようなことです。あなたは幸せであるかぎり、あなたをしたいことをするのはです。それがあなたに悟りを開かせるものなら、もつといいでしょう。そうでなければ、あなたは観音法門を修めるべきです。本当の崇拜というものは、あなたが神やキリストや観音菩薩と顔を向かい合わせ、まさしく足元で崇拜したときに生まれるのです。そこであなたは木製の仏像を拜んでいるのは、非常に大きな違いがあるということを感じてください。

あなたが木製の仏像を拜んでも、その仏像はあなたに何も言いません。仏像はあなたの質問に答えることができないのです。ところが、あなたが座禅の間や寝ているときに天国に行つて、内面で本当の仏陀を拜んでいるとき、そのときこそあなたは本当に崇拜をし、完全に違いを感じるでしょう。あなたは自分がこの世の中に存在していないというように感じるでしょう。そして、そのときあなたは自分が仏陀であると感じるでしょう。それが本当の崇拜です。あなたは好きな聖人を崇拜していいのです。まず確実に彼

らに会うことです。(聴衆拍手)

Q マスター、座禅すると魔に取りつかれることがあるのですか。

M それは時と場合によって違います。あなたに指導してくれる先生がいなくて、でたために座禅していたり、間違った方法を選んだり、きちんと座禅していたとしても戒律を破って、食べてはいけない物を食べたり、他人を傷つけていたりすれば反作用があり、あなたの身に降りかかるということになります。そしてそれが、いわゆる魔があなたに害を与え、困らせに来るということです。これはただ単にすべての自然界における否定的な側面にすぎません。

私たちが何かに頼りたくないときや、自分が安定していないとき、またこのような状態が続くと、魔は私たちを否定的な方面へと引き戻してしまいます。そしてこのときは前回より、さらにきつく、さらに強く、縛りつけます。というのは前回、あなたに逃げられてしまったので、今回はさらに強く縛りつけ、もがいても簡単に逃げられないようにするので。

ですから、そういうわけで、私は弟子と呼ばれる人をたくさん取りたいとは思いません。そして有名になって大きな信徒の団を持ちたいとも思いません。あなたは戒律を守らなければなりません。菜食をしなければなりません。わかりますか。座禅の間、自分身を浄化していかなければなりません。そうすればあなたは副作用を受けませんし、面倒なこともありません。

そして私は何であれあなたに起こることに責任を持っています。あなたが戒律を守り、指示に従って修行するならば、あなたには何一つ起こらないのです。もしあなたがそうしないならば、たとえ神でもあなたを助けることはできません。

Q マスター、私は罪人です。悟りを開くことができますか。

M 誰が罪人でないというのでしょうか。罪人でない人は手を挙げてください。(聴衆笑う。拍手) それでは罪人は手を挙げてください。私ももちろん含まれます。心配しないでください。罪のある人は一人もいません。私たちはただ単に無明なだけです。私たちは聖人としての生活方法を教えられてこなかったのです。ただこの世の中を生き抜く方

法を教えられてきたのです。どのように食べ、どのように装い、どのようにこの肉体の面倒をみるかというようなことをです。私たちが今までに教えられてきたことはそれだけなのです。すべての教育もまたそういう目的で教え導いているのです。ですから、みなさんは良い仕事を手に入れられましたね。そうでしょう。私たちはずつと智慧のある法門、聖なる生き方については教えられてこなかったのです。ですから今がそのときなのです。何の問題もありません。私たちが何をするのか知らなかったのです。どうすれば罪人になれるのでしょうか。子どもが教育を受けずに間違いを犯したとして、どうしてその子が非難されるのでしょうか。神を非難しなさい。ええ、神があなたにすぐに先生を送り込まなかったということです。神の過ちなのです。（聴衆笑う。拍手）

Q マスター、私は人々に私の一生を捧げたいと思っています。ご意見を聞かせてくださいますか。

M そうです。とても良いことです。もし人があなたを受け入れてくれるのなら。（聴衆笑う）私たちは生きていく間に奉仕することができます。そうですね。どんな人もみ

んないくらか貢献しています。社会のために、家族のために働いているのですから。これも一種の貢献と言えます。ある人々はもっと貢献しています。彼らはもっと多くの団体に対して働きかけ、もっと多くの人々に対しボランティアで奉仕しています。多くの報酬は望んでいません。これがたぶんあなたが言っている意味だと思います。あなたがやりたいと思うことは何でもおやりなさい。あなたの能力に合っていることをしなさい。この世の中にはたくさんの仕事があります。そしてそれをする人はまだ十分ではありません。せん。

### 天国の品性をとり戻す

Q マスター、私たちはこの地球上で生活を楽しんでいるのに、どうして一生懸命努力して天国に行かなければならないのですか。

M まあ、それならどうぞしないでください。誰が一生懸命努力しなさいと言いましたか。(マスター笑う) 行きたいと思う人だけ行くべきです。もしあなたがこの世の中でとても楽しんでいるなら、それはあなたにとって良いことです。幸運なことです。あな

たがずっと楽しめればと思います。(聴衆笑う) というのは、誰一人として明日何が起こるか分からないからです。それが問題なのです。

私たちがいつもこの世の中を楽しんでいられるなら、あなたが決して苦しまず、この世の中にいられるということを保証でき、判を押せるのなら、そしてあなたが人生を次の人生においても、また次の人生においても、ずっと楽しみ続けられることを、私が保証でき判を押せるとするなら、どうぞ天国のことは考えないでください。しかし、誰一人としてあなたに保証できる人はいません。あなたも自分自身で気づいていることと思います。すべての皇帝、すべての栄光の階層、国王や女王、彼らは今どこにいるのでしょうか。彼らはあなたが楽しんでいられる以上に楽しんでいたいと思います。あなたが今まで夢に見た以上に彼らは楽しんでいたので、彼らは今どこにいるのでしょうか。彼らは今何をしているのでしょうか。彼らの楽しみはどこに行ってしまったのでしょうか。あなたは答えがわかりますね。

Q マスター、あなたは私たちがみな神の子であり、ただ、一人の神が存在すると言い



ました。もしそうであるなら、どうして私たちには皮膚の色の違いがあり、人種の違いがあるのですか。すべての人が平等ではありません。それはちょうど、あなたと私のように。

**M** 花を見てご覧なさい。あなたはその花がただ一色あればいいと思いませんか。ピンクだけあればそれでいいのですか。あなたが美しいと呼ぶものはそういうことですか。ピンクのみ一色、それでおしまい、ということですか。私たちにはたくさん色があり、だからこそおもしろいのです。わかりますか。あなたはその色が好きなのです。ですからあなたはその皮膚の色で生まれることを選んだのです。ところが今はあなたにはそのことが理解できません。悟りを開けばわかります。悟りを得なさい。とはいえ、あなたの言うこともまた正しいのです。あなたの質問は正しいとも言えます。というのは、高い次元においては区別がないからです。男女の区別、肌の色の区別もありません。ただ単に純粋な知覚があるだけなのです。純粋な智慧があるだけなのです。目に見える形はありません。

**Q** マスター、私たちはまだ憂慮し、まだお金を稼ぐために働かなくてはならないのに、

どうやって即座に悟りを開き、永遠に解脱をすることができのでしょうか。

**M** (マスターは司会者に向かって話しかける) あなたはそのことがわかっていますから、彼に話してあげなさい。

**司会者** 毎日二時間半の座禅をしなさい。

**M** 彼はまだ座禅のことがわからないようですね。彼をおどかさなくてください。悟りを開くことは、あなたが生まれて今まで起こったことの中で、最も驚くべきことなのです。あなたが毎日背負わなければならない負担を軽くしてくれるのです。あなたの人生における、あらゆる障害を取り除いてくれるのです。そして開悟のパワーはあなたが落ち込んでいたり、病気のときにあなたを支えてくれるでしょう。あなたが困難や危険に直面しているときはいつでも、あなたを加護してくれるでしょう。そして、あなたはいつでも母の愛の中に抱擁されているように感じるでしょう。ですから恐れることはありません。今あなたが抱えている心配や不安は、ただ単にあなたがまだ悟りを開いていないからです。正反対のことではありません。あなたがこの苦しみから逃れたいと思うのなら、悟りを開くことです。

Q マスター、この世の中では良い人々がどうしてこんなにも苦しまなければならないのですか。

M どうしてあなたにはその人たちが良い人だとわかるのですか。彼らを個人的に知っているのですか。あなたにはわからないこともあります。良い悪いというのはただ単に私たちの理解力のレベルによるのです。彼らの人生の記録、彼らの世々代々の記録というものは、とても長いものです。あるときは良く、あるときは悪いのです。あなたは決して十分にチェックすることはできません。発生したすべてのことには理由があるのです。ですから心配しないでください。

Q マスター、ある人々はどうして他の人々よりも、不幸せに生まれて来るのか説明をしていただけませんか。

M 因果の関係です。ある人々は良いことをしているからです。彼らは他の人々にたくさん慈善をしています。他の人々に多く布施しているのです。ですから、彼らは再び生

まれ変わったときにお金持ちになり、幸運をつかんでいるのです。そしてもし他の人々が苦しんでいる人や必要としている人に何も与えてなかったなら、その人たちは生まれ変わったときおそらくそれほど多くの幸運を手にしないうでしょう。

Q あなたは人間ですか。それとも天人ですか。（聴衆笑う）

M みなさんはどう思いますか。私は誰でしょう。私が人間だと思ふのなら、手を挙げてください。私が天人だと思ふのなら、手を挙げてください。誰も挙げませんね。そのとおりです。両方とも正しいと言えます。両方とも優秀です。いいでしょう。私たちは両方なのです。私たちは人間でもあり神でもあるのです。ただそれはほとんどの場合、ほとんどの人々が単に自分たちの人間としての面だけしか認識していないのです。彼らは単に肉体的な機能で自己認識していて、もともとの神の面については忘れてしまっているのです。それだけなのです。

あなたと私は同じです。私たちは天人であり同時にまた人間でもあるのです。そういうことです。あなたは満足しましたか。（聴衆拍手）しかしながら、あなたと私の間に

ある唯一の違いというのは、私は神の品性について認識しており、たぶんあなたはまだ気がついていないということです。または、あなたがその天人の本性のことについて確信が持っていないということです。それが唯一の違いなのです。

**Q** マスター、精神的なうつ状態にある人々が、座禅の修行をすることはできますか。

**M** もし彼らに私が今日お話ししたことを理解できるのなら、彼らが教理を理解することができるのなら、彼らがその理解力を持っているなら、修行できます。というのはときとして精神障害というのはただ単にうつの状態から生じるからであり、そして社会の圧力を多く受け取るからです。困難を避けようとする一つの形なのです。社会の負荷から逃げようとしているのです。それは正確には病気ではありません。ですから、実際は一時的なもので、彼らは再び立ち上がることができますし、当然、座禅をすれば早く回復できます。



## 天国からの完璧な衆生

タイにおける英語の講演

（一九九四年九月十一日）

私たちはみな天国から降りてきた偉大な衆生です。この世に生まれてきた人間はすべて偉大な天人で、最も勇敢なのです。もし、偉大でなかったり、勇敢でなかったならば、この世に降りてくるだけの勇気がないので、決して来られないし、あえて来ることもないでしょう。

ここに一人が何か人類のためになることをすれば、天人は喜び、その人を讃美し、非常に尊敬するのです。私たちがそうすればするほど、天国では尊敬されるのです。たとえ、私たちがこの世で人類の利益になることをして、問題が起きたり、人々から脅迫されたり、他の障害に悩まされることがあっても、それはほんの一次的なことです。実

際に宇宙は私たちが人類などにもたらす、善行や愛、そして喜びにあふれています。私たちに人類を助ける十分な準備や機会が与えられていながら、助けないとしたら、それは実に残念なことです。

ここに来る前に私たちは高い理想、最高の動機を持ち、善意と強い決意があり、しかもこの世の人々を助けたいと思っていました。そして、自分の靈性のレベルを高めようと思っていました。ところが、ここに来るとすぐに、ほとんどの人が忘れてしまったのです。それよりもむしろ、寝て、食べて、遊んで、自分にとって有利なことをするのが好むのです。そして、ときにはここに来る前の決意や、なぜここに来たのかも忘れてしまします。忘れてしまっても構いません。それもいいでしょう。それなら、私たちは天国に帰りたいと悲しむこともありません。天国はここよりずっといいところなのに。

しかし、もし座禪をすれば、私たちの魂は無意識に思い出します。それでこの制限された、不愉快な環境の中で住まなければならなくても、あまり苦痛には感じないのです。私たちはわりと落ちつきます。この世に安住し、しかもこの世に執着しません。それから、私たちは自分の使命を果たさなければならぬことを知るので、私たちの頭脳で

わかるかどうかにかかわらず、内面の魂がこの地球上での任務を達成しなければならぬことを理解するのです。そうすると、私たちはとても早く家に帰ることができます。

ある女性の話ですが、彼女は死んで天国に行き、再びこの世に戻ってきました。その間、彼女は天国のさまざまな場所を見せられて、宇宙の神秘と万物創造の目的を知りました。また、何人かの偉大な衆生に会いました。イエス・キリストやおそらく神の代表のような人々です。彼女は少なくとも、キリストだと思いました。というのは、キリストがどんなふうなのか知っている人はだれもいないからです。（マスター笑う）その衆生は愛に満ちあふれ、まわりにとっても大きな光の輪があつたので、彼女はイエス・キリストに違いないと思つたのです。

このような境涯を見てから、彼女はまるで家に帰つたような気がしました。もちろん、彼女はとても幸せで、愛されていると感じ、再びこの世に戻って来たくはありませんでした。ところが、その天人が彼女に「まだ、時間が来ていません」と言つたので、彼女は帰らなければならなかつたのです。彼女が「帰りたくありません」と言うと、天人はさつそく彼女にその任務を見せました。この世界を救うために、今後彼女がしなければ



ならないことを教えたのです。それで、彼女はやっと戻って来ることに同意しました。天人は彼女に、「任務を見せてからそのときの記憶を消去するので、再び現実の生活に戻ったときには、自分の任務は何かを覚えていないでしょう」と言いました。本当に彼女は忘れてしまいました。

彼女が戻ってきて、自分の醜い体が横たわっているのを見ると、「こう言いました。「私はその中に入りたくありません」(マスターと聴衆笑う) それでも自分の体に入ると、とても狭くて、窮屈で、中に閉じこめられてしまったように感じました。彼女はつらくて泣きだしました。数カ月というとても長い時間のあと、彼女はもとの体に適応し始めました。それから、この地球に彼女の任務がある、と天人が言ったことを思い出しました。ところが、今その内容が何なのか、まったく覚えていません。とても長い時間考えた末に、彼女は思いました。「思い出さなくてもいい」と。それは彼女にとってより良いことです。なぜなら、もし彼女が思い出したら、急いで任務を完了させ、天国に帰って来るだろうということを神は知っているからです。(マスター笑う) そうですね。そうすると、彼女はきちんとやらないでしょう。ただひたすら、早くすませたいと思ひ、ど

んな方法でも使って、早く自由になろうとします。

神は私たちに知らせないために、ほとんどの場合、このようにおおい隠します。たとえ印心のあと座禅の修行をしても、少ししか見ることができません。そうすれば、少なくともほんの少しは慰められて、引き続きこの世で生活していけるのです。また、自分の天国での品性をうぬぼれずにすみませう。

また、普段みなさんが座禅しているとき、自分の魂が体を離れようとしませんが、マスターのパワーがなめらかにするので、出たり入ったりの違いと感があります。マスターのパワーにより、物質世界と精神世界とを順調に移行できます。あなたの魂が宇宙を悠然と旅したあと、またこの体という小箱に戻ってくるときに、それほど車酔いしなくともすみませう。とはいえ、ほとんどの人は死んだときや臨死から戻ってくるとき、物質世界と精神世界との間に大差を感じます。それでとても辛いのです。まるでこの女性のように。彼女はこの世に戻ってきてから、憂鬱になり、何カ月も苦しみました。

それで多くの場合、私たちは座禅をしていて、この体を離れるときには、肉体を離れたという感じがしません。それから、戻ってきたとき、私たちは「あっ！何かある……」

と感じます。まるでどこから帰ってきたかのように感じます。でも、その移行はそれほど大きくなく、差し障りはありません。そうでなくて、もし毎日この違いがあまりに激しかったら、耐えられなくなります。天国がどれほどきれいで、どれほど自由自在で、私たちがそこでどれほど愛されているかを覚えていけば、私たちは一秒、いえ百万分の一秒もここにいたいとは思わないでしょう。

ほとんどの天人はここに来たいとは絶対に思いません。彼らには来る勇気がありません。たとえば、あなたが美しく、清潔で、良い場所に住んでいるとします。もし、汚水で汚れたり、ゴミなどがある場所に連れて行かれ、そこに毎日閉じこもっていないければならないとしたら、どうですか。狭く、汚物やゴミで一杯の場所、これが天国の霊的な衆生が降りてきたときに直面する環境なのです。

天人がここに来るのは、この地球をレベルアップさせ、進歩させ、もつときれいなところにするためです。みなさんは地球の進化の歴史を読んだのを覚えていますか。地球はもともとこのような状態ではありませんでした。以前はただ、大きな無人の深いジャングルでした。心地よくありませんし、きれいでもありません。とはいえ、この地球は

天の創造の計画と関連しているので、私たちは一緒に仕事をしなければならないのです。私たちも天国の衆生で、他の天人とも関連しているからです。それで私たちがここですることなすことが彼らに影響を与えるのです。高いレベルであれば影響を受けませんが、低いレベルだと少し影響されます。ですから、私たちが何か良いことをしたら、彼らはうれしく、とても幸せになります。ところが、世界に害を及ぼすことをしたり、宇宙に影響を与えることをすると、彼らはとても心配し、非常に不安になります。それで私たちには誰でもみな、何人かのいわゆる「守護天使」がいて、この世界の仕事をするとき助けることになっています。私たちの背負っている任務により定まっています、天使の数が多かったり少なかったり、パワーがあつたり、普通であつたり、さまざまなのです。

インド人にはある伝統があります。それは彼らが出会ったすべての人を尊敬することです。もしかしたら、この惑星に来たすべての人類はみな天から降りてきた偉大で、智慧ある衆生なのだと、インドの神話に書かれているからかもしれません。私たちは座禪をしているときに見えることがあります。でも、さえぎられているときもあります。それは懐かしさのあまり、私たちをホームシックにさせないためです。（マスター笑う）あ

る人は座禅しているときに、ふるさとをちよつと訪ねることもできます。少なくとも、一目見られます。それからまた仕事に戻ります。また、ある人はすべてを忘れてしまい、ふるさとを懐かしいと思わないし、ただずつとここにどまりたいと思います。神は彼らにこの世の仕事をするために、十分なお金と十分な道具を与えます。ところが、彼らは忘れてしまつて、そのお金と道具をすべて享樂に使つてしまふのです。(マスター 笑う) こういった人は解脱するのがとても難しいのです。

それで、昔からいつもマスターと靈性の友達が自分を犠牲にしてここに来ているのです。この世の人を目覚めさせるためです。とはいえ、それはとても難しいことです。私たちはいったんここに来ると、天国のことをさっぱり忘れてしまふからです。マスターはこの兄弟姉妹のことをとても残念に思い、彼らが苦しんでいるのを見て、日夜苦勞し奔走して、彼らを目覚めさせよう、靈性の光輝くところにつれて帰ろうと思うのです。

無明が彼ら自身の根源を忘れさせるのです。この世に来た高尚な目的を、そしてこの世で所有しているすべてが、ただ使命を果たすための道具にすぎないことを忘れてしまいます。彼らは反対にこのきれいな道具やきれいな状況にだまされ、縛りつけられて家

に帰れないのです。このような人たちはとても長い時間をかけて、やっと目覚めます。天国のすべての霊的な衆生は、彼らのことを気の毒に思っ、助けたい、引き上げてあげたいと思います。けれどもそれはとても困難なこともあります。ですから、みなさんが目覚めればいいのです。(マスター笑う) みなさんがこの世のこの肉体は自分自身ではなく、自分の家は天国にあることを理解すればいいのです。

私たちは自分の両親、兄弟姉妹に対して、霊性の友のように接するべきです。実際に、そうなのです。ここに降りてくる前に、私たちはかつてお互いに約束しました。「私たちは私の両親です。あなたは私の息子です。あなたは私の姉妹です。あなたは私の先生です。あなたは私の友達です」。みんな一緒に降りてきて、互いに協力して、それぞれの任務を達成するのです。と同時に、霊性のレベルを高めるのです。もちろん、私たちはより高い霊性のレベルを得るために降りてきたのではなく、勇気を試すために、挑戦しようと思っ、降りてきたのです。当然挑戦すればするほど、私たちの霊的な理解や成長もますます大きくなり、この宇宙のために知識や労力を提供することにより、私たちのレベルは高まります。それにより、もちろん天人は私たちにより敬意を払います。そ

それから、より多くの、より高度な責任を私たちに与えるのです。

例をあげると、仮にあなたがある裕福な家庭に生まれたとしましょう。すると、あなたは働かず、両親は甘やかしてあなたを駄目にしてしまうでしょう。勉強もさせず、さまざまな仕事に従事することによる、成長の喜びを味わう体験をさせないとしたら、また、自分の才能、知能、体力を磨かせないとしたら、あなたは一日中、家の中をうろろして、ご飯を食べて、寝るだけで、何の経験もなく、大人になることも分別のある人になることもできません。このような場合、両親は膨大な財産をあなたに任せられませんが、あなたがひとりっ子であれば、両親がこの世を去るとき、あなたに両親の財産が受け継がれるのですが、そのとき、あなたはどうかやって事業を行えばいいのかわかりません。最後には事業に失敗して、貧乏になるしかありません。ということ、勉強させたり、能力を高めさせるために、神は私たちにここに来させたのです。私たちは仕事をすればするほど、他の人を助ければ助けるほど、ますます成長するのです。

この世において私たちの任務が何であろうと、最も重要なのは他の人を愛すること、互いに愛し合うことです。そうしなければ、多くのものが欠けることとなります。どん

な仕事に従事しても、誠心誠意でしなければなりません。同時にできる限り、私たちの仲間を助けなければなりません。仲間を幸せにし、彼らに自分が愛されていることを感じさせます。必要であれば私たちはいつでも愛を發揮して、さまざまな行動に表すのです。身・口・意（行動・言葉・考え）には常に愛と善意がなくてはなりません。そうすることが私たちの靈性の成長に対しても、仲間に対しても、最も良いことなのです。

子どもは小さいときに両親や家族の十分な愛が得られないと、大きくなっても愛の心を持ってません。非常に悪い人になることもあります。そうなると個人だけにとどまらず、接している人々にも及び、多大な影響を与えます。ですから、ある家庭やある団体に見られるように、その人たちの性質はとも似ていて、ある家族、団体、種族にはそれぞれの特色や性格があります。もっと大きく見れば、ある国の国民はみんな同じ性質を持っています。この性質というのは愛があるか、または凶悪であるかということです。

もちろん、どんな団体にも常に、良い人、悪い人がいますが、多くの人が持っている顕著な特質は、それぞれの団体、それぞれの国家にはつきりと見られます。仮にあなたが、ある国で出会った一人か二人の人によく扱われなかったり、嫌なことがあると、そ



の国全体に対して悪い印象を持ちますね。このような経験が繰り返されると、あなたはその国の人はみんな良くないと思うのです。あなたはその国に対する考えや悪い印象はどうやっても変えられません。ところが、その国であなたが一人か二人の、またはもっとたくさんの良い人に出会ったら、どんなことが起ころうと、あなたはその国は良い国であると思うのです。その国の人は良い人であると思うのです。

宗教上においても似た状況があります。団体の中の何人かが過ちを犯したり、誤解を引き起こしたりするだけでも、結果的には団体全体が巻き添えになります。たった何人かのことのために迫害を受けるのです。ですから、実際私たちは毎日、何をするにしても気をつけなくてはなりません。私たちは自分の思想と言動の責任をとるだけです。すまないからです。もしかしたら、他人に影響を与えることもあり得るのです。

私たちの思想は実際、非常に重要です。私たちは自分の思想がいつも善良であるように注意を払うべきです。それは、思想こそ宇宙万物の創造の材料だからです。思想があまり強すぎると、ただちに物質となって現れます。もし、思想があまり強くなければ、少したつてから物質化されます。あまり時間がたつと、私たちは忘れてしまいます。その

ため、そのことが自然に発生したと思いい、自分の意思と無関係だと思うのです。ところが、実際、その発生はまさに私たちの意思によるものなのです。これがすなわちカルマです。「汝のまいた種は、自ら刈り取らなければならない」です。

ということ、意思を純粹に保つことに気をつけなければいけません。というのは多くの人に、私たちが何を考えているのかが見えるからです。たいていの場合は、人との間にいつも保護網があり、誰が何を考えているのかわからないようになっていきます。その方が人にとってより良いのです。ところが、人の心を読みとる力を持っている人もいます。天人も私たちの心を見抜くことができ、全宇宙から見れば、私たちはまるで一冊の開かれた本のようにです。ですから気をつけなければいけません。一番良い方法は何か悪い意思を持ったびに直ちに断ち切ることです。さもなければ、厄介なことになります。同時にまた、この世界や近隣の惑星の雰囲気も、私たちの意思によって左右されるのです。意思がとても強いと、たった一人の意思だけで、良いことや悪いことを発生させることができます。あまり強くなくても、同じ考えの集団は物事を引き起こすのです。

前にも言いましたが、ある団体やある種族の人たちは、非常に似通った特徴や性質が

あります。ある人はとても似通った状況に遭遇します。ときには国中が似通ったことに遭遇します。これこそ共有のカルマなのです。同じ意思は同じ状況を引き寄せるからです。ですから、私たちは修行のとき、身・口・意を清めなければなりません。そうすれば、自分をきれいな雰囲気に保て、それから自分の住んでいるこの世界、天国、宇宙のためにきれいな雰囲気を作ることができるのです。

ということ、修行する人が多ければ多いほど、世界はますます浄化され、少なくともバランスがとれるので、人が呼吸できない、人が住めないというところまでは悪化しません。これこそ、ここに来て地球の任務を達成し、この世界を清める方法なのです。今、みなさんは自分の身・口・意をきれいに保つことが、どれほど重要なかわかっていたでしょう。私たちが社会を助けなければなりません。できることをすればいいのです。それで世界の苦難を減らせるのです。これは一番高尚な仕事です。この世で認められるだけではなく、神にも賞賛されます。

必要としている人に愛や物質的な慰めを与えると、とても気持ちよく感じます。どうしてでしょう。そのときあなたは、神と同一体になるからです。あなたが行なっている

のは神聖な仕事です。正しい仕事です。あなたは本当に神に代わって慈善の仕事をしているのです。もしかしたら、施しを受けている人も天人かもしれません。自分を犠牲にしてここに来て、貧乏人に生まれ、あなたに愛のレッスンを受けさせるのです。それで昔から、マスターはみんなこう言うのです。「施しや善行は、自慢してはいけません」と。そのとき私たちは気分がよくなるかもしれませんが、その機会を与えられたことにも感謝すべきです。

最近、アメリカで有名になった本にこう書かれています。ある女性が死んでから天国に行って、人間がこの世でさまざまな役柄を演じているのを見ました。その中のある場面で、天人は彼女に一人の孤独な男が街角で寝ているところを見せたのです。その男は年老いた、汚い酔っぱらいでした。天人は彼女に「誰だか知っていますか」と聞きましました。彼女は天国から見下ろして言いました。「聞くには及びませんよ。ただのばかな酔っぱらいにすぎないでしょう」というのは、その人の見かけは本当に酒に酔っていて、バカで、汚く、醜く、年老いていて、少しも価値がないように見えたのです。

それから、天人は彼の本当の身分をあらわにして、彼女に見せました。その人はもと

もと全天界で大変崇拜されているとても偉大な天人でした。その人は友達を助けるために自分を犠牲にして地球に来て、その役を演じているのです。彼の友達は弁護士です。その街のそう遠くないところに住んでいます。その弁護士の友達はいつも貧乏人を助け、国内では公正を主張しています。彼はこの酔っぱらいを見るたびに、民衆のためにもつとたくさんのことをしなければいけないと決心するのです。そうでなければ、彼は努力を忘れてしまうか、だらけてしまうでしょう。

ところが、彼らが地球に来る前に、お互いに助け合うことを約束したのを覚えていません。彼らは天国で仲のよい友達だったので、この方法で相手を助けているのです。もちろん、その弁護士が得られるのは栄誉と賞賛ですが、酔っぱらいが得られるのはただ、人々の罵声と軽蔑だけです。彼らが知っているかどうかにかかわらず、それぞれの使命を果たして、時間が来たら二人とも天国に帰るのです。その酔っぱらいの役の人、ただ一日中寝そべっているだけで、(マスター笑う) 友達が忘れないようにたえず注意を促し、貧乏な人、絶望している人、ホームレスの人たちのために奮起させるのです。



## 内在の宝物を見つける方法

タイ・チェンマイにおける英語の講演

（一九九四年十二月四日）

タイの人は非常に穏和で、非常に奥ゆかしくて、何をするときも慌てません。ですから、弟子が「即刻開悟」のポスターを貼ったときに、はたしてタイの人々が興味を持つてくれるかどうか、私にはよくわかりませんでした。「ゆつくり開悟」と書き換えるべきではなかったかと思いました。（マスターと聴衆笑う）でも、驚いたことにこんなにくさんの人々が来てくれましたので、それでよかったですね。

実際に私たちは悟りを開くのがとても遅いのです。それは私たちが世々代々この物質の世界を享受してきたからです。ある人はこの世に何百回も、何千回も、何百万回も輪

廻ってきて、疲れ果ててしまい、この物質世界の芝居を演じることに嫌気がさしてきたのです。その人たちは早く悟りを開いて、我が家、仏土、天国に帰りたいと思うのです。その言い方は宗教によって違うのです。たぶん一部の人は一刻も早く悟りを開きたがっているでしょう。彼らは現世以後、この世にとどまりたくないからです。

ヒマラヤに行く前は私も同じ考えでした。この世の多くの苦しみと災難を見て、自分もこの世の人たちの苦しみを分け合っているように感じました。それでどんな代価を払っても即刻解脱したい、そのためには命を犠牲にしてもいいと思いました。そういうわけで、神、仏陀は私を哀れみ、私の願いを叶えてくれたのだと思います。

### 開悟の種子は私たちの内面にある

同じような状況が世界各地の数千人もの修行仲間の身に起きています。彼らの魂が解脱を求めて泣き、真理を誠心誠意に渴望し、智慧の根源を求めるとき、十方の仏陀、菩薩や全能の神は彼らの願いを叶えてくれました。彼らはすでに悟りを開き、観音法門の

修行を通して、日々悟りを開いていくのです。たとえどんな人でもこのような加護を得たいと願うのであれば、分かち合うことができます。なぜなら開悟の果実と種子はすでに私たちの内面にあるからです。どこかに探しに行く必要はありません。

昔の経典を見ると、それぞれの仏陀、マスターはそれぞれの場所で、それぞれの努力によって、ある期間を経て悟りを開きました。ある人は苦行をし、ある人は家で楽に修行し、ある人は相当長い時間をかけ、何年もかけ、一生をかけてやっと完全に悟りを開きました。ある人は数カ月で悟りを開き、またある人は即座に悟りを開いたのです。

### 子どもでも悟りを開くことができる

釈迦が生きていた時代に、彼に近い菩薩が八歳の龍女が仏陀になった故事を話しました。これは聖人になるのに、悟りを開くのに、年齢や性別、男女、DNA、遺伝子に関係ないということを表しています。龍だとか人間だとか、または場所による違いがないのです。私たちは龍が海の底に棲んでいるのを知っていますが、もしそうであったとし



でも、その子はたった八歳の女の子です。法華経を読んだことのある人はこの故事を知っているはずですね。

たとえ八歳の女の子であったとしても、仏陀になれたのだから、即座に悟りを開くことが可能だということを表しています。長くても二年間で仏陀になれるということですから、なぜなら、昔からマスターは六才未満の子どもには印心を与えないからです。小さな龍女は長くても二年で仏陀になったことになりました。ただ悟りを開いたというだけではありません。

私たちはいつも人間だけが仏陀になり、悟りを開くことができると聞いています。しかもそれも男性だけに限るといいます。けれども今やこのように相反する故事があり、女性も子どもさえも仏陀になれるのです。

私たちの修行仲間の中にもこれくらいの子どもがいます。彼らはとても小さいときにすでに悟りを開きました。人々は幼い頃から真理を追い求めた修行者をいつもほめたたえています。小さいときは心がより純粹で、わりあい容易に自分を高めることができ、

高い境涯がわかり、より高い意識段階に入ることができません。

では昔の人たちはどのように悟りを開き、最終的に一日で仏陀になれたのでしょうか。私たちはその答えを知らなければなりません。苦行によって得たのかそれともリラックスして得たのか、子どものように純真な心によつて得たのでしょうか。もしかしたら、このすべてが含まれているかもしれません。けれども、決してこういった要因により悟りを開いたわけではありません。昔からの秘密があり、それこそ最近になつて大衆に多少公開されました。

昔はマスターについてこの秘法を学ぶためには山を越え、川を渡りたくさんの苦行があり、マスターの愛を得て、弟子入りを許してもらつたのです。これにはたくさんのわけがあります。昔は靈的秘法を修行することはマスターとその弟子にとつて多くの危険を招く可能性があり、国民や政府、他の宗教団体からの多くのさまざまな迫害を受けたからです。彼らは自分たちの組織を越えたものを信じなかつたからです。そこで、師弟はこつそりと目立たないようにしていなければなりませんでした。自ら危険を招かない

ようにするためです。

**マスターは危険を顧みず私たちに本性の偉大さを思い出させる**

たとえばイエス・キリスト、マホメッド、釈迦など、彼らが伝道していた頃は大人なり小なり迫害がありました。私はインドでいろいろな宗教の経典をたくさん勉強しました。さまざまな宗教の大師たちの多くは迫害を受けています。生きたまま皮膚をはがされた人もいれば、焼き殺された人もいます。ただ真理を伝えて教えただけなのに。釈迦さえもそうでした。彼は非常に有名で、高貴な貴族の出身で、王子でもありました。彼の名声、慈悲、智慧はインド全土と近隣の国々に伝わっていました。それでも、他の宗教の宗派が彼を迫害し、暗殺を試みました。けれども、こういう試みはことごとく失敗してしまいました。もう一つの理由は、マスターは弟子にこの秘法を大切にして欲しいために、苦しい仕事をさせ、苦行の末やっと授けたのです。それはマスターが人間の心理を非常によく理解しているからです。私たちは苦勞して得たものはより大切に、たやす

く手に入れたものや、ただで手に入れたものは大切にしません。そこでマスターは弟子入りさせる前にたくさんのテストや多くの試練を与えるのです。

昔のマスターは弟子が家庭を離れ、肉体の快樂と贅沢な生活を放棄して、自分について来るよう求めました。そして、たくさんの仕事をさせながら、弟子の忍耐力と誠意を試したのです。古い経典にはこのような訓練の話がたくさん載っています。現代においてはこのような方法が通用するとは思えません。なぜならマスターのテストを受ける時間のある人はとても少ないのです。テストという方法が良くないではありません。テストは大変いいのです。大変価値があり、とても多くの利益があります。

良いことのひとつとして、マスターは弟子をテストすることによって、弟子の世々代々のカルマの負担を少なくすることができます。それでさまざまなテストと困難を与えて弟子を磨き、弟子の身・口・意（行動・言葉・考え）を浄化するのです。そうすると印心のときにマスターは弟子のために大変な苦勞をしなくてすみますし、弟子の重いカルマを負担しなくてすむのです。

これこそ昔のマスターが弟子をテストする良い点です。けれども、このような方法は人類に多くの不利をもたらしています。そのため、私たちのこの地球は、今日この宇宙で、他の多くの文明的で進歩的な惑星より立ち遅れているのです。今日に至るまで同じ宗教の内部でも差別があったり、宗教戦争が起つたりしています。私たちの世界は現在も多くの飢餓や不公平な苦難があふれているのです。そして今日、私たちの教理、仏陀、キリストの教理は多くの国で公開することができません。もう二十一世紀になろうとしているのに。人類は月に着陸し、火星などを探検していますが、思想や精神面の進歩においては非常に立ち遅れています。これらの秘密を大衆に公開することさえ、私たちが期待するほど簡単なことではありませんでした。これが多くのマスターが命を失う目に遭った原因なのです。彼らは自分の命を顧みず、私たちが生まれながらにして、内面に智慧を持つていることを教えたからです。彼らは命も名誉も快適な暮らしも失われる危険を顧みず、ただひたすら私たちが靈性を覚醒し、上昇するのを助けたのです。

今日のさまざまな靈的な資料も、みな昔のマスターが私たちに残してくれたものです。

ですから、私たちは彼らにたくさん借りがあります。現在私たちが知っているすべては、たとえそれがほんの少しであっても、やはり私たちは過去の偉大なマスターの恩を受けているのです。それで人々は寺院、教会、モスクなどを造って偉大なマスターを思いだし、敬意を表すのです。なぜなら、彼らはこの世界をもっと良くするために、あらゆる危険にさらされたからです。けれども、寺院や教会を建てるだけでは、感謝の気持ちを十分に表せたとはいえません。マスターが私たちに残してくれたメッセージを正しく活用してこそ、感謝したことになるのです。なぜなら、それこそがマスターがこの世界にきた目的だからです。それはつまり、私たちが自分の仏性や智慧、内在の天国を思い起こし、最大の努力を払って見つけることなのです。

マスターは世間の人々から尊敬され、崇拜されるために、この世界に来るではありません。マスターは人々をマスターに変えるために、人々に自分の内面の偉大さを思い出させるために来るのです。それこそ、マスターの目的なのです。仏陀はかつて、「私はみなさんに自分の仏性をわかってもらうために来た」と言いました。また「仏陀と衆生

とは平等で何も違わない」と言いました。私たちは仏陀を信じているとしても、仏性とは何であるかがわからないのです。それは教えてくれる人がいなかったからかも知れませんが、私たちが自身がわかる努力をしていなかったのかも知れません。自分の仏性を探し当てた人は幸運で喜ばしいことですが、大多数の人々が世々代々、数えきれないほど失敗を繰り返しています。しかも失敗を繰り返すたびに、ますます困難になります。数人の天眼が開いた人は、第三の眼が開き、天国を見ることができ、この世界に多くの老いた魂がたくさんいるのを見ることができます。そしてそれらの老いた魂は、絶え間なく同じ惑星に輪廻し、同じパターンの生活を繰り返しているのです。なぜなら、私たちは一回目に家に帰るのを失敗し、二回目も失敗し、三回目、四回目と何千回もの失敗を繰り返しているうちに、自分がどこから来たのかも忘れてしまうのです。たとえ私たちが仏性を忘れていたとしても、仏性を失ってしまったというわけではありません。まだ私たちはいつでも探し当てることができます。私を含め何千、何百万という人々はすでにその宝物を探し当てています。ですから、あなたもできます。

悟りを開いた後はすべてが自然になる

多くの人々が私に「悟りを開いた後はどうなりますか。性格が変わりますか。生活は。考え方は。悟りを開いた後、仏陀になった後はどんなことをしますか」などと質問するのです。たぶん、みなさんもこのようなことを知りたがっていると思いますが、どうですか。知りたいですか。それとも知りたくないですか。（聴衆「知りたいです」と答える。拍手） 私は彼らに言いました。「悟りを開いた後、お腹が空いたらご飯を食べますし、疲れたら寝ます」。ただしこれは肉体の私がそうするのであって、同時にもう一つの部分すなわち精神面の私、覚醒した仏性は肉体の機能とは別に他のことをします。つまり仏陀になった人は、外見からは決してその人の内面のレベルを判断することができないということです。肉眼や肉体の感覚ではその人が悟りを開いているかどうか、仏陀になっているかどうかわかりません。もし靈性の知覚や智慧が開き、そして座禅し修行をしたなら、生まれながら靈的な面において優れているとしたら、または仏陀とともに学んだなら、その人がどんなに偉大なのかわかります。



これはつまり、私たちが英語をたくさん勉強すればするほど、自分たちの英語の先生がどんなに素晴らしいかがわかるのと同じです。先生と同じ方向、同じ経路を歩まない、と、少ししかわからないでしょうし、先生の学識がどれほどのものか判断することができません。ですから、最も大事なのはやはり私たちがまず自分の偉大さを見つけてから、人の偉大さを判断することができるといふことです。そうでないと、仏陀は一日一食でも、お腹が空いたらご飯を食べるし、疲れたら寝るといふことぐらいしか、私たちはわかりません。ときには体調により、環境により、仏陀も病になることがあります。たとえば、永遠に病氣もしなければ疲れることもなく、お腹が空くこともないという一面があったとしても、それは内面にある真我であり、真の仏陀であり、私たちが生まれる前も、死んだ後も、ずっと持っているのです。

**仏性は永遠に存在する**

今日私たちがここに来て、各地をまわる目的はみなさんとこの良い情報を分かち合う

ためです。そして私たちがもう一度自分の仏性、真の自分を探し当てるためなのです。それは不生、不死、不病、永遠の存在です。もちろんこれは永遠に無償でみなさんに差し上げるプレゼントです。（聴衆拍手）

みなさんは無償のプレゼントが好きですか。（マスター笑う）そうです。こんなことは非常にまれなことです。この時代に無料のものは何もありません。けれども無料のものもあります。ただし私たちはそのために働かなくてはなりません。すなわちいったん智慧が開いたら、私たちは必ず毎日座禅してそれを保ち、そしてさらに高い境界にまで発展させ、仏陀のレベルに達するための努力をしなければなりません。あなたが毎日二、三時間の座禅をする以外は一切無償です。私のすべての時間、私のアドバイス、私のエネルギー、みなさんに対する私の手助けはどんなときでもみな無料です。というのは、私は自分でお金を稼いで自分を養えるからです。みなさんからの寄付は必要ありません。とてもお金持ちの仏陀がいるのも悪くありません。（マスター笑う）私が本当に仏陀であるなら、そしてみなさんが本当にそうだと信じていればの話ですが。

ほとんどの人が私のことを仏陀であると思っていますが、私は何とも思っていない。ただ、みなさんに恩返しをするために、この世界において一人のシスターとしての責任を果たそうとしているだけです。というのは世間の人々のおかげで私は成長し、いろいろな教育を受け、智慧眼が開いたからです。ですから私がこの世界のために時間とエネルギーを奉仕することはごく自然なことです。

### 生きとし生けるものはみな兄弟である

これは子どもが大きくなって、年老いた両親の面倒をみることによって子どもとしての孝行をするのと同じようなことです。ですから人々に奉仕することは私にとって光栄なことなのです。そこで私の財産や慈悲心、私の愛、時間を含め、私のすべてを貢献するのです。なぜなら仏陀の教理によれば、私たちが悟りを開いてからわかったことからみれば、生きとし生けるものはみんな兄弟だからです。この世で肉体的または精神的に苦しみを受けている人がいれば師、弟子にかかわらず、私たちは最善を尽くして彼らを

助けなければなりません。靈性の智慧と解脱を渴望しているとき、まだ無明のときに、無条件で助けてくれる友達に出会ったら、もちろん私たちはその人にとっても感激するでしょう。しかもきつとその師や靈修の友達を崇拜することでしょう。けれども、いわゆるその師はときどき、弟子と呼ばれる人たちのこのような崇拜や愛や慕う心に耐えなければなりません。実際にはこれは必要ありませんが。

私たちがみな平等で、内面に仏陀と神の品性を備えていたら、何かのために、誰かに感謝するようなことはないはずです。私たちにとって唯一重要なことは、自分が信じている師の指示に従って修行に励み、師と同じレベルに達するまで努力することであり、それこそ弟子の最良の感謝の方法なのです。

もちろん、すべての人がこの昔の聖人のような生活様式を習慣としていたわけではありません。このような靈的修行に加わりたがらない人もいました。彼らは恐れたのです。けれども、それを口実にすべきではありません。私たちが良くないことをしたり、自分や家族、国を傷つけるようなことをしたときには恐れるべきですが、いいことをし、高

貴で正しく、靈性を発展させることをするので、恐れることはありません。

### 菜食は自分と世界のためになる

ある人たちは菜食をすると、他の人に笑われるのではないかと心配していると言ってきます。私は「なぜですか。菜食は誰も傷つけません」と言いました。菜食すれば、たとえ仏陀にならなくても、健康のためにはなります。

チェンマイでは多くの人が菜食をしていて、とても嬉しいです。三割から四割の人が菜食をしていて、チェンマイにはとてもたくさんの菜食のレストランがあります。これはよいニュースです。（聴衆拍手） 私はずいぶん前に、休暇でタイに来たことを覚えていますが、当時、バンコクや他の場所でも菜食のレストランはなかなか見あたりませんでした。私がこの仕事をする前にも、この国を何回か訪れたことがあります。まだ私が悟りを開く前のことで、タイは仏教国なので菜食の食べ物を見つけたのはとても簡単だと思っていました。寺院に行けば菜食の食べ物があると思

って、ときどき訪れましたが、ありませんでした。お坊さんでさえ菜食ではないのですから、私が菜食にありつけるわけがありませんでした。当時お坊さんたちは托鉢をしていましたが、人々は彼らの健康のことを心配し、とり肉や牛肉などをたくさん食べて、たくましい仏陀になってほしいと思ったのか、何もかも入れてしまうのです。かわいそうなお坊さんたちには、選択の余地がありませんでした。けれどもチェンマイはだいたいいい方だと思います。私はチェンマイで出家することも考えたかもしれませんが。そうすると毎日菜食のレストランに行つて托鉢することもできます。

ここでは多くの人が菜食をしているせいか、私が着いたとき、とても気持ち良く感じました。それにここはとても信仰が厚く、私が以前行ったところとは雰囲気の違いがありました。私たちは感じとることができません。

### 霊性の修行は感性と智慧を発展させる

ある期間修行すると私たちは生活のさまざまな面においてとても敏感になり、以前は

感じなかつた多くのことを感じとることができます。そして以前は理解できなかったことがわかるようになります。これが修行の良い点です。外から見れば以前と変わってないかもしれませんが。または外見が以前より少し若くなって、きれいになったかもしれませんが、修行する人にとっては外見は目安にはなりません。内面こそ重要なのです。内面の智慧がより開くのです。私たちは過去、現在、未来のことがわかり、そしてそれらさえ超越して大昔に失われた最高の智慧のパワーに達するのです。即座に悟りを開き、自らの宝物を見つける法門を提供し、それを分かち合うためにここに来たのです。そして自分自身の偉大な本性が完全にわかるまで発展させるのです。このことはすぐに証明できます。多くの人は一日目に自分の過去や未来を知ることができます。多くの人は数日後、数週間後、数カ月後にさらにたくさんのことを知ることができます。これは私たちの前世の背景と私たちの誠意によって決まります。これが私たちがみなさんに提供する情報の概略です。さあ、次はみなさんからの質問の時間に行いたいと思います。そうではないと時間が長すぎてしまいますから。仏陀の仕事は非常に偉大ですから、私はいくら

でも長く話せますが、やはりみなさん自身が目覚め、毎日修行し、座禅することによって見つけてほしいのです。スリルのある映画を見るのと同じで、誰かが結末と内容を教えてしまうと、そんなにスリルを感じなくなるかもしれません。そうすると映画を見る楽しみがなくなってしまうでしょう。ですから、みなさん自身で発掘することを勧めます。講義が終わりましたら、みなさんとこの秘密を分かち合いたいと思います。ご静聴ありがとうございます。（聴衆拍手）

### 〈講演後の質疑応答〉

※Mはマスターの答え

座禅は死の秘密を明かす

Q お聞きしたいのですが、死んだら転生するのでしょうか。以前ある出家者の経の講義を聞いたことがあります。その出家者はまだ死んでいないのに、どうして死んだら



再び転生することを知っていたのですか。どのように彼を信じればいいのですか。

M その出家者を疑ってはいけません。なぜなら彼の経の講義は仏陀の智慧によるもので、經典で学んだからです。座禅の修行をしている人なら、座禅の中で学んだのかもしれない。私たちは死後のことを知るために死ぬ必要はありません。もちろん、私に「死んだらどうなりますか」と質問する人もいます。私は彼らに「私はまだ死んでいませんのでわかりません」と答えます。けれども、私たちが座禅をするときに、たくさんのさまざまなレベルの境涯を経て、多くのことを理解するのです。ですから輪廻というものが存在するかどうかは、簡単に調べてわかります。問題はありません。もしあなたが証明したければ、観音法門を学んでください。あなたの本来の姿を見つけることができませす。私たちが耳にした話はすべて実証すべきであって、ただ盲目的に信じてはいけません。それはとても理知的であり、あなたの行動はとても賢明です。とはいえ、出家者を疑ってはいけません。私たちは自分でその証拠となるものを見つけだし、はっきりとさせなければなりません。

Q 「印心」とは何ですか。どうしたら印心を受けることができますか。

M 印心とはいわゆるマスターが黙って静かにあなたと座禅をする時間のことです。そのマスターはあなたの目の前にいようと千里も離れたところにいようと、あなたの内面の智慧と通じ合うことができます。そしてあなたの無明の門を開け、あなたに光を見させ、神の教理を直接聞かせ、そして本性を目覚めさせます。マスターがその場にいれば口頭で指示しますが、ときには必要としない場合もあります。というのは心と心のお互い意思が通じ合い、仏性と仏性が通じ合うのであって、マスターと弟子の言葉やどんな行動も必要としないコミュニケーションです。みなさんの中に印心を受けたい人がいましたら外へ行つて名前を記入するだけで結構です。講義が終わったら印心のお知らせをします。誠心誠意師を信じるなら、たくさんの方が非公式の印心を受けることができます。たとえ、私に一度も会ったことのない人でも、たとえ千里離れていても、非公式の印心を受けることができます。

座禅は経験のある師の指導が必要である

Q 彼は九日間、毎日三時間座禅して、二度も未来の光景を見ました。彼はなぜそのようであったのか知りたがっています。というのは、それが本物か、幻像か、彼はわからなかったからです。

M 彼はどんな方法で座禅していますか。(答えなし) もし師について学んでいるなら、詳しく指導してもらおうようにお願いすべきです。私について修行している人は私に手紙を書いて質問しています。通常の場合、座禅のとき、光を見たり天国の音楽が聞こえたら、座禅が終わってから気持ちがよく、リラックスでき、より愛の気持ちにあふれます。もしそうだとしたら本物ですが、いらいらしたり、恐くなったり、ある意味で恐怖を感じるのであれば、幻像を見たことを表しています。それは魔のパワーから来たものです。そのときは座禅をやめたほうがいいでしょう。座禅するときだけ内面の体験があるとは限りません。どんな人でも、麻薬を吸ったり極度の苦しみに陥ったり、酸素不足になった場合に幻覚を見ることがあります。ですから、一番賢明な方法として、経験のある師

を探すことです。良い指導者がいないと靈性の修行の道は長く、危険が伴うことがあるのです。

Q 死んだらどうなりますか。

M もし、私がそのことを知っていると云ったら、「あなたはまだ死んでもいないのにどうしてわかるのですか」と聞き返すでしょう。いろいろな宗教の經典によりますと、その人の現世での生き方によって死後の境遇が決まるとのことです。道徳的な生活をし、修行して智慧が開いたとしたら、とても美しく平和で楽しい境涯に行きます。愛や奉仕もない生活をしていたとしたら、より低いところに行きます。高いところに行くか低いところに行くかは、私たちがどれくらい道徳的だったか、智慧があったか、どれくらいの人を傷つけたかによって決まります。

現在はたくさんさんの靈性の修行者が書いた死に関する本や、一般人の臨死体験の書物があり、死の体験を述べています。図書館に行つて調べられるでしょう。

Q マスターの座禅と仏教でいう座禅はどう違いますか。

M 本来は何の違いもなかったのですが、今は少し違いがあります。仏教の伝統的な座禅法のほとんどが、仏陀が弟子に伝授した真の座禅法と異なっているからです。私たちの座禅法は「即座に悟りを開く」ことですが、ほとんどの仏教の伝統的な座禅はこのことを保証していません。私たちが修行している観音法門は、現世で解脱することを保証し、何千、何百万もの弟子たちがこのことを証明しています。私たちの苦しみはこの現世で終わるのです。この法門は仏教の教義に基づいた、原版に基づいた、本来のまま伝わった法門です。仏陀の弟子たちは仏陀が生存中にこの法を伝授され、即座に阿羅漢、菩薩、解脱した存在になりました。これらの人たちはまだ仏陀にはなっていないけれども、彼らの親戚や友人たちはみな解脱できました。解脱することと仏陀になることは同じことではありません。

私たちの修行方法により、印心の最初の瞬間に、すぐさま悟りの境地を味わうことができ、その先もずっと続きます。けれども、現在、他の仏教の伝統的な修行法は、即座

に悟りを開くことはできません。師と一緒に座禅ができて、あなたが得るものは何もありません。また、自分が悟りを開いているかどうかもわかりません。しかし、私たちの方法で修行するとわかるのです。というのは、あなたがわかり、あなたが感じ、自分が悟りを開いたこと、自分は違うということ、自分は目覚めたということ認識できる証があるからです。目覚めると美しい光と美しい音楽が聞こえてきます。これらの体験がなければ、悟りを開いたとは言えません。と同時に長い間背負っていた重荷を肩から降ろしたような解放感があり、爽快で、光を感じ、法悦を感じます。これが悟りを開いた証です。印心を受けてから毎日修行し続けると、日に日に進歩し、ますます智慧、愛、包容力のある人となり、以前と違ってきます。なぜなら、私たちはすでに聖人の仲間入りをして、この肉体により生活をしながら、聖人としての精神を備えているからです。もし、どんな法門でもこれと同じものをすべて提供するのであれば、それは真の開悟への道です。どんな法門を修行しても用いても構いませんが、ただしそれは一時的で初歩的なものにすぎず、私たちを究極の霊的な智慧の王座に導くことはできません。

座禅は最も深い祈りである

Q 私は困難が起きたとき、神に祈りを捧げますが、ときには感応がありません。この感応が本当で、神からきた導きであるかどうか判断することができませんか。

M 誠心誠意に、深く神に祈りを捧げると内在の神の加護のパワーと通じ合うことができます。そのときに感応があります。そうでなければありません。座禅が非常に深く、非常に誠心誠意に祈ったからです。それで常に感応があるのです。印心を受けた後、師は私たちに内在の神のパワー、仏性と通じ合うようにしてくれます。ですから、私たちは毎日通じ合っています。しかもいつでも祈れば、すぐ感応があります。そして、いつの日か私たちがもはや祈る人ではなく、他の人の祈りに対して感応を与える人になるのです。これが修行の目的です。私たちはみなこのレベルに到達することができます。

(聴衆拍手)

Q できるだけ早く解脱するためにはどうしたらいいですか。もう一つの質問は家で修

行できますか。家族と離れる必要がありませんか。そうすると、出家して修行するより遅いですか。

**M** 一つ目の質問は、外の印心の受付に行つて名前を記入すればいいのです。二つ目の家で修行すると、出家者、いわゆる家を離れて修行する人より遅いかどうかの質問について言いますと、そんなことはありません。たとえ出家しても忙しいからです。出家者は毎日決められた時間に修行するだけで、その他の時間は寺院の仕事や奉仕活動、世俗的なことをするなど、みなさんと同じです。ただ、置かれた場所が違うだけです。私たちは家において仏陀の家族の世話をし、時間があるときに座禅をします。早朝、晩、寝る前に修行すればいいのです。それでいいのです。「禅」は日常生活の中にあるべきなのです。立ったり、座ったり、横になったり、歩いたりするのもみな禅です。すべてが「禅」なのです。そうでなければ仏陀は何をしたのでしょうか。私たちは「座っている仏陀」だけではないけません。たまには一週間か二週間、または一ヶ月、山ごもりするのもいいのですが、ずっとそうするわけにはいきません。私たちは社会に対する義務を果たさなけ



ればなりません。たとえ出家者であつても例外ではありません。仏陀でさえも四十九日間しか座っていませんでした。その期間の前後はいろいろなところに出かけたり、さまざまなことをしました。フォルモサ（台湾）にもたくさんのお出家者がいます。ほとんどの出家者はとても忙しく、ときには葬儀にも参列しなければなりません。ときには食事をする時間もなく、あちこちへと急がねばならないのです。ですから、みなさんが想像しているのとは違います。出家すれば座禅する時間がたくさんあるとは限りません。

### 開悟は時空を超越する

Q この世界はどのようにして始まったのですか。人間は生まれてから、永遠に終わることのない生死輪廻をしなければならぬことをはつきり知っていながら、なぜ、また生まれてくるのですか。

M この話をするとき長くなります。私には時間がありません。今から涅槃（ねはん）に行くまで話しても、この世界の創造の歴史を語りつくすことはできません。あなたが

ひ聞きたいのであれば、この世界がいかに創造されたかを話すために、私たち二人ともこの苦しみの世界に再び輪廻しなくてはなりません。私はあなたがそれを望んでいるとは思えません。ですから、一番手っ取り早い答えは悟りを開くことです。

完全に悟りを開くとあなたはすべてがわかります。数えきれないほどの世々代々のことも、一瞬にしてわかります。なぜなら悟りを開くことによって、私たちは時空の限界を超えるからです。時間の影響を受けないので、たくさんの時間をかけなくても多くのことがわかるのです。ですから、ときどき何時間も座禅して座っているのに、ほんの一分のよう感じます。理解するのに何世紀もかかる多くのことが、私たちにははつきりと理解できるのです。これが内面の智慧を探し当てなければならぬ理由なのです。なぜなら、答えはすべてその中にあるからです。

**Q** 世界にはどうしてこんなにたくさん宗教が存在するのですか。どれが本物ですか。  
**M** みんな本物です。自分で選択してください。あなたがある宗教について徹底的に理

解しているのであれば、他のどんな宗教のことも理解することができます。そうでなければ、常に言い争いや宗教戦争を引き起こします。実際、すべての宗教は同じ真理を示しています。自分の宗教を引き続き信じていいのですが、ただし今日はここで悟りを開くことです。そうすればどの宗教が一番いいかわかるはずです。そして、本当はたくさん宗教があるのでなく、ただ一つの宗教しかないということを知るでしょう。もし悟りを開かなければ、どの宗教も同じであることを信じるのは難しいことです。私がどんなにあなたに説明しても、それは私の知識であって、あなたではありません。ですから、自分のを持つべきです。もしすべての宗教家たちが本当に自分の宗教について理解できているなら、今日世界で起きているように、宗教間、または同じ宗教内での戦争は絶対に起こらないはずです。悟りを開いている人こそが誠心誠意、一〇〇%宗教を信じている人です。そのような人は人種や信仰、宗教などにかかわらず、人類の兄弟のような情を理解しています。そういう人こそ世界平和を真に擁護する人です。

Q 座禅の前に必ず祈らなければなりませんか。

M はい、できることなら。でも、必ず先に祈らなければならないということではありません。座禅自体が深い祈りなのです。座禅を通してあなたの欲しいものをすべて得ることができません。あなたにとつて精神的にも、物質的にも、幸せで良いことが自然にあるところへやっつけてきます。これは祈る、祈らないにかわりません。ですから、観音法門を修行している人は、非常に満ち足りた暮らしをしています。なぜなら、彼らは何も求めないからです。修行すればするほど欲望が少なくなり、祈ることも少なくなります。「まずは内面の天国を見つけることです。そうすればすべてがもたらされるのです」

Q 祈りを捧げますと恩恵がありますか。これはただの言い伝えですか。

M 恩恵があります。完全に悟りを開いていないなら、悟りを開けるように解脱できるようにと、ずっと祈らなければなりません。もちろん私たちが必要とするもの、生活の

ための必需品について祈ることもできません。祈りが叶えられるかどうかは別にして、少なくとも祈っているときは心の慰めになっているからです。それもいいことです。必ず誠心誠意祈らなければなりません。なぜなら祈りを通して私たちの魂の光を天国に送るからです。天人はそれを受けて私たちを助けに来てくれます。私たちは人の幸せのため祈ることもできます。本当に誠心誠意で祈ると、すべての祈りはすぐ感応があります。

### 「菜食は心と体をきれいにする」

Q 私 は十年座禅して、二年間菜食をしています。ときどき正夢を見ることがあります。夢の八割は現実になりますが、どうしてですか。

M それは修行と菜食の成果です。菜食をすると体内の動物の本能による負担が減り、体と心もつときれいになります。それで霊的なメッセージを察知しやすいのです。特に座禅をしているとき、雑念を少し鎮めると霊的なメッセージが入ってきます。仏陀、神、霊的な存在はずっと私たちのそばにいて、いろいろな方法で私たちを助けてくれた

り、私たちの祈りに応えてくれています。けれども、私たちの内面の思いが忙しすぎて騒がしすぎるため、これらの情報をキャッチすることができないのです。私たちの体と精神はさまざまなもので充満しています。特に動物の低い振動力からきたものです。もうあなたは菜食と座禅の修行の論理がわかりましたね。高いレベルのものと低いレベルのものを一緒にすることはできません。物質的なレベルや動物のレベルに接近すればするほど、天国や靈性の聖なる階級に近づくことができないのです。

**Q** 印心と座禅は同じですか。もし同じだとしたら、過去世と現世のカルマを消すことができますか。

**M** 一つ目の質問についてですが、印心はあなたの座禅の能力を引き出すことです。それから、あなたは座禅することができます。もちろん、座禅することにより蓄積されたカルマを消すことができます。マスターのパワーがそうしてくれるのです。それで、このことを可能にします。そしてカルマを少し残し、現世で引き続き生きて行けるように

します。そうでないとすぐに死んでしまいます。たとえカルマというものが本来存在しないとしても、この物質の肉体で生きるために必要なのです。そうでなければ、私たちはこの物質的な世界にとどまる理由も口実もありません。座禅を通してこそ、カルマの幻想的な本質を知ることができます。それで私たちはカルマに束縛されません。この世界で生存するために、たとえ私たちがいまだに見たところカルマのある行為を続行していてもです。

これが解脱している人と解脱していない人との違いです。両者とも同じカルマを背負っていますが、解脱している人はカルマが幻想だという本質がわかっていて、解脱していない人はカルマという深いわなに陥っています。カルマは恐ろしいものではありません。唯一恐ろしいことはカルマの本質を知らない、私たちの「無知」なのです。

**内面の悟りが私たちを解脱に導く**

Q なぜ涅槃（ねはん）に到達するまで生死輪廻を繰り返すのですか。最初に生まれて

くる原因と理由は何ですか。

**M** 私たちがここに来たのは、私たちが創造の「芝居」に参加したからです。もし私たちが参加しなかったら、万物は存在しません。それでは面白くないではありませんか。一人ひとり、この世界においての仕事があるのです。私たちはその仕事を完成させるために努力しています。もともと人々は地位も仕事も異なり、自分の地位の高い低いについて気にする人はいませんでした。徳のあるお金持ちであろうと、路上の乞食であろうと、「芝居」が始まったばかりのときは、誰も自分が演じている役のことを気にしませんでした。

けれどもしばらく経つと、人々は自分の演じている役に執着するようになりました。そして自分を憐れんだり、傲慢になったりして、この「芝居」の目的を忘れて、さまざま欲望を追い求めるようになったのです。この世界における地位や幸福を追い求めて苦しむのです。私たちは自分が「芝居」の中で演じている役を本当だと思い込み、執着するほどますます芝居の目的を忘れ、ますます自分の偉大さや自分がどこから来たのか



も忘れてしまったのです。自分の演じる役に執着するようになったため、自分は本当に「芝居」で演じた役の乞食や王様だと思い込んでしまうのです。そこで全力をつくして自分の所有物を増やし、高い地位を保とうとするのです。そして目的のために手段を選ばず、本来楽しいはずの「芝居」が苦しみが変わってしまったのです。全力で財産を増やし地位を保とうとすると、欲望というものが生じ、現世でその欲望が満たされなかつたときは、もう一度戻って来て、自分が信じているいわゆる正義のために奮闘するので。そこで「芝居」は台無しになってしまい、輪廻しては苦しみを受けています。

私たちはもともと天国、または仏土から来ました。私たちは平等です。この世界の王様と乞食は同様に高い境界、天国の偉大な天使なのです。けれども今日では地位や財産、名誉のために互いに争い始めました。それで私たちは苦しみ始め、物質の輪廻から脱出することができなくなっているのです。悟りを開いてこそ、私たちがあらゆる幻想の地位や境界線を断ち切ることを手助けしてくれるのです。私たちはみなもともと天国では、平等で何も争う必要がなく、この世界においての物や地位を持っているからといって、

自慢することも、恥ずかしく思うこともないということがわかります。

ということ、悟りを開くと一国の国王であろうと、すべてを放棄し出家者になって街で托鉢しようと、私たちにとってはみな平等だということです。悟りを開くことで、引き続き国王として国を治めると同時に解脱もできます。とはいえ、悟りを開かなかつたら、出家しても形式だけで、何の靈性の向上ももたらさないので。内面の悟りと認識こそ、私たちを自由にしてくれます。外面的な力とか外見や行動は決して私たちに真理をもたらしてはくれません。(聴衆拍手) ありがとうございます。

Q 印心後は生活様式が変わりますか。

M 変わりますが変わりません。変わるのは内面で、外見ではありません。もちろん外見も少しは変わります。印心を受けた人の多くは、ますます仕事が良くでき、きれいになり、さらに包容力と愛にあふれます。でも、最も大事なものは内面の変化です。無知から智慧のある人になります。生活様式や仕事、宗教を変える必要はありません。

真のマスターは遍在する

Q あなたに座禅を学んでから、自分で座禅をしても危険はありませんか。何か問題が生じたり疑いが生じたときは誰かに相談してもいいですか。

M 私の指示に従って座禅しているのなら、自分で勝手に座禅しているではありません。それは何の危険もありません。その上、マスターはどこにでも存在していて、あなたはいつでも内面から答えを得ることができます。もしあなたが危険な目に遇ったら、マスターはそれを知って、あなたが助けを求めなくてもすぐに助けます。もし知識的な問題でしたら、私か私たちのセンターに手紙を書いてください。センターに行くとき古参の修行仲間や出家者たちがあなたを手助けします。ただし、これは修行を始めたばかりのときにすることで、それからは内面からすべてがわかるでしょう。そうなると何の質問も、疑いも、欲望もなく、ただ愛の使命を果たすだけで、内面から来る加護のパワーを享受するだけです。

真の靈性のマスターは遍在しなければなりません。そして宇宙やこの世界の隅々にい

る弟子の一人ひとりの気持ちと願いがわかっている必要ありません。そうでないと問題があり、緊急を要するときに、肉体のマスターが来て助けしてくれることを待っていたのでは遅すぎます。

ということ、私はいつも弟子たちに、慌てて人に教えたがらないで、遍在して弟子を助けられるように、少なくともマスターのレベルに達するまで待たせます。まだ遍在するマスターのレベルに達していないマスターは、霊性の領域に足を踏み入れ、冒険をすべきではありません。さもないと、人々を危険な道に連れて行くことになります。ですから、怖がらないでください。みなさんを教える以上、私は必ず面倒をみます。約束します。（聴衆拍手）



## 印心—観音法門

スプリームマスターチンハイは真理を知りたいと心から望む誠実な人々に、印心を通して観音法門を伝授しています。中国語の「観音」とは音の振動を観るという意味で、この法門には内在の「光」と「音」の双方を観ることが含まれています。こうした内なる体験は、古代より世界中のさまざまな宗教的文献やスピリチュアルな文献に何度も述べられてきました。

聖書には「初めに言(ことば)があつた。言(ことば)は神と共にあつた。言(ことば)は神であつた」(ヨハネ1:1)と記されています。この言(ことば)が内在の音であり、ロゴス、シャブド、タオ、音流、ナーム、あるいは天上の音楽などとも呼ばれています。マスターチンハイは「それはすべての命あるものの中で振動し、宇宙全体を支えているものです。この内なる旋律はあらゆる傷を癒し、あらゆる望みを満たし、あらゆる世俗の渇きを癒すことができます。それは非常に全能であり、愛そのものです。なぜなら、私たちはこの音から創られているので、交流すると心に平安と満足感をもたらされるのです。この音を聞くと、私たち個人のすべてが変わり、人生観が大きく変わります」と述べています。

内在の光と神の光とは、「悟り」という言葉で呼ばれる同じ光を指しています。その光の強さ

は、かすかな光から何百万個の太陽の輝きにも及ぶものです。内在の光と音を通して、私たちは神を認識するのです。

観音法門の印心は秘密の儀式とか、新しい宗教に入るための式典といったものではありません。印心の間に内在の光と内在の音のメデイテーション（座禅）について特別な注意事項が指示されません。そしてマスターチンハイがスピリチュアルな伝達をします。この最初の神聖な体験は沈黙の内に行われます。あなたのためにこのドアを開けるのにマスターチンハイがその場にいる必要はありません。このスピリチュアルな伝達は法門にとって欠くことのできない重要な部分です。マスターの恩恵なくして、方法それ自体何ら利益をもたらすものではありません。

印心の最中に即座に内在の音を聞くことができたり、内在の光を見ることができたりするため、「即刻開悟」と呼ばれます。

マスターチンハイは、さまざまな背景や宗教を持つ人の印心も受け入れます。現在信じている宗教を変える必要もなければ、信仰を変える必要もありません。組織に入ることを要請されることも、現在の生活にそぐわない方法で活動するよう求められることもありません。

しかしながら、ビーガン（完全菜食）になることが求められます。生涯を通してビーガンを貫くことが、印心を受けるために必要な条件なのです。

印心は無料で提供されます。

印心を受けたあとで課せられることは、毎日観音法門のメデイテーション（座禪）をするこ  
とと五つの指針を守ることだけです。指針とは、あなた自身と他のあらゆる生き物も傷つけない  
ようにするための指標となるものです。こうした実行が最初の悟りの体験をより深く、より  
強くしていくことでしょう。そして、結局は、あなた自身が最も高い悟りのレベルに、また神  
性に達するのです。日々の修行を怠ると、悟ったことをまったく忘れてしまい、普通の意識レ  
ベルに戻ってしまいます。

マスターチンハイの目的は、私たちに自力で成し遂げることを教えることです。ですから、  
私たち誰もが自分でできる法門を教えているのです。何の小道具も、装置もありません。マス  
ターチンハイは追隨者や崇拜者、弟子を求めているわけではありません。会費制の組織でもあ  
りません。お金や贈り物を受け取らず、礼拝されることも望みません。そうしたことをする必  
要はまったくありません。

マスターチンハイはあなたの日々の生活においての誠実さと、聖人へと向上したいというメ  
デイテーション（座禪）の修行の誠実さだけを受け入れるのです。



## 五つの指針

- 一 殺生をしない  
ビーガン（完全菜食）を守ること。肉類、乳製品、魚介類、家禽類
- 二 嘘をつかない  
卵（有精卵、無精卵も）は食べてはいけない。
- 三 盗みをしない
- 四 邪淫をしない
- 五 酒を飲まない  
酒類、麻薬、タバコ、ギャンブル、ポルノ、過度の暴力映画や書物、  
テレビゲームなど、心身に悪影響を与えるものは用いないこと。

## 出版物の紹介

日々の生活において、私たちの霊性の上昇と靈感を得るために、スプリームマスター チンハイの教理の貴重な出版物を、書籍、ビデオテープ、音楽カセット、DVD、MP3、CDとして入手できます。

出版されている書籍、テープに加えて、インターネットで多種多様なマスターの教理に、無料でアクセスできます。例えば、いくつかのウェブサイトでは、頻繁に発行されているニュースマガジンを紹介しています。(下記の「観音ウェブサイト」をご覧ください) 他のオンライン出版物はマスターの詩、霊性を鼓舞させる甘露法語、ビデオ、オーディオの講義もあります。

更に広く、出版物が供給されていて、現在インターネットからが入手できます。マスターの紹介の小冊子「即刻開悟の鍵」(80カ国語以上)です。どうぞ、下記のウェブサイトアクセスしてください。

<http://sb.godsdirectcontact.net/> (Formosa) (U.S.A.)

<http://www.direkter-kontakt-mit-gott.org/download>(Austria)

## 書 籍

### 即刻開悟の鍵 スプリームマスター チンハイの講演集

オウラック語 (1~15巻) 中国語 (1~10巻) 韓国語 (1~11巻) タイ語 (1~6巻)  
英語 (1~5巻) インドネシア語 (1~5巻) 日本語 (1~4巻) スペイン語 (1~3巻)  
モンゴル語 (1,6巻) ドイツ語 ポルトガル語 ポーランド語 フランス語 (1~2巻)  
ハンガリー語 チベット語 スウェーデン語 フィンランド語 (各1巻)

### 即刻開悟の鍵 問答集 スプリームマスター チンハイの問答による講演集

オウラック語 韓国語 (1~4巻) 中国語 インドネシア語 (1~3巻)  
英語 (1~2巻) 日本語 フランス語 ドイツ語 ポルトガル語 ポーランド語  
ロシア語 ブルガリア語 チェコ語 ハンガリー語 (各1巻)

**即刻開悟の鍵 特別編 1993年 世界講演ツアー**

1993年スプリームマスター チンハイ世界講演ツアーの講演集 全6巻

英語 中国語 (各1~6巻)

**即刻開悟の鍵 特別編 禅七 1992年フォルモサ三地門、禅七での講演集**

英語 オウラック語

**即刻開悟の鍵 マスターと弟子の往復書簡**

中国語 (1~3巻) オウラック語 (1~2巻) 英語 スペイン語 (各1巻)

**即刻開悟の鍵 神奇感應 中国語 オウラック語 (1~2巻)**

**マスターが話す「物語」**

中国語 英語 オウラック語 日本語 韓国語 スペイン語 タイ語

**生命を彩るために 霊性の教理精選集**

中国語 英語 オウラック語

**神はすべての面倒を見る スプリームマスターチンハイによる智慧の漫画集**

オウラック語 中国語 英語 日本語 フランス語 韓国語

**光輪がきつすぎる！ スプリームマスターチンハイ 悟りの笑い話集 CD付**

中国語/英語

**気軽に修行する秘訣 中国語 英語 オウラック語**

**平和への道 神と直接つながる**

1999年スプリームマスター チンハイ ヨーロッパ講演ツアー講演集 英語中国語

**神と人間と 聖書物語からの洞察**

この特別な選集は、様々な機会にマスターが話された13話の聖書物語が含まれている

中国語 英語

**健康を理解するー自然な正しい生き方に戻る**

英語 中国語

**I Have Come To Take You Home マスターの特別な講義の引用集**

英語 ドイツ語 ポーランド語 韓国語 オウラック語 イタリア語 ハンガリー語  
インドネシア語 ブルガリア語 フランス語 チェコ語 トルコ語 スペイン語 中国語  
ギリシャ語 アラビア語 ルーマニア語 ロシア語 モンゴル語

## 甘露法語 1 マスターによる永遠の智慧の宝石

中国語／英語 韓国語／英語 日本語／英語 ドイツ語／フランス語  
スペイン語／ポルトガル語

## 甘露法語 2 マスターによる永遠の智慧の宝石

中国語／英語

## スプリームキッチン 1 世界のベジタリアン料理集

英語／中国語 日本語訳（別冊） オウラック語

## スプリームキッチン 2 家庭料理集 英語／中国語

## 音楽を通して、平和な一つの世界を ロサンゼルスでの慈善コンサートの

インタビューとミュージカル作品集 中国語／英語／オウラック語

## スプリームマスター チンハイ 芸術創作集 中国語／英語

## セレスチャルクローズ集（6） 英語／中国語（1～6巻）

## ドッグ イン マイライフ 1, 2

マスターが彼女の犬の仲間について愉快的な実生活を出版 2冊の本は500ページ  
オウラック語 英語 中国語 日本語 韓国語 スペイン語 ポーランド語 ドイツ語

## バード イン マイライフ

美しいイラスト集 マスターは動物の霊性世界を開かせる秘密を示す

英語 中国語 オウラック語 フランス語 ドイツ語 韓国語 モンゴル語 ロシア語  
インドネシア語 アラビア語

## 気高い野生動物

マスター自ら愛情込めて撮影した写真によって構成 美しい詩、素晴らしい写真が  
満載 奥深い記録物語の中で彼女の湖畔探索を話し、動物の友が生まれ持つ気高  
い品性について啓示

英語 中国語 オウラック語 フランス語 ドイツ語 韓国語 モンゴル語

## セレスチャルアート

セレスチャルアートは作者が真実と徳、天上の美を反映するため、スピリチュア  
ルな視点から芸術創作を解き明した卓越した作品集です 読者はスプリームマ  
スターチンハイによるアートの無限の世界へと招待され、神の共鳴を通して引き上

げられます詩人としての奥深い感情、画家としての精妙な筆使い、デザイナーとしての独自のアイディア、そして音楽家としてのロマンチックな心に、深い感銘を受けます。何にもまして靈性の師としての智慧と慈悲心とを祝福と共に知るでしょう 中国語／英語

## 危機から平和へ

オウラック語 中国語 英語 オランダ語 韓国語 フランス語 ハンガリー語 インドネシア語 日本語 ノールウェイ語 スペイン語 スウェーデン語 タイ語 ポルトガル語ポーランド語 ロシア語 ルーマニア語

## Thoughts on Life and Consciousness

Dr. Janez 著 中国語

## The Real Love

英語／中国語

# 詩 集

## <書 籍>

### 沈黙の涙 マスター著作の詩集

ドイツ語／フランス語 中国語／英語 オウラック語 英語 スペイン語 ポルトガル語 韓国語 フィリピン語

無子詩 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

胡蝶の夢 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

過去の足跡 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

懐かしき日々 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

Pebble and Gold マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

失われた思い出 マスター著作の詩集 オウラック語 中国語 英語

### 世紀を超えた愛の人 マスター著作の詩集

オウラック語 中国語 英語 フランス語 ドイツ語 韓国語 モンゴル語 スペイン語

真実の愛 中国語 英語 MP3

沈黙の涙・珍重版 中国語 英語 MP3 MP4

### <CD&DVD>

時空を超えて(オウラック語の歌唱) MP3 MP4

A Touch of Fragrance (著名な歌手によるオウラック語の歌唱) MP3

That and This Day(オウラック語の朗読) MP3

夜の夢(オウラック語の歌唱) MP3 MP4

T-C-L Please(オウラック語の歌唱) MP3

Please keep Forever(オウラック語の朗読) MP3

スプリームマスターチンハイ 歌曲集 英語 オウラック語 中国語 MP3

愛の歌 (名曲を英語で歌唱 オウラック語創作歌曲を歌唱) MP4

珠玉の詩 (著名なオウラック語の詩から オウラック語の朗読) MP3 MP4(1&2)

黄金の蓮 (オウラック語の朗読) MP3 MP4

スプリームマスター チンハイの美声を通して、Thich Man Giacの美しい詩の世界に誘う 黄金の蓮、さよならの2曲を朗読

Ancient Love (オウラック語の朗読) MP3 MP4

過去の足跡 (オウラック語の朗読) MP3(1, 2 &3) MP4 DVD (17 カ国語字幕)

A Path to Love Legends (著名なオウラックの詩 オウラック語の朗読)  
MP3 (1, 2 &3)

\*A Path to Love Legends、Ancient Love、時空を超えて、夜の夢、Please keep Forever、That and This Day、過去の足跡、珠玉の詩、黄金の蓮、T-C-L Pleaseは、彼女自身曲をつけ、歌唱している

### 音楽カセットテープ&CD

マスターから私たちへの音楽の贈り物は、琴、琵琶などの伝統楽器で演奏された、仏讃、詩、オリジナル曲が含まれます。多くの音楽曲や講義はカセットテープやCD共に入手できます

仏讃 CD1、2、3(メディテーション 仏讃)

Holy Chanting Hallelujah

マスターの作曲による作品集 CD1 -9 オリジナル曲はdulcimer ハープ、  
ピアノ、中国琴、電子ピアノなどで演奏されています

## 私たちへの連絡方法

スプリームマスター チンハイ インターナショナルアソシエーション

中華民国 36899 苗栗西湖郵政九號信箱

P.O.Box730247, San Jose, CA95173-0247, U.S.A

スプリームマスターテレビジョン

E メール: [Peace@SupremeMasterTV.com](mailto:Peace@SupremeMasterTV.com)

Tel: 1-626-444-4385 / Fax: 1-626-444-4386

書籍部

E メール: [divine@Godsdirectcontact.org](mailto:divine@Godsdirectcontact.org)

マスターの出版物を各国言語に翻訳してくださる方を大歓迎いたします

ニュースグループ

E メール: [lovenews@Godsdirectcontact.org](mailto:lovenews@Godsdirectcontact.org)

S.M. セレスチャル社

E メール: [smclothes123@gmail.com](mailto:smclothes123@gmail.com); [vegan999@hotmail.com](mailto:vegan999@hotmail.com)

Tel: 886-3-4601391 / Fax: 886-3-4602857

<http://www.smcelestial.com> <http://www.sm-celestial.com>

スピリチュアルインフォメーションデスク

E メール: [lovewish@Godsdirectcontact.org](mailto:lovewish@Godsdirectcontact.org) Fax: 886-946-730699

スプリームマスター チンハイ インターナショナルアソシエーション出版社

フォルモサ・台北

E メール: [smchbooks@Godsdirectcontact.org](mailto:smchbooks@Godsdirectcontact.org)

Tel: 886-2-23759688 / Fax: 886-2-23757689

<http://www.smchbooks.com>



## オンラインショップ

Celestial Shop: <http://www.theCelestialShop.com> (English)

Eden Rules: <http://www.EdenRules.com> (Chinese)

## ラビングハット インターナショナルカンパニー

Tel: 886-2-2239-4556 / Fax: 886-2-2239-5210

E メール: [info@lovinghut.com](mailto:info@lovinghut.com)

<http://www.lovinghut.com/tw/>

## 観音Webサイト

神と直接繋がる…スプリームマスター チンハイ I. A. の観音Webサイトにリンクしてください

<http://www.godsdirectcontact.org.tw/eng/links.htm>

こちらから各国語の観音Webサイトにアクセスできます。また24時間放送のネットTV「SMTV」「芸術と霊性」などの番組をご覧いただけます。各国語の「即刻開悟の鍵」小冊子のダウンロード、「ニュースマガジン」の購読、電子版をダウンロードができます。ライン上で閲覧もできます。

## スプリームマスターテレビジョン

スプリームマスターTVは主にポジティブな番組を放映するチャンネルで、新しい霊的視野を提供し、あなたの人生を充実させます。24時間放送の「スプリームマスターTV」は次のWEBサイトをご覧ください。

<http://www.suprememastertv.com>

《即刻開悟の鍵》各国語の小冊子 無料ダウンロードサイト (80カ国語)

<http://sb.Godsdirectcontact.net>

<http://www.direkter-kontakt-mit-gott.org/booklet>

## 即刻開悟の鍵 2

作 者 スプリームマスター チンハイ  
翻 訳 日本翻訳グループ  
出 版 社 スプリームマスター チンハイ  
インターナショナル アソシエーション出版社  
住 所 福爾摩沙台北市中正區忠孝路一段 72 號 8 樓 16  
(郵便番号 100)  
初 版 2000 年 1 月  
e-Book 2016 年 4 月

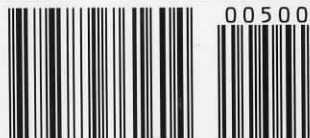
The Supreme Master Ching Hai ©2007~2016

著作権者 スプリームマスター チンハイ

\* 出版社の同意の上、本書の内容の転載は歓迎します

私たち The Supreme Master Ching Hai に学ぶ者は、究極の真理を探究するなかで、苦難を経験してきました。ですから、私たちはもともと内在している智慧を目覚めさせ、この真理を認識させる最高の法門を教えてくれる、完全に開悟した生きているマスターをみつけることが、どれほど困難で稀なことかを理解しています。そして、この法門は古代よりあらゆる真のマスターたちによって教えられてきたのです。この法門を実行することで、深い利益が得られることを体験してきた私たちは、一世での魂の永遠の解脱を心から望んでいる真の探究者や、人生や生死、靈的修行や真理に関するさまざまな疑問の答えを見いだそうとしている人々の手助けとなるよう、The Supreme Master Ching Hai が世界各国で行なった講演集をここに贈ります。

ISBN 957-97616-0-4



9 789579 761604